

平成25年度 昼間スクーリングの手引

スクーリング受講手続日程

① 受講手続説明会	4 / 4 (木)	在学生 ^{※1}
	4 / 5 (金)	午前：在学生 午後：新入生 ^{※2}
	4 / 15 (月)	新入生
② 受講届提出締切	4 / 19 (金)	窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【締切日消印有効】
受講許可通知書発送予定日	5 / 15 (水)	※発送予定日から数日経過しても通知が届かない場合は、会計課へ連絡してください。
③ 受講料振込期限	5 / 27 (月)	銀行窓口にて【締切日厳守】
④ 結果通知	平成 26 年 2 月中旬 発送予定	
※1 在学生…平成 24 年度以前に入学した 在学生 及び、 平成 24 年度の 科目履修生 で平成 25 年度継続者		
※2 新入生…平成 25 年度 1 学年入学生 及び 編入学生 、 科目履修生		

開講日程

前 期	4 / 9 (火) ~ 7 / 26 (金)
後 期	9 / 17 (火) ~ 1 / 17 (金)
試 験 期 間	1 / 21 (火) ~ 1 / 24 (金)
補 講 予 定 日	7 / 20 (土), 7 / 22 (月), 1 / 18 (土), 1 / 20 (月)



日本大学通信教育部

開 講 日 程

開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土
平成 25 年	4月		1	2	3	4 受講手續説明会	5 受講手續説明会	6
		7	8	9 昼1	10 昼1	11 昼1	12 昼1	13
		14	15 受講手續説明会	16 昼2	17 昼2	18 昼2	19 昼2 受講届締切日	20
		21	22	23 昼3	24 昼3	25 昼3	26 昼3	27
		28	29 昭和の日	30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
	5月	5 こどもの日	6 振替休日	7 昼4	8 昼4	9 昼4	10 昼4	11
		12	13	14 昼5	15 昼5	16 昼5	17 昼5	18 軽井沢 オリエンテーション
		19 軽井沢 オリエンテーション	20	21 昼6	22 昼6	23 昼6	24 昼6	25
		26	27	28 昼7	29 昼7	30 昼7	31 昼7	1
	6月	2	3	4 昼8	5 昼8	6 昼8	7 昼8	8
		9	10	11 昼9	12 昼9	13 昼9	14 昼9	15
		16	17	18 昼10	19 昼10	20 昼10	21 昼10	22
		23	24	25 昼11	26 昼11	27 昼11	28 昼11	29
		30	1	2 昼12	3 昼12	4 昼12	5 昼12	6
	7月	7	8	9 昼13	10 昼13	11 昼13	12 昼13	13
		14	15 海の日	16 昼14	17 昼14	18 昼14	19 昼14	20 昼補講
		21	22 昼補講	23 昼15	24 昼15	25 昼15	26 昼15	27
		28	29	30	31	1	2	3
	8月	4	5	6	7	8	9	10
	夏 休 み							
	9月	25	26	27	28	29	30	31
	9月	1	2 保健体育講義Ⅰ 体育実技	3 保健体育講義Ⅰ 体育実技	4 保健体育講義Ⅰ 体育実技	5 保健体育講義Ⅰ 体育実技	6 体育実技	7
		8	9	10	11	12	13	14
		15	16 敬老の日	17 昼16	18 昼16	19 昼16	20 昼16	21
		22	23 秋分の日	24 昼17	25 昼17	26 昼17	27 昼17	28
		29	30	1 昼18	2 昼18	3 昼18	4 創立記念日	5
	10月	6	7	8 昼19	9 昼19	10 昼19	11 昼18	12
		13	14 体育の日	15 昼20	16 昼20	17 昼20	18 昼19	19
		20	21	22 昼21	23 昼21	24 昼21	25 昼20	26
		27	28	29 昼22	30 昼22	31 昼22	1 昼21	2
	11月	3 文化の日	4 振替休日	5 昼23	6 昼23	7 昼23	8 昼22	9
		10	11	12 昼24	13 昼24	14 昼24	15 昼23	16
		17	18	19 昼25	20 昼25	21 昼25	22 昼24	23 勤労感謝の日
		24	25	26 昼26	27 昼26	28 昼26	29 昼25	30
	12月	1	2	3 昼27	4 昼27	5 昼27	6 昼26	7
		8	9	10 昼28	11 昼28	12 昼28	13 昼27	14
		15	16	17 昼29	18 昼29	19 昼29	20 昼28	21
		22	23 天皇誕生日	24	25	26	27	28
		29	30	31	1 元日	2	3	4
平成 26 年	1月	5	6	7	8	9	10 昼29	11
		12	13 成人の日	14 昼30	15 昼30	16 昼30	17 昼30	18 昼補講
		19	20 昼補講	21 昼試験	22 昼試験	23 昼試験	24 昼試験	25
		26	27	28	29	30	31	

…授業日及び補講日

補講は7月20日(土), 7月22日(月), 平成26年1月18日(土), 平成26年1月20日(月)の4日間だけでなく, その他の月曜日・土曜日にも実施することがあります。補講が行われる場合, 指定された補講日に出席が求められます。

また補講を行う時限は他講座の補講日程の関係上, 必ずしも通常と同じ時限で開講されるものとは限りません。以上のことを承知した上で申込みをしてください。

はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学習では十分に学習効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

昼間スクーリングの特色

昼間スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、年間を通して一貫した内容の授業を行うことにあります。したがって、受講手続きは、他のスクーリングと異なり、年度始めに1回となります。

また、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文を期待しています。

なお、既に述べたとおり、このスクーリングは年間を通して行うため、平成25年9月卒業希望者及び平成25年度途中で学籍を失効する学生等は、このスクーリングを受講することはできませんので注意してください。

【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65 名	5 名
演 習 講 座	30 名	5 名
上記以外の講座	100 名	10 名

〔調整方法等〕

- 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
- 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 上記①・②の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることがあります。
- 「受講許可講座」及び「講師」の決定は、受講許可通知書にて通知します。したがって、受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

目 次

I	受講申込から受講料納入までの流れ	2
II	時間割	4
	1 2 学年以上の時間割	4
	2 1 学年学部学科別の時間割	6
	3 卒業論文指導時間割	10
	4 保健体育講義 I, 体育実技の受講について	11
III	開講講座表	14
	1 「開講講座表」の見方	14
	2 開講講座表	15
IV	受講講座の選定	22
	1 受講申込対象者	22
	2 受講講座数	22
	3 受講制限	22
V	受講手続	24
	1 講座を申し込む	24
	2 受講届を提出する	26
	3 申込講座の変更・追加	26
	4 受講許可通知書を確認する	27
	5 受講料等の納入	29
	6 使用教材の購入	30
VI	受講及び試験	34
	1 講座受講時の注意点	34
	2 試験受験時の注意点	35
	3 スクーリング結果の確認	37
VII	シラバスと使用教材	38
VIII	通学定期券の購入手続	88
IX	軽井沢オリエンテーション	90
X	胸部 X 線検査	92
XI	カリキュラム	94
XII	各種用紙	97
	「為替」送付時の注意事項	98
	教材購入用紙（丸沼書店用）	99
	教材購入願（通信教育教材購入用）	101
	軽井沢オリエンテーション参加申込書	103
	平成 25 年度 昼間スクーリング受講届	

① 受講手続説明会

『昼間スクーリングの手引』を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。



② 授業開始までの準備

授業期間は 30 週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択してください。特に下記の項目を事前に確認すること。

① 開講日程及び時間割 ② 使用教材（教科書）の有無

③ 準備学習 ④ 成績評価基準

【要確認】授業期間及び試験期間に出席可能なこと。



③ 授業開始 第 1 週 4 月 9 日（火） ～ 12 日（金）

各授業の第 1 週目は、ガイダンスを行うことが多く、今後の授業の方法、授業計画、準備学習、テキスト及び成績評価基準についての説明があります。

※ 選択した講座を受講するか確認してください。

○ 受講講座決定の学生

受講届に必要な事項を記入し、4 月 19 日（金）までに教務課へ提出。

● 受講講座再度検討の学生

別の講座を選択し、第 2 週から受講する。

※ その際、第 1 週を受講していなかった旨を担当講師に伝えること。

受講希望者が多い講座や少ない講座は、大学側で受講の調整を行うことがあります（「受講の調整について」参照）。

特に「情報概論」（パソコン台数制限有）、外国語科目・演習科目（受講者数上限有）については、受講希望者多数の場合、受講調整を行います。あらかじめ了承の上検討してください。



④ 授業 第 2 週 4 月 16 日（火） ～ 19 日（金）

各授業の第 2 週目は、本格的な授業に入ります。

第 1 週の授業を受講したが、受講講座が未決定の学生はスクーリング第 2 週目を受講し、4 月 19 日（金）までに受講届を提出してください。

○ 第 1 週で講座を決定し手続を済ませている学生は、必要ありません。



⑤ 受講届提出

提出締切：4月19日（金）
18：30（事務取扱時間）まで
提出先：（郵送）提出締切日 消印有効
（窓口）教務課窓口提出のみ 事務取扱時間内厳守
1号館1階ポストの提出は不可
（教務課で確認し受け付けをするため）

- ※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。
- ※2 提出期限を過ぎてからの講座変更及び辞退はできません。また受講講座の追加募集は行いませんので、4月19日（金）までに受講する全ての講座を決定した上で提出してください。
- ※3 後期のみ開講する講座及び「保健体育講義Ⅰ」、「体育実技Ⅰ・Ⅱ」も一括して申し込んでください。昼間スクーリングの申込みはこの1回のみです。



⑥ 受講許可通知書の発送

提出された「受講届」に基づき、大学が受講審査を行い、「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」を送付します。

発送予定日：5月15日（水）

届きしだい、必ず以下の記載内容を確認してください！

- ※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師
- ※2 充当科目コード
特に外国語科目、各種演習科目に注意。
- ※3 受講料（1講座20,000円、前期及び後期のみ開講する科目は1講座10,000円）



⑦ 受講料の納入

「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」記載事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。

受講料納入期限：5月27日（月）
銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで

⑧ 昼間スクーリングの
手続完了

昼間スクーリングの手続は完了しました。
「スクーリング受講許可通知書」は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

Ⅱ 時間割

1 2 学年以上の時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限目 9 : 00 } 10 : 30	法学 A	高須 則行	経済学	田村 和彦
	政治学	関根 二三夫		
	TOEIC A	八木 茂那子		
	西洋史概説	高草木 邦人		
	経営管理論	山田 敏之		
2 時限目 10 : 40 } 12 : 10	文学	野口 恵子	英語 C	岡田 善明
	法哲学	高須 則行	英語音声学	森 晴代
	国際政治学	大八木 時広	西洋思想史Ⅰ	杉山 晃太郎
	英文法	真野 一雄	日本史特講Ⅰ	鍋本 由徳
	日本史概説	鍋本 由徳		
	労働経済論	今井 拓		
	マーケティング	佐藤 稔		
3 時限目 13 : 00 } 14 : 30	英語基礎 A	飯野 朝世	心理学	野村 康治
	日本史入門	竹中 眞幸	英語 D	北原 安治
	民法Ⅳ	根本 晋一	英語基礎 B	町田 純子
	英米文学演習	猪野 恵也	国文学講義Ⅵ（現代）	永岡 健右
	日本経済論	飯島 正義	日本思想史Ⅱ	島田 健太郎
	商業政策	佐藤 稔		
4 時限目 14 : 40 } 16 : 10	英語 A	小山 誠子	哲学 A	三箇 文夫
	民法	根本 晋一	TOEIC B	町田 純子
	商法Ⅰ	高岸 直樹	国文学基礎講義	木村 一
	日本政治史	黒川 貢三郎	政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	秋山 和宏
	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤 健史	アメリカ文学史	北原 安治
	史学概論	高綱 博文	倫理学概論	笹井 和夫
	金融論	谷川 孝美	経済原論	片平 光昭
			商業史	横山 則孝
5 時限目 16 : 20 } 17 : 50	英語 B	鈴木 ふさ子	歴史学 A	渡邊 浩史
			東洋史特講Ⅲ	堀井 弘一郎
			簿記論Ⅰ	林 徳順

開講日程

前 期	4 / 9 ~ 7 / 26	補 講 予 定 日	7 / 20, 22
後 期	9 / 17 ~ 1 / 17		1 / 18, 20
試 験 期 間	1 / 21 ~ 1 / 24		

保健体育科目開講日程

保 健 体 育 講 義 Ⅰ	9 / 2 ~ 9 / 5	9 : 00 ~ 12 : 00
体 育 実 技 Ⅰ ・ Ⅱ	9 / 2 ~ 9 / 5	13 : 00 ~ 16 : 50
	9 / 6	9 : 00 ~ 16 : 50

※保健体育科目は他の科目と開講期間、授業時間及び会場が異なるため注意が必要です。
詳細は11ページを参照してください。

木曜日		金曜日		時限
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	
行政学	関根 二三夫	考古学概説	西野 吉論	1 時限目 9:00 } 10:30
情報概論 A	中村 典裕	現代教職論〔前期のみ〕	古賀 徹	
		経済地理学	田村 和彦	
ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸	法学 B	遠藤 清臣	2 時限目 10:40 } 12:10
英語学概説	真野 一雄	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭 克夫	
東洋史入門	綿貫 哲郎	英作文Ⅰ〔前期のみ〕	アレックス ブラウン	
憲法	名雪 健二	英作文Ⅱ〔後期のみ〕	アレックス ブラウン	
刑法Ⅰ	船山 泰範	教育原論／教育の思想 〔前期のみ〕	古賀 徹	
国文学基礎演習	近藤 健史	教育の方法・技術論 〔後期のみ〕	古賀 徹	
経済学概論	陸 亦群			
英語 E	石川 勝	哲学 B	江川 晃	3 時限目 13:00 } 14:30
イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	英語 G	中村 則子	
日本史演習	竹中 眞幸	政治学原論	吉野 篤	
国際経済論	陸 亦群	広告論	樋口 紀男	
英語 F	大住 有里子	社会学	服部 慶巨	4 時限目 14:40 } 16:10
歴史学 B	片倉 芳和	英語 H	中村 則子	
科学哲学	本間 司	中国語Ⅰ・Ⅱ	稲葉 明子	
		哲学基礎講読	瀧田 寧	
		国文学史Ⅱ	山崎 泉	
国語学基礎演習	三宅 和子	英語 J	青木 克憲	5 時限目 16:20 } 17:50
哲学演習	本間 司	民法Ⅴ	堀切 忠和	
東洋史演習	高綱 博文	西洋史演習	藤井 信行	
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ 〔前期のみ〕	古賀 徹	情報概論 B	一島 力男	
社会科・公民科教育法Ⅰ 〔後期のみ〕	古賀 徹	商品学	鄭 舜玉	

半期開講科目						
	曜日・時限	講座名	曜日・時限	講座名	曜日・時限	講座名
前期開講科目 4/9～7/26	木曜5時限	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	金曜1時限	現代教職論	金曜2時限	英作文Ⅰ
	金曜2時限	教育原論／教育の思想				
後期開講科目 9/17～1/17	木曜5時限	社会科・公民科教育法Ⅰ	金曜2時限	英作文Ⅱ	金曜2時限	教育の方法・技術論

2 1 学年学部学科別の時間割

① 1 年生が昼間スクーリングにおいて修得可能な科目

授業科目区分	総合教育科目	外国語科目	保健体育科目	専門教育科目	自由選択科目
① 卒業所定単位	20 単位	8 単位 ・文学専攻（英文学）のみ英語で10単位が必要。	2 単位	94 単位 ・文学専攻（英文学）のみ92単位 ・経済学部・商学部のみ82単位	経済学部・商学部のみ12単位
② 昼間スクーリングにおいて1 学年で修得可能な単位数	20 単位	8 単位 （英語を選択した場合） 2 単位 （英語以外を選択した場合）	2 単位	学部・専攻部門により異なるため、学習要覧にて確認してください。	
③ 昼間スクーリングにおいて1 学年で修得可能な科目	哲学	英語Ⅰ	保健体育講義Ⅰ	下表のとおり	総合教育科目、外国語科目又は、自学部の専門教育科目の中から選択
	歴史学	英語Ⅱ			
	文学	英語基礎※2			
	法学	TOEIC			
	社会学	ドイツ語Ⅰ	体育実技Ⅰ		
	政治学	フランス語Ⅰ			
	経済学※1	中国語Ⅰ			
	心理学				

	法律	政治経済	文学専攻 (国文学)	文学専攻 (英文学)	哲学専攻	史学専攻	経済	商業
③ 昼間スクーリングにおける開講科目	憲法	憲法	国文学基礎講義	英文法	哲学基礎講義	日本史入門	経済学概論	簿記論Ⅰ
	刑法Ⅰ	政治学原論			西洋思想史Ⅰ		経済原論	
		経済学原論						

※ 1 経済学科では「経済学」を総合教育科目の20 単位の中に含めることができません。ただし、自由選択科目（12 単位）に含めることができます。

※ 2 文学専攻（英文学）は受講できません。

申込にあたって

①講座名について

科目名の後ろにあるアルファベットは複数開講講座を識別するために与えています。複数開講講座の場合は、必ず「科目名」＋「アルファベット」を『講座名』として表記しています。

②講座選択について

総合教育科目や外国語科目には、複数開講講座があります。その講座についてはどちらか1つを選択してください。

●総合教育科目 20 単位以上になるよう講座を選択してください。

※「哲学 A」「哲学 B」、「歴史学 A」「歴史学 B」、「法学 A」「法学 B」はそれぞれどちらか1つを選択してください。

●外国語科目

外国語科目「英語」の場合：

・「英語」の講座は複数開講しています。この授業内容は「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を含んでおり、各自が申込む際はどちらで受けるか意思表示をする必要があります。必ず申告してください。

・「英語基礎」「TOEIC」講座は複数開講していますが、1つしか受講できません。

※文理学部文学専攻（英文学）受講可能科目：「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「TOEIC」

それ以外の学科専攻の受講可能科目：「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「TOEIC」「英語基礎」

外国語科目「ドイツ語」の場合：

「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を選択してください。科目としては「ドイツ語Ⅰ（0051）」で登録されます。

外国語科目「フランス語」の場合：

「フランス語Ⅰ・Ⅱ」を選択してください。科目としては「フランス語Ⅰ（0056）」で登録されます。

外国語科目「中国語」場合：

「中国語Ⅰ・Ⅱ」を選択してください。科目としては「中国語Ⅰ（0061）」で登録されます。

●専門教育科目

上記③専門教育科目に記載された科目が受講可能科目です。

② 学部・専攻部門の時間割

(1) 法学部法律学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051) 憲法 刑法 I	法学 B フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学 英語 D 英語基礎 B	英語 E	哲学 B 英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H 中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(2) 法学部政治経済学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051) 憲法	法学 B フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学 英語 D 英語基礎 B	英語 E	哲学 B 英語 G 政治学原論
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B 経済原論 (経済学原論)	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H 中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(3) 文理学部文学専攻 (国文学)

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学 英語 D 英語基礎 B	英語 E	哲学 B 英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B 国文学基礎講義	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H 中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(4) 文理学部文学専攻（英文学）

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学 英文法	英語 C		法学 B
3 時限目 13:00～14:30		心理学 英語 D	英語 E	哲学 B 英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I 文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		体育実技 文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(5) 文理学部哲学専攻

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C 西洋思想史 I	ドイツ語 I (0051)	法学 B フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学 英語 D 英語基礎 B	英語 E	哲学 B 英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H 中国語 I (0061) 哲学基礎講読
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I 文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		体育実技 文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(6) 文理学部史学専攻

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A 日本史入門	心理学 英語 D 英語基礎 B	英語 E	哲学 B 英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H 中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I 文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		体育実技 文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(7) 経済学部経済学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051) 経済学概論	法学 B フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学 英語 D 英語基礎 B	英語 E	哲学 B 英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B 経済原論	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H 中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

(8) 商学部商業学科

時限	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 9:00～10:30	法学 A 政治学 TOEIC A	経済学		
2 時限目 10:40～12:10	文学	英語 C	ドイツ語 I (0051)	法学 B フランス語 I (0056)
3 時限目 13:00～14:30	英語基礎 A	心理学 英語 D 英語基礎 B	英語 E	哲学 B 英語 G
4 時限目 14:40～16:10	英語 A	哲学 A TOEIC B	英語 F 歴史学 B	社会学 英語 H 中国語 I (0061)
5 時限目 16:20～17:50	英語 B	歴史学 A 簿記論 I		英語 J
保健体育講義 I		体育実技		
文理学部校舎 9月2日～9月5日 午前		文理学部校舎 9月2日～9月5日 午後 9月6日のみ終日		

3 卒業論文指導時間割

- ① 昼間スクーリング開講期間中、下表の時間帯で開講されます。
 なお、補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
- ② 実施場所等は、通信教育部1号館1階掲示板にてお知らせします。
- ③ 指導開始時間には、実施場所に待機してください。
 ※ 開始時間に希望学生がいない場合には、指導を取やめる場合がありますので、ご了承ください。
- ④ 以下の担当教員の「個別」、「専門」指導は、当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日				水曜日		木曜日				金曜日	
1 時間目 9：00 ～ 10：30												
2 時間目 10：40 ～ 12：10					講師 田村 和彦 〔経済学科〕	講師 関根 二三夫 〔政治経済学科〕						
					指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項				一般	卒論作成に関する一般事項
						個別	経済地理学 地域経済				個別	政治学 行政学
		専門		専門								
3 時間目 13：00 ～ 14：30	講師 近藤 健史 〔文学専攻（国文学）〕					講師 真野 一雄 〔文学専攻（英文学）〕	講師 本間 司 〔哲学専攻〕					
						指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項			一般	卒論作成に関する一般事項
							個別	日本古典文学			個別	英語学
		専門	上代文学	専門	現代哲学							
4 時間目 14：40 ～ 16：10	講師 鍋本 由徳 〔史学専攻〕	講師 猪野 恵也 〔文学専攻（英文学）〕				講師 竹中 眞幸 〔史学専攻〕						
	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	一般	卒論作成に関する一般事項							
		個別	日本史 （中世・近世）	個別	イギリス文学							
		専門		専門								
	講師 佐藤 稔 〔商業学科〕											
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項										
	個別	商業政策										
	専門											
5 時間目 16：20 ～ 17：50	講師 根本 晋一 〔法律学科〕	講師 高綱 博文 〔史学専攻〕				講師 陸 亦群 〔経済学科〕						
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	一般	卒論作成に関する一般事項								
	個別	民法	個別	外国史								
	専門		専門	アジア近現代史								

4 保健体育講義Ⅰ，体育実技の受講について

保健体育講義Ⅰ及び体育実技は他の講座と異なり，日本大学文理学部にて実施されます。日程，授業時間等も異なりますので，以下の事項をよく確認してください。

① 日程

【雨天決行】

講座名	日 程	授業時間
保健体育講義Ⅰ	9月2日～9月5日	9：00～12：00
体育実技	9月2日～9月5日 9月6日のみ	13：00～16：50 9：00～16：50

※上記すべての日程に出席すること。

② 実施会場

保健体育講義Ⅰ：日本大学文理学部3号館

体 育 実 技：日本大学文理学部総合体育館及び百周年記念館

住 所 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

交通案内 京王線下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約10分

…次頁案内図参照

③ 持参物

- ・運動のできる服装（トレーニングウェア等）←
 - ・室内用運動靴 ←
 - ・健康保険証 ←
 - ・学生証
 - ・筆記用具
 - ・スクーリングの手引
 - ・スクーリング受講通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書（初回9月2日出席時は必携のこと）
- 「保健体育講義Ⅰ」のみの受講生は不要

④ 体育実技の集合場所・集合時間

日本大学文理学部総合体育館入口 12：45 から受け付け開始

※毎回，総合体育館入口に集合し，遅くとも授業開始5分前までに出席確認を受け，更衣した後，実施会場に移動してください。

⑤ 受講について

体育実技は必修科目となっていますが，疾病及び身体等の障害により実技を行うことが困難であると思われる方は，受講申込前（受講届提出前）に教務課までお問い合わせください。

⑥ 注意事項

- (1) 体育実技はジーンズや普段着での受講はできません。
- (2) 文理学部周辺は住宅地で付近に食事をする場所が少なく，また，当日，文理学部内の食堂は利用できない可能性があるため，食事は事前に済ませるか，持参することをお勧めいたします。
- (3) 体育実技の更衣室は文理学部総合体育館及び百周年記念館内にあります。ただし，更衣室内のロッカーは使用できないため，更衣後，荷物は受講会場へ持参してください。
- (4) 貴重品は各自で管理してください。
- (5) 体育実技は授業開始15分前から出席をとります。受付及び更衣の時間を考慮の上，必ず遅れることのないようにしてください。

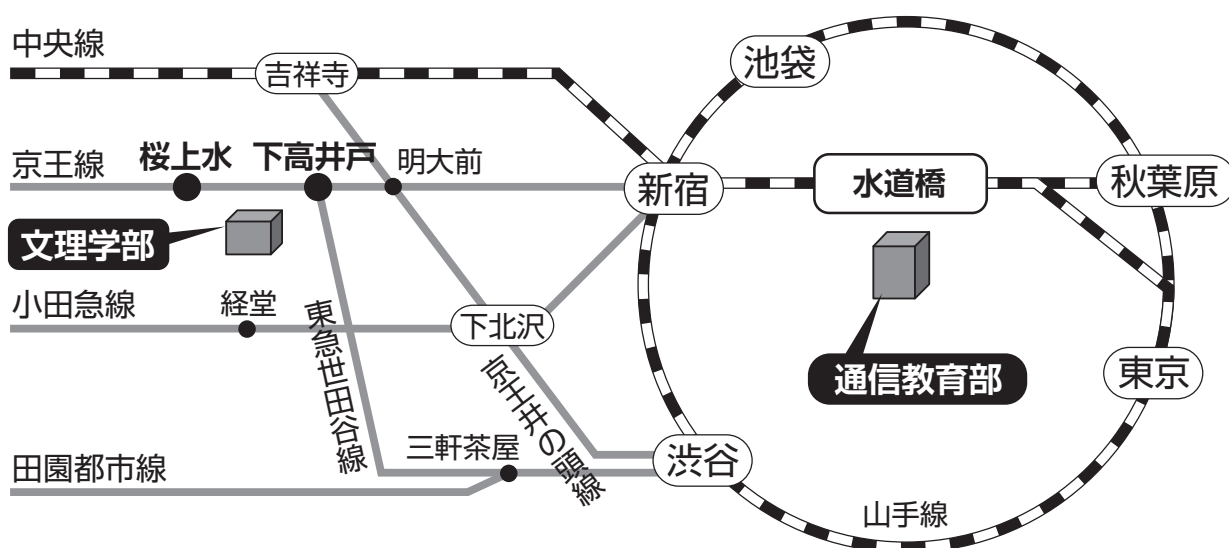
文理学部までの交通

○JR 水道橋駅から

JR 総武線・中央線各駅停車（新宿・中野方面）で新宿駅下車。京王線各駅停車，快速及び急行のいずれかに乗り換え，下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分。通信教育部から約 45 分。

○都営地下鉄新宿線神保町駅から

新宿・笹塚方面，笹塚駅下車。京王線各駅停車，快速及び急行のいずれかに乗り換え，下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分。通信教育部から約 40 分。



MEMO

開講講座表

受講講座の選定

受講手續

受講及び試験

シラバスと
使用教材

通学定期券の
購入手続

軽井沢オリエン
テーション

胸部X線検査

カリキュラム

各種用紙

1 「開講講座表」の見方

(表は見やすいように網掛けが入っています)

【曜日】【時限】

各講座の開講される曜日・時限を記載しています。

【講座コード】

スクーリングで開講される講座のコード番号です。講座(担当講師)を識別するために設けられています。受講届の講座コード欄(2桁)にはこの講座コードを記入してください。

【開講講座名】

英語等は複数開講されていますので、講座名の後ろにアルファベット等を記載し各講座を識別しています。講座名の記入にあたっては必ず識別毎の講座名を記入してください。

【充当科目コード・充当科目名】

開講講座の単位修得により充当される科目名及びその科目のコード番号です。充当したい科目をこのコード番号によって申告してください。

受講届の充当科目コード欄(4桁)には、この充当科目コードを記入してください。

【制限・注意】

【配当学年】

各講座を申し込むことができるようになる学年が記載されています。記載された学年に達していない学年は申し込むことができません。

【カリキュラム】

各講座の受講対象の適用するカリキュラム及び免許法課程の条件を記載しています。該当カリキュラムによって科目名が異なる講座もありますので注意してください。記載のない科目は全カリキュラムが対象となります。

【受講条件】

その他の受講制限及び諸注意等を記載しています。

2 開講講座表【科目コード順】

※見やすいように1講座ごとに網掛けをしています。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	カリ キュ ラム	受 講 条 件
水	4	CB	哲 学 A	三箇 文夫	0011	哲 学	1 年		
金	3	EA	哲 学 B	江川 晃	0011	哲 学	1 年		
水	5	CK	歴 史 学 A	渡邊 浩史	0015	歴 史 学	1 年		
木	4	DF	歴 史 学 B	片倉 芳和	0015	歴 史 学	1 年		
火	2	B6	文 学	野口 恵子	0017	文 学	1 年		
火	1	B1	法 学 A	高須 則行	0021	法 学 (日本国憲法2単位を含む)	1 年		
金	2	E4	法 学 B	遠藤 清臣	0021	法 学 (日本国憲法2単位を含む)	1 年		
金	4	EE	社 会 学	服部 慶亘	0022	社 会 学	1 年		
火	1	B2	政 治 学	関根 二三夫	0023	政 治 学	1 年		
水	1	C1	経 済 学	田村 和彦	0024	経 済 学	1 年		
水	3	C6	心 理 学	野村 康治	0035	心 理 学	1 年		
火	4	BK	英 語 A	小山 誠子	0041	英 語 I	1 年		I～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
火	5	BR	英 語 B	鈴木 ふさ子	0041	英 語 I	1 年		I～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
水	2	C2	英 語 C	岡田 善明	0041	英 語 I	1 年		I～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜 日	時 限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担 当 講 師 名	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配 当 学年	カリ キュ ラム	受 講 条 件
水	3	C7	英 語 D	北原 安 治	0041	英 語 I	1 年		I ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
木	3	DA	英 語 E	石川 勝	0041	英 語 I	1 年		I ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
木	4	DE	英 語 F	大住 有里子	0041	英 語 I	1 年		I ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
金	3	EB	英 語 G	中村 則子	0041	英 語 I	1 年		I ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
金	4	EF	英 語 H	中村 則子	0041	英 語 I	1 年		I ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
金	5	EK	英 語 J	青木 克憲	0041	英 語 I	1 年		I ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					0042	英 語 II			
					0043	英 語 III	2 年		
					0044	英 語 IV			
火	3	BD	英 語 基 礎 A	飯野 朝世	0046	英 語 基 礎	1 年	D	英文学専攻は申込不可
水	3	C8	英 語 基 礎 B	町田 純子	0046	英 語 基 礎	1 年	D	英文学専攻は申込不可
火	1	B3	T O E I C A	八木 茂那子	0048	T O E I C	1 年	D	
水	4	CC	T O E I C B	町田 純子	0048	T O E I C	1 年	D	

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意	
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	カリ キュラム
木	2	D3	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸	0051	ドイツ語Ⅰ	1年	
					0052	ドイツ語Ⅱ		
金	2	E5	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭 克夫	0056	フランス語Ⅰ	1年	
					0057	フランス語Ⅱ		
金	4	EG	中国語Ⅰ・Ⅱ	稲葉 明子	0061	中国語Ⅰ	1年	
					0062	中国語Ⅱ		
9/2 ～ 9/5 午前		T1	保健体育講義Ⅰ	吉本 俊明	0074	保健体育講義Ⅰ	1年	
9/2 ～ 9/5 午前		T2	体 育 実 技	吉本 俊明	0077	体育実技Ⅰ	1年	
9/6 終日					0078	体育実技Ⅱ		
水	4	CD	国文学基礎講義	木村 一	0081	国文学基礎講義	条件 参照	国文学専攻のみ1学年以上 申込可 その他は2学年以上申込可
木	2	D4	英語学概説	真野 一雄	0085	英語学概説	2年	
金	4	EH	哲学基礎講読	瀧田 寧	0091	哲学基礎講読	条件 参照	哲学専攻のみ1学年以上申 込可 その他は2学年以上申込可
火	3	BE	日本史入門	竹中 眞幸	0095	日本史入門	条件 参照	史学専攻のみ1学年以上申 込可 その他は2学年以上申込可
木	2	D5	東洋史入門	綿貫 哲郎	0096	東洋史入門	2年	
火	2	B7	法 哲 学	高須 則行	0110	法 哲 学	2年	
木	2	D6	憲 法	名雪 健二	0121	憲 法	条件 参照	法学部のみ1学年以上申込 可 その他は2学年以上申込可
火	4	BL	民 法	根本 晋一	0130	民 法	2年	
火	3	BF	民 法 Ⅳ	根本 晋一	0135	民 法 Ⅳ	2年	
金	5	EL	民 法 Ⅴ	堀切 忠和	0137	民 法 Ⅴ	2年	
火	4	BM	商 法 Ⅰ	高岸 直樹	0141	商 法 Ⅰ	2年	
木	2	D7	刑 法 Ⅰ	船山 泰範	0151	刑 法 Ⅰ	条件 参照	法律学科のみ1学年以上申 込可 その他は2学年以上申込可

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	カリ キュ ラム	受 講 条 件
金	3	EC	政 治 学 原 論	吉野 篤	0210	政 治 学 原 論	条件 参照		政治経済学科のみ1学年以上 申込可 その他は2学年以上申込可
火	4	BN	日 本 政 治 史	黒川 貢三郎	0213	日 本 政 治 史	2年		
木	1	D1	行 政 学	関根 二三夫	0221	行 政 学	2年		
火	2	B8	国 際 政 治 学	大八木 時広	0223	国 際 政 治 論	2年		経済学部のみ申込可
					0224	国 際 政 治 学			法学部・文理学部のみ申込 可
					0225	国 際 政 治 論 学 概 論			商学部のみ申込可
水	4	CE	政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	秋山 和宏	0231	政治学特殊講義Ⅰ	2年		Ⅰ・Ⅱのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。 スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です
					0232	政治学特殊講義Ⅱ			
金	4	EJ	国 文 学 史 Ⅱ	山崎 泉	0312	国 文 学 史 Ⅱ	2年		
水	3	C9	国 文 学 講 義 Ⅵ (現 代)	永岡 健右	0339	国 文 学 講 義 Ⅵ (現 代)	2年		
火	4	BO	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤 健史	0342	国文学特殊講義Ⅰ	2年		Ⅰ・Ⅱのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。 スクーリング1回の合格で 単位完成する科目です
					0343	国文学特殊講義Ⅱ			
木	2	D8	国 文 学 基 礎 演 習	近藤 健史	0376	国 文 学 基 礎 演 習	2年		国文学専攻のみ申込可
木	5	DH	国 語 学 基 礎 演 習	三宅 和子	0377	国 語 学 基 礎 演 習	2年		国文学専攻のみ申込可
木	3	DB	イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	0412	イ ギ リ ス 文 学 史 Ⅱ	2年		
水	4	CF	アメリカ文学史	北原 安治	0414	ア メ リ カ 文 学 史	2年		
火	2	B9	英 文 法	真野 一雄	0445	英 文 法	条件 参照		英文学専攻のみ1学年以上 申込可 その他は2学年以上申込可
金	2	E6	英 作 文 Ⅰ	アレックス ブラウン	0447	英 作 文 Ⅰ	2年		前期のみの開講
金	2	E7	英 作 文 Ⅱ	アレックス ブラウン	0448	英 作 文 Ⅱ	2年		後期のみの開講
水	2	C3	英 語 音 声 学	森 晴代	0450	英 語 音 声 学	2年		
火	3	BG	英 米 文 学 演 習	猪野 恵也	0486	英米文学演習Ⅰ	3年		英文学専攻のみ申込可 Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。
					0487	英米文学演習Ⅱ			
					0488	英米文学演習Ⅲ			

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	カリ キュ ラム	受 講 条 件
水	2	C4	西 洋 思 想 史 I	杉山 晃太郎	0511	西 洋 思 想 史 I	条件 参照		哲学専攻のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可
水	3	CA	日 本 思 想 史 II	島田 健太郎	0522	日 本 思 想 史 II	2年		
水	4	CG	倫 理 学 概 論	笹井 和夫	0533	倫 理 学 概 論	2年		
木	4	DG	科 学 哲 学	本間 司	0575	科 学 哲 学	2年		
木	5	DJ	哲 学 演 習	本間 司	0581	哲 学 演 習 I	3年		哲学専攻のみ申込可 I・IIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					0582	哲 学 演 習 II			
火	4	BP	史 学 概 論	高綱 博文	0611	史 学 概 論	2年		
火	2	BA	日 本 史 概 説	鍋本 由徳	0620	日 本 史 概 論	2年		法学部のみ申込可
					0621	日 本 史 概 説			文理・経済・商学部のみ申込可
火	1	B4	西 洋 史 概 説	高草木 邦人	0624	西 洋 史 概 説	2年		文理・経済・商学部のみ申込可
					0628	西 洋 史 概 論			法学部のみ申込可
水	2	C5	日 本 史 特 講 I	鍋本 由徳	0661	日 本 史 特 講 I	2年		
金	1	E1	考 古 学 概 説	西野 吉論	0679	考 古 学 概 説	2年		
木	3	DC	日 本 史 演 習	竹中 眞幸	0681	日 本 史 演 習 I	3年		史学専攻のみ申込可 I・IIのどちらに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					0682	日 本 史 演 習 II			
木	5	DK	東 洋 史 演 習	高綱 博文	0686	東 洋 史 演 習 I	3年		史学専攻のみ申込可 I・IIのどちらに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					0687	東 洋 史 演 習 II			
金	5	EM	西 洋 史 演 習	藤井 信行	0691	西 洋 史 演 習 I	3年		史学専攻のみ申込可 I～IIIのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					0692	西 洋 史 演 習 II			
水	5	CL	東 洋 史 特 講 III	堀井 弘一郎	0696	東 洋 史 特 講 III	2年		

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	カリ キュラム	受 講 条 件
水	4	CH	経 済 原 論	片平 光昭	0711	経 済 原 論	条件参照		経済学部のみ1学年以上申込可 文理・商学部は2学年以上申込可
					0712	経 済 学 原 論			法学部政治経済学科のみ1学年以上申込可 法律学科は2学年以上申込可
火	3	BH	日 本 経 済 論	飯島 正義	0736	日 本 経 済 論	2年		
木	3	DD	国 際 経 済 論	陸 亦群	0737	国 際 経 済 論	2年		
火	4	BQ	金 融 論	谷川 孝美	0746	金 融 論	2年		
火	2	BB	労 働 経 済 論	今井 拓	0763	労 働 経 済 論	2年		
木	1	D2	情 報 概 論 A	中村 典裕	0773	情 報 概 論	2年		
金	5	EN	情 報 概 論 B	一島 力男	0773	情 報 概 論	2年		
金	5	EO	商 品 学	鄭 舜玉	0821	商 品 学	2年		
火	2	BC	マ ー ケ テ ィ ン グ	佐藤 稔	0823	マ ー ケ テ ィ ン グ	2年		
金	3	ED	広 告 論	樋口 紀男	0830	広 告 論	2年		
火	3	BJ	商 業 政 策	佐藤 稔	0831	商 業 政 策	2年		
火	1	B5	経 営 管 理 論	山田 敏之	0843	経 営 管 理 論	2年		
水	5	CM	簿 記 論 I	林 徳順	0854	簿 記 論 I	条件参照		商学部のみ1学年以上申込可 その他は2学年以上申込可
水	4	CJ	商 業 史	横山 則孝	0898	商 業 史	2年		
金	1	E2	現 代 教 職 論	古賀 徹	0903	現 代 教 職 論	2年		前期のみの開講
金	2	E8	教 育 原 論 思 想	古賀 徹	0901	教 育 原 論	2年		平成23年度1学年入学生, 平成24年度1学年入学生, 2学年編入・再入学生, 平成25年度2・3学年編入学・ 再入学生及び科目履修生のみ申込可
					0904	教 育 の 思 想			上記以外の学生が申込可
金	2	E9	教 育 の 方 法・技 術 論	古賀 徹	0926	教 育 の 方 法・技 術 論	2年		後期のみの開講

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	カリ キュ ラム	受 講 条 件
木	5	DL	社会科・地理歴史科 教 育 法 I	古賀 徹	0957	社会科・地理歴史科 教 育 法 I	2年		法学部・哲学専攻・史学専攻・ 経済学部・商学部のみ申込 可 前期のみの開講
木	5	DM	社会科・公民科 教 育 法 I	古賀 徹	0959	社会科・公民科 教 育 法 I	2年		法学部・哲学専攻・史学専攻・ 経済学部・商学部のみ申込 可 後期のみの開講
金	1	E3	経 済 地 理 学	田村 和彦	0973	経 済 地 理	2年		商学部のみ申込可
					0974	経 済 地 理 学			法学部・文理学部・経済学 部のみ申込可
木	2	D9	経 済 学 概 論	陸 亦群	0986	経 済 学 概 論	条件 参照		経済学部のみ1学年以上申 込可 その他は2学年以上申込可

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

IV 受講講座の選定

受講対象者及び受講条件

昼間スクーリングの受講者は、下記の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

1 受講申込対象者 (申込時点において右記 の条件を満たすこと)

- ① 年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入することができるもの。
- ② 昼間スクーリング受講料を納入期日までに納入することができるもの。
- ③ 平成 25 年 9 月卒業をしないもの。また、年度途中に退学をしないもの。
- ④ 昼間スクーリングの授業日程に出席できること。
- ⑤ 昼間スクーリングの試験日程に出席できること。

2 受講講座数

【申込講座の上限】 14 講座まで

火曜日から金曜日までの各時限から 1 講座ずつ、別日程の「保健体育講義Ⅰ」、「体育実技」を含め、最多で 14 講座まで申し込むことができます。
※半期開講科目についても 1 講座としてカウントしてください。

3 受講制限

上記 1, 2 の条件を満たしていても、全ての講座を申し込めるわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。

① 学年・学科専攻による受講可能講座の制限について

このスクーリングは平成 25 年度のスクーリングであり、平成 25 年 4 月現在の学年で受講できる講座を選びます。

(1) 1 学年生

『学習要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接担当学年」欄に「1」と記載されている総合教育科目・外国語科目・各自が指定配本されている専門教育科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「担当学年」が「1 年」とある講座です。また、科目によっては特定の専攻部門しか申し込めない科目もあります。『学習要覧』又は「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

また、1 学年の各学科ごとに時間割がありますので、そちらも参照してください。

(2) 2 学年生

『学習要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接担当学年」欄に「1」「2」と記載されている科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「担当学年」が「1 年」「2 年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学習要覧』又は「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

(3) 3・4 学年生

『学習要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接担当学年」欄に「1」「2」「3」と記載されている科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1年」「2年」「3年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学習要覧』又は「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

(4) 科目履修生

入学時に申請登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

② カリキュラムによる受講可能講座の制限について

自分に適用されているカリキュラムによっては、受講できない講座があります。自分のカリキュラムが分からない方は後掲「XI カリキュラム」を参照してください。

③ その他の理由による受講可能講座の制限について

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

- (1) 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している講座
- (2) 通年スクーリングを受講する場合
- (3) 受講希望者が適正人員又は授業講堂の収容定員を超えた場合

④ 他のスクーリングとの日程重複による受講可能講座の制限について

昼間スクーリングの火曜日の講座を申し込む場合、地方スクーリングが月曜日に終了した後、東京に移動し昼間スクーリングに出席する必要があります。

同じく、昼間スクーリングの金曜日の講座を申し込む場合、授業終了後、地方スクーリング会場に移動しなければなりません。

遅刻しなければ出席できないなど、出席が無理な場合は受講申込みができません。自己責任の元に判断し、申込みをしてください。

1 講座を申し込む

スクーリングを受講するためには、この手引巻末にある「受講届」の提出が必要となります。受講届は「開講講座表」を参照しながら作成してください。

①「受講届」記入欄の説明（記入例参照）

(1) 曜日・時限

それぞれ「開講講座表」にあるとおり、記入してください。

(2) 講座名について

「開講講座表」にあるとおり記入してください。
間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

(3) 講座コード

「開講講座表」の「講座コード」欄にあるとおり記入してください。

(4) 充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。「開講講座表」の「充当科目コード」欄及び以下の②を参照し、記入してください。

(5) 学生番号・氏名・電話番号

電話番号は記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

☐ 内を必ず御記入ください

平成25年 月 日作成

平成25年度 昼間スクーリング受講届(01)

	曜日	時限	講座コード	講座名	充当科目コード
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8	(1)		(3)	(2)	(4)
9					
10					
11					
12					
13					
14					

※保健体育講義Ⅰ及び体育実技を申し込む場合、曜日時限の記入は不要
 ※提出締切日 4月19日(金)【締切日までの消印有効】
 ※書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。
 ※本票は上記スクーリングの受講に関する事項についてのみ使用すること。

申込講座数	講座
学 生 番 号	
フリガナ	
氏 名	(5)

②注意事項（「英語」等の外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば、「英語」の講座は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは、各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって、英語をスクーリングで受講する際には、「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか、各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では2桁の講座コードと4桁の充当科目コードによって、受講講座(科目)を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄、「科目コード」欄に記載されています。

「英語」の場合、「開講講座表」の「科目コード」欄に4つのコードが記載されていますが、各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを、1つ選択してください。

記入例（英語 C を英語Ⅲとして申込み場合）

講座コード	開講講座名	充当科目コード	科目名（充当科目名）	
B3	英 語 A	0041	英 語 I	
		0042	英 語 II	
		0043	英 語 III	
		0044	英 語 IV	
B9	英 語 B	0041	英 語 I	
		0042	英 語 II	
		0043	英 語 III	
		0044	英 語 IV	
(2) BE	(1) 英 語 C	0041	英 語 I	
		0042	英 語 II	
		(4) 0043	(3) 英 語 III	
		0044	英 語 IV	

- (1) 希望する講座を選択……「英語 C」を選択
 (2) 「英語 C」を選択したことによって講座コード「BE」と記入
 (3) その講座でどの科目を充当したいのか選択する……「英語Ⅲ」を選択
 (4) 「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「0043」を記入

※「……演習」という講座も同様で、例えば「英語学演習」の場合、「英語学演習Ⅰ」「英語学演習Ⅱ」「英語学演習Ⅲ」という科目全てを含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習Ⅰ～Ⅲ」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記載する充当科目コードによって各自が大学に申告しなくてはなりません。

注 意 事 項

記入上の注意

- (1) 黒のボールペン（消せるタイプのペンは不可）を使用し、楷書で正確に記入してください。
 (2) 受講届提出締切後の追加、変更はできません。
 (3) 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。
 (4) 下記の場合、大学の判断により事務的な処理を行い講座の決定をいたしますので、希望講座を受講できない可能性があります。
 ・乱雑な記入
 ・記入誤り、記入漏れ
 ・記入した講座コード、講座名、充当科目コードの不一致

2 受講届を提出する

受講届の記入が終わったら、受講届を教務課宛に提出しなければなりません。提出方法は以下の2つがあります。

① 教務課窓口へ直接提出

記載内容等を確認し、受け付けするため、必ず係員に提出してください。【締切日当日の受付は事務取扱時間までとします。】

② 郵送で提出する

受講届に切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日までの消印有効】

郵送提出における注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合、受講ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学受領の記録が残らない取扱いとなりますので、「受講許可通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず大切に保管ください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、レポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。受講届は単体で送付してください。

3 申込講座の変更・追加

いったん受講届を提出した後に、申込講座の変更、追加及び一部辞退が生じた場合には、以下の手続きを行ってください。

① 申込講座変更届用紙

申込講座の変更・追加をする場合は、市販の便箋を使用し、次ページの記入例を参考に変更届を作成してください。

※変更・追加のために、複数の「受講届」を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は、正しい申し込みが判別不能となり、申込が「無効」となりますので、決して使用しないでください。

② 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに、変更前の申込講座の「開講曜日・時限」「講座コード」「講座名」「充当科目コード」を明記してください。また、自身の所属学部・専攻部門・学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

③ 提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

④ 提出期間

4月19日（金）（受講届提出締切日）までに提出してください。別途の日程はありません。

※受講届提出期間内に到着した場合のみ有効となります。

《記入例》

平成〇年〇月〇日

日本大学通信教育部教務課長 殿

平成 25 年度昼間スクーリング申込講座変更届

標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ昼間スクーリングにおける申込講座を下記のとおり変更したく、書面をもってお願いいたします。

記

(当初の申込講座)

曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜 1 時限	B2	政治学	0023
火曜 2 時限	B6	文学	0017
火曜 4 時限	BK	英語 A	0041

(変更後の申込講座)

曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜 1 時限	B2	政治学	0023
火曜 4 時限	BP	英語 A	0041
水曜 5 時限	CK	歴史学 A	0015

上記のとおり相違ありません。

文理学部文学専攻（英文学）
学生番号：22133000
氏名：日大 太郎

4 受講許可通知書を確認する

提出された「受講届」に基づき大学が受講資格審査を行い、その結果を「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」により送付します。

なお、「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」の発送は、5月15日（水）を予定しております。上記予定日から数日経過しても通知が届かない場合は、至急会計課へ連絡してください。

「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」が届いたら、以下の要領で、大学から許可された内容を確認してください。

充当科目コードの確認

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」、及び「単位」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…」の区別のあるものや、科目の名称がよく類似している科目がありますので十分注意してください。

101-8354
千代田区三崎町 2 - 2 - 3

101-8354

千代田区三崎町2-2-3

日大 通子 殿
(学生番号: 24133999)

日本大学通信教育部

[illegible]

領 収 金 額		66,000円
内 訳	受講料	60,000円
	コンピュータ等実習料	6,000円
		円
		円
		円

電話 東京 03-5275-8911 (教務課) 03-5275-8925 (会計課)

印組

(振込人保管)

(切り取らないで銀行窓口に提出してください)

スクーリング受講料等振込依頼書

振替科目															
依頼日		年 月 日		振込指定		電 信 扱		手数料							
銀行名		ミツイスミトモ カンダシテン 三井住友 神田支店		店番		219		金 額				6		6 0 0 0 円	
お受取人	預金種目	普通預金		口座番号		1035505		内 訳	現金						
	口座名	ニチダイ ツウシン 日本大学通信教育部					当手								
							他手								
	取扱い期限厳守								納入期限 ○○ 年 ○ 月 ○ 日						
ご依頼人	整理番号	1200010000					収納印または振替印					(取扱銀行保管)			
	フリガナ	ニチダイ ツウコ													
	氏 名	日大 通子													
	住 所	101-8354 千代田区三崎町2-2-3													
	電話番号	03-5275-8911													

東京都千代田区三崎町 2 - 2 - 3

日本大学通信教育部 東京都千代田区三崎町 2 - 2 - 3
電話 東京 03-5275-8925 (会計課)

- ① の部分は全て打電してください
- ② 納入期限の過ぎたものは受付しないでください
- ③ 金額、納入期限、整理番号、氏名を訂正したものは受付しないでください
- ④ 三井住友銀行本店窓口からの振込手数料は無料になります
- (学生へお願い)
- ① ATMはご利用いただけません 窓口からお振込ください

講座コード・講座名・時間割の確認

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合や受講をお断りしている場合があります。

5 受講料等の納入

申込講座の辞退がない場合、受講料を期限までに納入してください。

① 受講料：1 講座 20,000 円 × 受講講座数

ただし、「体育実技Ⅰ」、「体育実技Ⅱ」、「保健体育講義Ⅰ」、「英作文Ⅰ」、「英作文Ⅱ」、「現代教職論」、「教育原論／教育の思想」、「教育の方法・技術論」、「社会科・地理歴史科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅰ」の各講座は 10,000 円
「情報概論」のみ 26,000 円（コンピュータ等実習料を含むため）

② 納入期限：5 月 27 日（月） 銀行窓口 ※当日取扱時間まで**③ 納入方法：必ず、大学から送付される「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」により銀行窓口から振り込んでください。「(A) スクーリング受講許可通知書兼領収書」と「(B) 2013 年度昼間スクーリング受講料等振込依頼書」は、切り離さずに銀行窓口へ持参してください。****注 意 事 項****① 納入に際しての注意事項**

- (1) 銀行（ゆうちょ銀行を除く）窓口のみの取扱いとなります。会計課窓口及び郵送等での納入はできません。
- (2) 自動振込機（ATM）及びネットバンキングからの納入は受付できません。
銀行係員が勧めても使用しないでください。
- (3) 「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」に記載された事項を訂正したものは受け付けできません。
- (4) 三井住友銀行本・支店窓口からの振込手数料は、無料となります。

② その他の注意事項

- (1) 発送予定日から数日経過しても「スクーリング受講許可通知書兼スクーリング受講料等振込依頼書」が届かない場合は、至急会計課に連絡してください。また、期日までに納入できない事情が発生した場合は、至急、教務課に連絡してください。
- (2) 「(A)スクーリング受講通知書兼領収書（銀行出納印の押印されているもの）」は、受講時、試験時、通学証明書等の申請・発行を受ける際、学生証とともに必要になります。受講期間中は常に携帯してください。
- (3) 一度受講料等を納入したのちに受講申込辞退の意思表示があったとしても、受講料等の返還は行いません。

6 使用教材の購入

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学習効果が期待できません。受講許可通知書を受け取った後、本誌のシラバス（教科書、参考書）で使用教材が、『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上、以下の要領で教材を購入してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材購入方法の見分け方は、後掲の「③教材購入方法の見分け方」を参照してください。

注 意 事 項

「指定配本」、「履修届」及び「追加科目履修届」による配本を受け、所持している『通信教育教材』であっても、教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので、科目名のみによらず、シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し、不一致の場合は、教材を購入してください。

なお、教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

① 使用教材が『通信教育教材』の場合

通材印が付されている教材は、本誌「各種用紙」の「教材購入願」を使用し購入してください。既に今回の使用教材を入手している場合は、改めて「教材購入願」によって購入する必要はありません。教材の送付先は、すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後、約 1 週間を要しますので、「受講許可通知書」を確認した後、速やかに手続を行ってください。

なお、『通信教育教材』について不明な点は、研究事務課（電話 03-5275-8890）に問い合わせください。

② 使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は、一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合、**丸沼**印のついている本については、丸沼書店で購入できます。

（書店名）（株）丸沼書店

（所在地）〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-8-12

（電 話）03-3261-4540

（FAX）03-3261-0118

（営業時間）9：00～20：00（日曜日は休み）

（購入方法）直接店頭（151 ページを参照）で購入のほか以下（1）～（3）の方法で通信販売も可能です。

（1）代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、上記あてに郵送又は FAX をしてください。

（2）郵便為替（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して上記あてに郵送してください。

（3）現金書留（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わる場合があります。あらかじめご了承ください。

④ スクーリング受講に伴う六法の携行及び指定の六法

法律系の科目をスクーリング受講する場合、特にシラバスに記載がなくとも『六法』は必携となりますので、各自用意の上、授業に臨んでください。

通信教育部指定の六法について

スクーリング試験時に参照が許可される『六法』は、次の9種類に限ります。ただし、担当講師から別途指示がある場合は、この限りではありません。

《試験時に参照が許可される六法》

岩波書店『コンパクト六法』、『セレクト六法』、『基本六法』 有斐閣『六法全書』、『ポケット六法』 第一法規『司法試験用六法』、『旧司法試験用六法』、『新司法試験用六法』 三省堂『デイリー六法』

注意事項：（１）上記指定の『六法』に、書き込み等がある物は、参照物として認められません。したがって、『六法』は学習時に使用するものと試験時に使用するものとで別に用意してください。

（２）判例・解説つきのもの（『六法』付録の小冊子等を含む）は参照物としては認められません。

MEMO

[illegible]

1 講座受講時の注意点

<p>① 掲示板で最新情報の確認</p>	<p>昼間スクーリングで登校の際は、通信教育部 1 号館 1 階学生ホールにある「昼間スクーリング 掲示版」で最新情報を確認してから講義に出席してください。</p> <p>【掲示内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月 「時間割・講堂表」 ・ 5 月 「時間割・講堂表」（講堂変更後） ・ 7 月 「前期試験講座一覧」・「保健体育講義・体育実技の実施について」 ・ 12 月 「昼間スクーリング試験講座一覧」 <p>※試験の方法（筆記試験・レポート・平常点）、試験時間割と講堂等についてお知らせします。</p> <p>また、「講堂変更」・「休講」等、日々の授業に関する情報についても随時、掲示板でお知らせします。</p>
<p>② 受講上の注意 （出席・欠席・遅刻等）</p>	<p>【出席について】</p> <p>スクーリングは、毎回出席することを原則としています。交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。</p> <p>※授業を途中から受講することは、周りの受講者に対しても迷惑ですし、担当の先生に失礼です。時間に余裕を持って行動してください。</p> <p>【欠席について】</p> <p>スクーリングを欠席した場合は、次の出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。</p> <p>※事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けられません。</p>
<p>③ 受講上の注意 （休講・補講）</p>	<p>【休講について】</p> <p>スクーリング期間中、担当教員の都合により授業を休講する場合があります。</p> <p>① 事前に情報を得ている場合は、昼間スクーリング掲示版に掲示します。</p> <p>② 当日、急きょ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、授業講堂において出席を取り、次回担当教員に出席していたことを伝えます。 （この場合は、掲示版には休講掲示を出しません。）</p> <p>【補講について】</p> <p>スクーリング期間中に休講した場合、その授業は必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。</p> <p>① 補講日程に実施</p> <p>前期：7月20日（土）、22日（月） 後期：1月18日（土）、20日（月）</p> <p>② 学事日程上、空いている月曜日・土曜日に実施</p>

④ 受講上の注意
(天災等の休講)

【天災等の休講について】

スクーリング期間中、台風などの天災により授業を行うことが困難である場合、または困難になると予想される場合は、通信教育部の判断として授業を休講する場合があります。

※その場合は、掲示板及び通信教育部ホームページに情報を掲載しお知らせします。

※上記、いずれの場合においても、後日、補講を実施します。詳細は、掲示板にて補講掲示を出します。

2 試験受験時の注意点

試験は平成 26 年 1 月の試験期間に実施されます。試験の詳細は「掲示」、または授業中に告知します。試験方法、試験日程は以下のとおりです。

受験にあたって
※「追試験」及び「再試験」
の実施はありません

30 週目の授業後、試験期間に入ります。試験は指定の試験期間内で実施され、「追試験」及び「再試験」の実施はありません。

したがって、体調不良や仕事等の理由により受験できないことがないよう、各自で体調及びスケジュール管理を徹底し、調整を図った上で、受講してください。

① 試験方法

【試験方法の種類】

① 筆記試験

試験期間に筆記試験を行う。

② レポート試験（授業内提出）

授業期間中にレポートを作成し、担当教員へ提出する。

③ レポート試験（事後レポート提出）

授業終了後、指定された締切日までにレポートを作成し、教務課へ所定の表紙を付けて提出する。

④ 平常点

試験を行わず、授業内での小テスト・発表などによって評価される。各シラバスの成績評価基準を参照すること。

② 試験日程
※前期終了科目を除く

平成 26 年 1 月 21 日（火）～ 24 日（金）

対象科目：4 月～平成 26 年 1 月まで授業を行い、筆記試験で評価を行う科目。

9 月～平成 26 年 1 月まで授業を行い、筆記試験で評価を行う後期開講科目。

試験時間割（通常授業時間と異なります）

1 時限目 9：30～10：30

2 時限目 11：00～12：00

3 時限目 13：00～14：00

4 時限目 14：40～15：40

5 時限目 16：20～17：20

※特に先生から指示のない場合はこの時間割で行います。

詳細は、12 月中旬に掲示板にて連絡します。

③ 試験日程
前期終了科目

前期終了科目の筆記試験日程のみ

第 15 週目の授業時に試験を行います。

平成 25 年 7 月 23 日（火）～ 26 日（金）

試験時間割（原則として上記②と同じ時間帯で行います）

※ 15 週目の授業時間内に試験を行うため、15 週目の授業は、直前に設定されている補講日、または担当教員の指定した補講日時に実施します。

詳細は、7 月に掲示板にて連絡します。

「スクーリング試験」受験上の注意

- 1 「学生証」及び「スクーリング受講許可通知書兼領収書」（取扱銀行領収印のあるもの）を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
 - 2 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は、事前に教務課（講師室）に申し出て指示を受けること。
 - 3 携帯電話等は、電源を切り、鞆等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
 - 4 持ち込みを許可されたもの以外は机上に置かないこと。
 - 5 解答用紙は、1 人 1 枚とし、再交付はしない。
 - 6 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
 - 7 試験開始後 20 分以上遅刻した者は受験することができない。
 - 8 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始 30 分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
 - 9 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
 - 10 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分（停学・退学等）される。
- ※ 試験中の参照物等の貸し借りは不正行為とみなす。

3 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、教務課から平成 25 年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に郵送で通知します。昼間スクーリングでは他のスクーリングとは異なり「在学生専用サポート（Web 報）」での結果発表（スクーリングの結果確認）を行っていません。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。また、「スクーリング結果通知書」の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行えないので、「スクーリング結果通知書」を紛失した場合などは「Web 報」の単位修得状況確認で確認、又は「単位照合票」等の交付を受け、確認してください。

結果発表時期	平成 26 年 2 月中旬
--------	---------------

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、その科目の所定単位を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。シラバスに表示されている単位数が、それぞれの科目（講座）のスクーリング単位です。

VII シラバスと使用教材

Philosophieren への誘い (哲学 A)

水曜日 4 時限 開講単位 4 単位 担当者：三箇 文夫

◆**学習目標** 哲学は、「哲学とは何か」を知る事にある。この「何か」と問う事が哲学の根源である。この「問い」が問いとして迫ってくる原体験の諸相の理解を容易にするため時代区分に沿って捉える。本年は、ギリシャ時代の自然・人間・環境の三概念を中心に展開したい。ただ哲学は、この「問い」を通して哲学・思想的知識を持つことを求めるのではなく、自ら Philosophieren する態度を養う事を目標としたい。

◆**授業方法** 上記の目標達成の為に、dialogos による方法、所謂「ソクラティック・メソッド」が教育の理想の一つの姿と考えている。この方法を実践する事により自ら思考する事が楽しいと体験してほしい。

◆**準備学習** 特に準備する必要はなし。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回目 ガイダンス	11 回目 Pythagoras 学派の哲学	21 回目 Sophist の哲学
2 回目 哲学とは如何なる学問か	12 回目 同上	22 回目 同上
3 回目 同上	13 回目 Orphikoi の魂の不滅説	23 回目 Sokrates の時代
4 回目 学問の誕生と展開	14 回目 同上	24 回目 同上
5 回目 Kaos から Kosmos へ	15 回目 古代ギリシアの存在論	25 回目 Platon の哲学
6 回目 Miletos に何故学問が誕生したか	16 回目 同上	26 回目 同上
7 回目 Ionia 自然哲学者	17 回目 同上	27 回目 同上
8 回目 同上	18 回目 多元論者の哲学	28 回目 Aristoteles の哲学
9 回目 同上	19 回目 同上	29 回目 同上
10 回目 Samos 島の哲学者	20 回目 同上	30 回目 哲学の世界的展開

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** なし。

◆**参考書** 授業時に適宜紹介していく。

◆**成績評価基準** レポート提出、定期試験等を総合的に評価する。

◆**E-Mail** :

現代を生きる哲学力をつけよう (哲学 B)

金曜日 3 時限 開講単位 4 単位 担当者：江川 晃

◆**学習目標** 現在、情報科学、生命科学、そして脳科学が目覚ましく発展し、その様子がマスコミ等で紹介されています。私たちの生活は、現実に、科学技術に支えられています。そこで、私たちがこのような現代を自律的に生きていくには、これらの科学技術から生じる問題に振り回されずに、深く考えていく力、哲学力 (英知) を鍛える必要があります。

◆**授業方法** 講義形式で、教科書と配布プリントを中心に、パワーポイントや板書にて行う。ビジュアル教材 (画像・DVD) も取り入れる。毎回、授業終りに簡単な感想、質問、意見等を書いていただき、次回はそれに対してコメントし、時にみなさんと、対話・討論もしてみましょう。

◆**準備学習** 教科書等に出てあることを覚えるのではなく、なぜそうなのかを考えていく習慣を意識しよう。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回目 ガイダンス	11 回目 デカルトの自我	21 回目 心の哲学・心脳同一説
2 回目 哲学とは (語源・歴史)	12 回目 ベーコンの経験論	22 回目 "I, ROBOT" と哲学
3 回目 ギリシャのミレトス学派	13 回目 カントの理性批判	23 回目 情報記号論
4 回目 原子論	14 回目 ヘーゲルの弁証法	24 回目 ヴァーチャルとは
5 回目 ソクラテスの対話	15 回目 レポート作成	25 回目 "MATRIX" の哲学
6 回目 ソクラテスの死の意味	16 回目 キルケゴールの実存主義	26 回目 脳科学と自由意志
7 回目 プラトンのアイデア	17 回目 パースの探究の理論	27 回目 ヒト・クローン
8 回目 アリストテレスの存在論	18 回目 ウィトゲンシュタインの哲学	28 回目 ES 細胞と iPS 細胞
9 回目 中世哲学 (信仰と理性)	19 回目 論理実証主義	29 回目 科学は何をもたらすか
10 回目 科学革命	20 回目 言語行為論	30 回目 まとめ

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** **【教材】**『哲学 0011』通信教育教材 (教材コード 000404) 3,250 円 (送料込)
 〈この教材は市販の『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫・齋藤隆編著 (北樹出版) と同一です〉
【当日資料配布】 プリント配布。

◆**参考書** **【丸沼】**『生命倫理について考える』江川晃・嘉吉純夫・霞田光三著 文真堂 1,732 円 (税込) (送料 340 円)

◆**成績評価基準** レポート (30%) と平常点 (20%) と試験 (50%)
 * 平常点とは、感想・質問ペーパー等によります。

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例:「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

〇とある日本の歴史学

(歴史学 A)

水曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：渡邊 浩史

◆**学習目標** 現在アメリカにおける日本研究はアニメ研究以外は成り立たない程であるという。また大友克洋のアニメ『AKIRA』の 1 シーンがサラエボの壁に反体制勢力のアイコンとして描かれていたという。もはやアニメは日本最大の文化的輸出品であるとまで言われるようになった。宮崎駿監督作品を中心として、日本国内でも多くの研究書が刊行された。またディズニー作品の『ライオン・キング』は手塚治虫の『ジャングル大帝』の模倣であると言われるなど、グローバル文化に組み込まれる萌芽も見えている。浮世絵がモネなど印象派を中心に西洋絵画に影響を与えたように。その一方日本の歴史的背景が多く組み込まれている。ただその日本的歴史背景とは、多くの海外文化を吸収し習合させたという意味である。この点こそが日本のマンガ・アニメが無国籍な空間を持ち、多くの国で違和感なく受け入れられた理由であろう。決して「アニメ顔」などの絵画表現や「萌え」の要素のみではないはずである。

こうしてみると、日本の歴史がどのようにマンガ・アニメに反映されているのかを考えるのも、歴史学の重要なアプローチ方法ではないか。そこでいくつかのマンガ・アニメ作品を通して、日本の歴史を考えてみたい。

◆**授業方法** 講義形式で行う。適宜 DVD などを利用する。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆**準備学習** 授業計画に挙げたマンガ・アニメ作品については、ある程度事前に見たり読んでいることが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目	はじめに 日本の伝統文化系譜上に位置するマンガ・アニメ	11 回目	藤田和日郎のマンガ・アニメ『うしおととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	21 回目	武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史 シャーマン・安倍晴明・擬制的な死
2 回目	マンガ表現に見られる 1960 年代を中心とする歴史認識 手塚治虫『どろろ』を中心に	12 回目	藤田和日郎のマンガ・アニメ『うしおととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	22 回目	武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史 シャーマン・安倍晴明・擬制的な死
3 回目	マンガ表現に見られる 1960 年代を中心とする歴史認識 手塚治虫『どろろ』を中心に	13 回目	藤田和日郎のマンガ・アニメ『うしおととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	23 回目	田辺イエロウのマンガ・アニメ『境界師』から見る日本歴史 境界
4 回目	マンガ表現に見られる 1990 年代以降の歴史認識 近藤ようこ『水鏡奇譚』・『妖霊星』を中心に	14 回目	中間試験	24 回目	田辺イエロウのマンガ・アニメ『境界師』から見る日本歴史 境界
5 回目	マンガ表現に見られる 1990 年代以降の歴史認識 近藤ようこ『水鏡奇譚』・『妖霊星』を中心に	15 回目	前半のまとめ 史学史的視点から見たマンガ・アニメ	25 回目	田辺イエロウのマンガ・アニメ『境界師』から見る日本歴史 境界
6 回目	諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	16 回目	武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史 ナギ（榊）の巨木・熊野信仰と伊勢信仰の拡がり・ケガレ	26 回目	押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史 仮想現実としての夢・電脳空間と脱魂
7 回目	諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	17 回目	武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史 ナギ（榊）の巨木・熊野信仰と伊勢信仰の拡がり・ケガレ	27 回目	押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史 仮想現実としての夢・電脳空間と脱魂
8 回目	諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	18 回目	武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史 ナギ（榊）の巨木・熊野信仰と伊勢信仰の拡がり・ケガレ	28 回目	押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史 仮想現実としての夢・電脳空間と脱魂
9 回目	諸星大二郎・星野之宣のマンガから見る日本歴史 『暗黒神話』・妖怪ハンターシリーズ・宗像教授シリーズを中心に	19 回目	武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史 ナギ（榊）の巨木・熊野信仰と伊勢信仰の拡がり・ケガレ	29 回目	押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史 仮想現実としての夢・電脳空間と脱魂
10 回目	藤田和日郎のマンガ・アニメ『うしおととら』から見る日本歴史 狐・玉藻前・陰陽師・橋姫	20 回目	武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史 シャーマン・安倍晴明・擬制的な死	30 回目	おわりに マンガ・アニメから見る日本歴史とは

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点 20%、試験 80%

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

❑歴史とは何か

〔歴史学 B〕

木曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：片倉 芳和

◆**学習目標** イギリスの国際政治学者、現代史研究家 E.H. カーは『歴史とは何か』の著書の中で「歴史とは歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話なのであります」と述べています。東洋史の宮崎市定は「歴史学は事実の論理の学問だ」といっています。講義の後半で中国史、中国近現代史研究について検討する。

◆**授業方法** 講義形式であるが、パワーポイントも使用する。出来るだけ視覚資料などにより関心を持って貰うように講義をすすめる。授業計画は以下のようであるが、欄内に書き込むことが出来なかった日本の歴史家、東洋史の内藤湖南、トルコ史の護雅夫、東洋史の宮崎市定、西洋史の木村尚三郎、阿部謹也、樺山紘一、イスラム史の山内昌之、国際関係史の入江昭などの研究に言及したい。中国史の検討では中国の歴史教科書についてみていき、歴史認識のことなども検討していきたい。

◆**準備学習** 参考書にある E.H. カー『歴史とは何か』、及びフリードリッヒ・マイネッケ、マックス・ウェーバー、カール・ポパー、ジグムント・フロイト、アーノルド・トインビー等講義で言及するので関係の文献や授業方法で挙げている日本の研究者についても講義の前に関心を持ち自分なりに調べてみることを希望する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 歴史観の歴史	21 回目 中国史における中世
2 回目 歴史とは何、E.H. カー	12 回目 自由と必然、英雄と社会関係	22 回目 中国史における近世
3 回目 社会と個人	13 回目 事件史と必然	23 回目 中国史における最近世
4 回目 歴史と科学と道徳	14 回目 事件史と構造史	24 回目 中国近代史をどうみるか
5 回目 歴史における因果関係	15 回目 これまでのまとめ	25 回目 中国近現代史研究の経過 (1)
6 回目 進歩としての歴史	16 回目 中国史における歴史とは (1)	26 回目 中国近現代史研究の経過 (2)
7 回目 広がる地平線	17 回目 中国史における歴史とは (2)	27 回目 21 世紀中国近現代史研究 (1)
8 回目 歴史の事実	18 回目 中国史における時代区分論 (1)	28 回目 21 世紀中国近現代史研究 (2)
9 回目 歴史観 (1) トインビー	19 回目 中国史における時代区分論 (2)	29 回目 21 世紀中国近現代史研究 (3)
10 回目 歴史観 (2)	20 回目 中国史における古代	30 回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 授業時間にレジュメを配布します。

◆**参考書** **〔教材〕**『西洋史入門 0097』 通信教育教材（教材コード 000047） 1,300 円（送料込）
〈この教材は市販の『歴史とは何か』 E.H. カー著（岩波書店）と同一です〉その他講義の中で述べていきます。

◆**成績評価基準** 2 回の試験の成績による。

◆**E-Mail：**

❑文学作品の表現性を考える

〔文学〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：野口 恵子

◆**学習目標** 約 1300 年以上も前に成立した『萬葉集』は、現存する日本最古の歌集である。21 世紀の我々からすると異文化の世界であり、これらの歌々には現代の日常言語には存在しない表現性が見いだされる。そこで、歌の表現を通して、古代的な感じ方・考え方について学ぶ。加えて、何か新しいもの、例えばこれまでとは違った考え方・解釈・作者の心情、もしくはその根底にある何か新たな発見をすることを目標とする。

◆**授業方法** 教科書と授業中に配布するプリントを使用する。また、板書を中心に授業を行うため、ノートを各自持参すること。当然、板書以外の講義内容も必要に応じてメモをとること。

◆**準備学習** 文学のみならず、歴史学・考古学・宗教学などの他文化にも触れながら授業を行うため、日頃から様々なものに興味をもってほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 授業計画	11 回目 死別の歌①	21 回目 大伴坂上郎女の歌①
2 回目 日本と天皇について	12 回目 死別の歌②	22 回目 大伴坂上郎女の歌②
3 回目 『萬葉集』の概略	13 回目 恋の歌①	23 回目 大伴坂上郎女の歌③
4 回目 『萬葉集』の読み方①	14 回目 恋の歌②	24 回目 笠女郎の歌
5 回目 『萬葉集』の読み方②	15 回目 恋の歌③	25 回目 紀女郎の歌
6 回目 四季の歌①	16 回目 防人の歌①	26 回目 大伴家持の歌①
7 回目 四季の歌②	17 回目 防人の歌②	27 回目 大伴家持の歌②
8 回目 旅の歌①	18 回目 額田王の歌①	28 回目 渡来人の歌①
9 回目 旅の歌②	19 回目 額田王の歌②	29 回目 渡来人の歌②
10 回目 遊びの歌	20 回目 額田王の歌③	30 回目 渡来人の歌③

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔丸沼〕**『訳文 万葉集』 森淳司編 笠間書院 1,890 円（税込）（送料 390 円）

◆**参考書** 授業内で紹介する。

◆**成績評価基準** レポート試験（80%）、平常点（20%）。毎回出席する事を前提とします。遅刻は認めません。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

■私たちと法の関わりを知りましょう

〔法学 A〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：高須 則行

◆**学習目標** 現代社会における紛争解決で重要視されている法的思考の道具立てを理解し、それが現実の社会の中でどのように機能しているかを理解してもらうことを目的とする。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思ひます。

◆**準備学習** 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 法学へのいざない	11 回目 犯罪と法（Ⅲ）責任性：責任主義	21 回目 法の解釈（Ⅲ）解釈の技法（2）
2 回目 日常生活と法	12 回目 犯罪と法（Ⅳ）判決を読む（1）	22 回目 法の解釈（Ⅳ）解釈の技法（3）
3 回目 日本における近代法制の輸入	13 回目 犯罪と法（Ⅴ）判決を読む（2）	23 回目 国家の組織と作用に関する法（1）
4 回目 法と裁判（Ⅰ）裁判の種類	14 回目 法と裁判（Ⅲ）裁判員制度	24 回目 国家の組織と作用に関する法（2）
5 回目 法と裁判（Ⅱ）裁判所の種類	15 回目 法の構造（Ⅰ）法的世界の整理	25 回目 市民生活に関する法（1）
6 回目 法の種類（Ⅰ）成文法	16 回目 法の種類（Ⅳ）不文法	26 回目 市民生活に関する法（2）
7 回目 法の種類（Ⅱ）成文法	17 回目 法の種類（Ⅴ）不文法	27 回目 現代資本主義社会の法
8 回目 法の種類（Ⅲ）成文法	18 回目 法の種類（Ⅵ）不文法	28 回目 法の構造（2）
9 回目 犯罪と法（Ⅰ）行為性・構成要件該当性：罪刑法定主義	19 回目 法の解釈（Ⅰ）解釈の意義	29 回目 法の目的（1）
10 回目 犯罪と法（Ⅱ）違法性	20 回目 法の解釈（Ⅱ）解釈の技法（1）	30 回目 法の目的（2）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 授業中にプリントを配布します。

◆**参考書** その都度、授業中に指示します。

◆**成績評価基準** 前期と後期に試験を実施し、前期（50%）・後期（50%）の得点によって評価します。

◆**E-Mail：**

■法の理想と現実

〔法学 B〕

金曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：遠藤 清臣

◆**学習目標** 「法」は人間社会に存在する必然的な現象であり、その理解なくして社会生活を送ることはできない。「法」の理想と、現実の違いを理解し、その適切な解釈、運用の能力を養うことを目的とする。

◆**授業方法** 前期は法の一般理論を講義し、法についての基本を理解してもらう。後期は憲法その他の具体的規定を題材に、法の解釈の訓練をする。

◆**準備学習** 特に必要としない。ノートやメモは最小限にし、講義を聴くことに集中してもらいたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 基礎1 法と社会	11 回目 実現1 法の効力の範囲	21 回目 応用3 基本的人権の構造
2 回目 基礎2 法の目的である正義	12 回目 実現2 法を実現する者	22 回目 応用4 外国人と基本的人権
3 回目 基礎3 日本の法の歴史	13 回目 実現3 事実の認定	23 回目 応用5 社会権の解釈
4 回目 基礎4 権利と義務	14 回目 実現4 法の解釈	24 回目 応用6 二院制と議院内閣制
5 回目 基礎5 権利の社会的制限	15 回目 前期試験	25 回目 応用10 犯罪と反社会的行為
6 回目 基礎6 権利の主体と客体	16 回目 実現5 目的論的解釈	26 回目 応用11 刑罰は有効か
7 回目 制定1 法を定める者	17 回目 実現6 裁判制度	27 回目 応用12 死刑存廃論
8 回目 制定2 国家の法（成文法）	18 回目 実現7 解釈の実践	28 回目 応用7 民法における意思の尊重
9 回目 制定3 国家の法（不文法）	19 回目 応用1 憲法を定める者	29 回目 応用8 婚姻と親子の理論
10 回目 制定4 国際社会の法	20 回目 応用2 憲法と天皇制	30 回目 応用9 相続の理論

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 プリントを配布する。

◆**参考書** 通材『法学 0021』 通信教育教材（教材コード 000394） 1,700 円（送料込）
内刊『現代法学入門』 三浦隆、石川信編著 北樹出版 3,045 円（税込）（送料 390 円）
『ポケット六法』、またはその他の軽易な六法
（上記はいずれも必要に応じて用意すればよく、講義初日に持参する必要はない。）

◆**成績評価基準** 前期および期末試験の成績に、授業中の質疑の内容を加味して総合的に評価する。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆「正義」と「絆」について考える

〔社会学〕

金曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：服部 慶巨

◆**学習目標** 人間は独りで生きてゆけない弱い動物であり、社会を形成・維持しなくてはならない。そのために我々は正しく善く生きてゆくことを求められるが、社会生活において正しさ（正義）は時として簡単に逆転する。こうした現実をふまえ、前期は全人類共通の現象を中心に解説し、後期は日本社会の特徴に焦点をあて、我々がいかなる状況に置かれているのかを社会的にとらえてゆくのが本講義の目的である。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD、DVD 漫画、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。

◆**準備学習** 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 講義目標・目的の確認	11 回目 社会的動物としての人間⑤	21 回目 視聴覚教材による確認
2 回目 状況（状況）判断①	12 回目 Human Being ①	22 回目 日本（人）的「和合」①
3 回目 状況（状況）判断②	13 回目 Human Being ②	23 回目 日本（人）的「和合」②
4 回目 「正義」の含意①	14 回目 Human Being ③	24 回目 視聴覚教材による確認
5 回目 「正義」の含意②	15 回目 Human Being ④	25 回目 日本（人）的「共感性」①
6 回目 「正義」の含意③	16 回目 「絆」の含意①	26 回目 日本（人）的「共感性」②
7 回目 社会的動物としての人間①	17 回目 「絆」の含意②	27 回目 視聴覚教材による確認
8 回目 社会的動物としての人間②	18 回目 「絆」の含意③	28 回目 前半総括
9 回目 社会的動物としての人間③	19 回目 日本（人）的「愛」①	29 回目 後半総括
10 回目 社会的動物としての人間④	20 回目 日本（人）的「愛」②	30 回目 全体総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『人間生活の理論と構造』夏川康男他 学文社 2,625 円（税込）（送料 390 円）

◆**参考書** 丸沼『補強版ストレス・スパイラル』服部慶巨 人間の科学社 1,260 円（税込）（送料 340 円）

◆**成績評価基準** 終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する（公欠などは申し出ること）。

◆**E-Mail**：

◆政治を基礎から学びましょう

〔政治学〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：関根 二三夫

◆**学習目標** 基礎教育としての講義を行います。議会及び大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しいことのように感じられます。しかし、そこで制定され執行される法律や予算は、国家や社会や個人の発展のために寄与するものです。この講義においては、政治がわれわれの生活に大きな影響を及ぼすと同時に、身近な現象であることを学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、受講生の政治に関する問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学習** 政治学は、社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。社会を構成する人々はそれぞれに考え方が異なりますので、同じ原因が示されても異なった結果が出るのが通例です。政治学の学問としての課題もそこにあり、現実の社会を理解し、社会における問題を解決して、あるべき社会を築く必要があります。学習の準備として、メディアの記事などに関心を持ち、問題点を把握することが必要になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 講義全体の概要説明	11 回目 議会の構成	21 回目 政党（問題点）
2 回目 政治学の変遷	12 回目 議院内閣制	22 回目 圧力団体（概念・特徴）
3 回目 政治の概念	13 回目 大統領制	23 回目 圧力団体（活動・問題点）
4 回目 政治の本質	14 回目 大統領拒否権	24 回目 わが国の圧力団体
5 回目 政治権力（概念・構造）	15 回目 議会拒否権	25 回目 コミュニケーション（機能・類型）
6 回目 政治権力（支配の手段）	16 回目 選挙制度の原則、選挙権	26 回目 コミュニケーション（方向性）
7 回目 国家（成立の要素）	17 回目 選挙区の画定、選挙区制	27 回目 リーダーシップ
8 回目 国家（分類）	18 回目 代表選出の形態	28 回目 地方自治の沿革
9 回目 国家機関	19 回目 政党（概念・特徴・発展過程）	29 回目 政治と行政
10 回目 議会政治の原理	20 回目 政党（形態・機能）	30 回目 講義内容の総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『政治学 0023』通信教育教材（教材コード 000279）1,800 円（送料込）

◆**参考書** 丸沼『教養政治学』岩井奉信 黒川貢三郎 関根二三夫他 南窓社 3,045 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 試験 70%、平常点 30%

※試験同様、質問や小テストへの解答等平常点も重視します。

◆**E-Mail**：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

現代社会を生きる糧に

〔経済学〕

水曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：田村 和彦

◆**学習目標** 日常生活に不可欠な経済生活を営むために必要な経済知識の基礎を理解してもらいたい。報道で GDP、可処分所得、貯蓄性向等々、経済学用語が必ず使用されている。この意味で、経済学の知識が日常生活にも必要となっている。単なる教養・総合教育科目ではないのである。賢明な日常生活を送るための糧にってもらいたい。経済生活のあり方についても検討したい。

◆**授業方法** 講義方式。

◆**準備学習** あらかじめ各自が現在の経済問題に関心を持つこと。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 シラバス授業	11 回目 収穫通減の法則、等量曲線	21 回目 国民資本と国民所得
2 回目 シラバス授業	12 回目 生産費の理論	22 回目 国民所得概念：GNP、NNP、GDP
3 回目 経済学とはなにか	13 回目 平均費用曲線・限界費用曲線	23 回目 ケインズ型消費関数
4 回目 経済学研究の手続き	14 回目 生産者余剰、生産要素の最適結合	24 回目 国民所得の決定
5 回目 資本主義と社会主義	15 回目 最大利潤、供給曲線	25 回目 LM、IS 曲線
6 回目 効用概念、限界効用均等の法	16 回目 完全競争化の価格決定	26 回目 景気循環
7 回目 無差別曲線、最適消費計画	17 回目 不完全競争化の価格決定	27 回目 経済の展望
8 回目 消費者余剰、家計の支出	18 回目 貨幣の理論	28 回目 失われた 20 年
9 回目 価格消費曲線・所得消費曲線	19 回目 金融の役割	29 回目 少子高齢化とグローバル化
10 回目 生産の定義と生産函数	20 回目 国民経済の構造と循環	30 回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 国選『経済学』 瀬川浩・田村和彦共著 校門書房出版部 2,940 円（税込）（送料 340 円）必ず購入し、予習しておくこと。

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験（100%）。ただし、授業は毎回出席することを前提とする。

◆**E-Mail：**

科学的な心のとらえ方

〔心理学〕

水曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：野村 康治

◆**学習目標** 「心」の理解はともすれば主観的なものになりがちであり、主観的理解は思い込みや誤解を生むことがある。この授業では心理学が「心」という目に見えないものに関する問題にいかに関わり、どのようなことを見出し、それを説明する。心理学の基礎的知識を習得することで科学的な人間理解を目指す。

◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員が質問をしたり、意見を求めることもある。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆**準備学習** 科学は疑問を持つこと、つまり問題を見つけることから始まる。そして、心に関する問題は日常の生活場面に溢れている。日常場面での様々な心の問題を見つけ出し、そのことに疑問を持ちながら毎回の授業に臨んで欲しい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 心理学とは	11 回目 記憶（記憶の過程）	21 回目 学習（認知理論）
2 回目 心と体	12 回目 記憶（記憶のメカニズム）	22 回目 学習（社会的学習）
3 回目 心と脳	13 回目 記憶（記憶のあいまいさ）	23 回目 発達（遺伝と環境）
4 回目 感覚（感覚のメカニズム）	14 回目 思考（知識の構造）	24 回目 発達（認知発達）
5 回目 感覚（刺激と感覚の関係）	15 回目 思考（人間の思考の特徴）	25 回目 発達（人格発達）
6 回目 知覚（物理世界と知覚世界）	16 回目 行動の生起	26 回目 知能（知能の測定）
7 回目 知覚（人間の知覚の特徴）	17 回目 欲求と欲求不満	27 回目 知能（知能の構造）
8 回目 知覚（知覚の体制化）	18 回目 適応と不適応	28 回目 性格（性格理論）
9 回目 高次知覚（初期認知）	19 回目 動機づけ	29 回目 性格（性格の測定）
10 回目 注意	20 回目 学習（連合理論）	30 回目 授業まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 国選『心理学 0035』 通信教育教材（教材コード 000483） 2,750 円（送料込）
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』 藤田主一他著（福村出版）と同一です〉
※平成 25 年度改訂教材

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 成績は試験結果を重視し、これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて評価する。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

□リーディングを中心とした英語学習

〔英語 A〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：小山 誠子

◆**学習目標** イギリスについて書かれた英文のリーディングを通して、①英文を正確に発音し、②構文（文法）を確認し、③文章（paragraph 毎及び文章全体（chapter））の理解に努める。加えて、④語彙力の増強をはかる。また、「英語」の国である「イギリス」文化への理解を深める。

◆**授業方法** 下記授業計画（1 Chapter/ 授業 2 回の割合）に従い、英文の基本構造（文法）を確認しながら、受講者全員の分担による本文の①音読及び②和訳をおこなった後、Exercises や Summary により情報を整理する。Chapter 毎に単語テスト（V.T.=Vocabulary Test 成績評価の一部）を行う。さらに、トピックに関連した事柄の調査報告を受講者から募集し、受講者主体による積極的な授業を展開する（こちら成績評価に加える）。

◆**準備学習** 授業開始までに本文該当箇所を一読し、不明なものは辞書にあたり、全ての英語の発音 / 品詞及び意味（定義全体を概観した後概念として代表的なものを 2, 3）を記録する。その後全体的な内容を予想しながら再度本文を一読する。（受講者決定後は分担して担当箇所の①音読②和訳を行う。）

※詳細は初回ガイダンスにて指示する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 Chapter 5（後半）	21 回目 Chapter 10（前半）+V.T.9
2 回目 Chapter 1（前半）	12 回目 Chapter 6（前半）+V.T.5	22 回目 Chapter 10（後半）
3 回目 Chapter 1（後半）	13 回目 Chapter 6（後半）	23 回目 Chapter 11（前半）+V.T.10
4 回目 Chapter 2（前半）+V.T.1	14 回目 Chapter 7（前半）+V.T.6	24 回目 Chapter 11（後半）
5 回目 Chapter 2（後半）	15 回目 前期テスト	25 回目 Chapter 12（前半）+V.T.11
6 回目 Chapter 3（前半）+V.T.2	16 回目 Chapter 7（後半）	26 回目 Chapter 12（後半）
7 回目 Chapter 3（後半）	17 回目 Chapter 8（前半）+V.T.7	27 回目 Chapter 13（前半）+V.T.12
8 回目 Chapter 4（前半）+V.T.3	18 回目 Chapter 8（後半）	28 回目 Chapter 13（後半）
9 回目 Chapter 4（後半）	19 回目 Chapter 9（前半）+V.T.8	29 回目 Chapter 14（前半）+V.T.13
10 回目 Chapter 5（前半）+V.T.4	20 回目 Chapter 9（後半）	30 回目 Chapter 14（後半）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『*Made in Britain* イギリスの底力』成美堂 1,890 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 大学生・社会人レベルの英語辞書（電子辞書を含む）を毎回持参のこと。

※ 携帯電話の辞書替わりの使用は一切認めない。

◆**成績評価基準** 平常（Vocabulary Test 結果 / 授業への積極的取組）：50% 試験：50%

◆**E-Mail：**

□O.Henry の短編小説を読む

〔英語 B〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：鈴木 ふさ子

◆**学習目標** みなさんは O.Henry の短編小説に一度は触れたことがあるのではないのでしょうか。ユーモアとペーソス、絶妙なオチなど様々な魅力で長年読み継がれてきた作品を通して英文の正確な把握力を高めていきます。その過程で作品の舞台となっている 20 世紀初頭の New York の文化や時代背景についても知識を深め、作品の多面的な解釈を目指します。また、小説にふさわしい表現に翻訳するセンスを身につけることも目標とします。

◆**授業方法** 指名された受講生は、テキストの予習に指定した範囲の音読と翻訳をします。分量としてはひとり一段落ずつほどになると思います。構文がとりにくかった箇所、イメージが湧きにくかった箇所、日本語にしにくい箇所などをクラス全体で考えていきます。毎回読んだ箇所から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。また、よい訳を考えるなどのグループワークも取り入れる予定です。

◆**準備学習** 毎回次に進む範囲を、音読し、ひとつひとつの単語を丁寧に調べて、テキスト巻末の NOTES を参照した上で、情景をイメージしながら、自分なりの翻訳を作成してきて下さい。訳している最中にわかりにくかった箇所を挙げられるようにしておいて下さい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 テキスト精読、確認テスト	21 回目 テキスト精読、確認テスト
2 回目 テキスト精読、確認テスト	12 回目 テキスト精読、確認テスト	22 回目 テキスト精読、確認テスト
3 回目 テキスト精読、確認テスト	13 回目 テキスト精読、確認テスト	23 回目 テキスト精読、確認テスト
4 回目 テキスト精読、確認テスト	14 回目 New York について①	24 回目 テキスト精読、確認テスト
5 回目 テキスト精読、確認テスト	15 回目 ディスカッション	25 回目 テキスト精読、確認テスト
6 回目 テキスト精読、確認テスト	16 回目 テキスト精読、確認テスト	26 回目 テキスト精読、確認テスト
7 回目 テキスト精読、確認テスト	17 回目 テキスト精読、確認テスト	27 回目 テキスト精読、確認テスト
8 回目 テキスト精読、確認テスト	18 回目 テキスト精読、確認テスト	28 回目 テキスト精読、確認テスト
9 回目 テキスト精読、確認テスト	19 回目 テキスト精読、確認テスト	29 回目 New York について②
10 回目 テキスト精読、確認テスト	20 回目 テキスト精読、確認テスト	30 回目 ディスカッション

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『*The Best Short Stories of O.Henry*』（『O. ヘンリー短編傑作集』）石黒心裕注 開文社 1,260 円（税込）（送料 260 円）

◆**参考書** 必要に応じて、授業時に指示します。

電子辞書でも構わないので、中型の辞書を毎回持参するようにして下さい。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提とするので、欠席はしないようにしましょう。

平常点（授業への貢献・貢献・予習）20%、確認テスト 30%、最終（期末）試験 50%で評価します。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆コミュニケーションによる判断力の育成

〔英語 C〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：岡田 善明

◆**学習目標** テキストの英文を聞き、社会問題についての賛否による理解力と判断力を培い、弁証法的なコミュニケーション能力を育成することを目指す。英語による理解力と思考力を育成する。

◆**授業方法** テキストを用いて、リスニングによる理解力を育成するために、問題練習と英語による討論を行い、的確な判断力と意思伝達能力を伸ばす。テキストのテーマに合わせて何回かスピーチを学生に課す。授業は英語で行い、英語によるパラフレーズ等の説明で、英語で理解し英語で考える力を育成したい。

◆**準備学習** 毎週の活動のために、必ず予習して授業に取り組む心がけが大切で、知らない単語を辞典で調べ授業では分からない単語がない状態にするために、よく予習することが成功につながる。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Unit 1. The Internet	11 回目 6. Junk food	21 回目 10. Animal testing
2 回目 1. The Internet	12 回目 6. Junk food	22 回目 11. Temporary workers
3 回目 2. Neets	13 回目 7. Paternity Leave	23 回目 11. Temporary workers
4 回目 2. Neets	14 回目 7. Paternity leave	24 回目 12. Robot care
5 回目 3. Fashion	15 回目 中間テスト	25 回目 12. Robot care
6 回目 3. Fashion	16 回目 8. Depopulation	26 回目 13. College
7 回目 4. Environment	17 回目 8. Depopulation	27 回目 13. College
8 回目 4. Environment	18 回目 9. Examination	28 回目 15. Welfare
9 回目 5. International marriage	19 回目 9. Examination	29 回目 15. Welfare
10 回目 5. International marriage	20 回目 10. Animal testing	30 回目 復習

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『For and Against（『賛否両論、英語で表現する社会問題』）』成美堂 2,310 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 英英辞典を必ず持参する。マクミラン、ロングマン、オックスフォード社の英英辞典が推薦できる。

◆**成績評価基準** スピーチと中間・最終試験により評価する。

◆**E-Mail：**

◆英文の基本構造を理解する

〔英語 D〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：北原 安治

◆**学習目標** 五文型に基づき、英文の構造を把握する講義。

◆**授業方法** 予習段階で英文を 5 行ほどの間隔でノートに写す。その英文の下に S（主語）、V（動詞）などを書いてもらい、訳を付ける。細かく板書するので訳が書き取れないということはない。予習の段階で必ず本文をノートに写してこること。各色のマーカーなど持ってくると良い。受講者の速度に合わせるので、かならずしも授業計画どおりにはならない。本文のみやり練習問題はやらない。最終の試験日にノート検査をする。ノート無きものは単位を与えない。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。第 3 章から始める。

◆**準備学習** 予習段階で英文を 5 行ほどの間隔でノートに写す。ノートの見開きの左のページに英文を写し、右のページに訳をつけても良い。単語を調べてこること。毎回和訳小テストをするので辞書を持てこること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Ch. 3	11 回目 Ch. 4	21 回目 Ch. 5
2 回目 Ch. 3	12 回目 Ch. 4	22 回目 Ch. 5
3 回目 Ch. 3	13 回目 Ch. 4	23 回目 Ch. 5
4 回目 Ch. 3	14 回目 Ch. 4	24 回目 Ch. 5
5 回目 Ch. 3	15 回目 Ch. 4	25 回目 Ch. 5
6 回目 Ch. 3	16 回目 Ch. 4	26 回目 Ch. 5
7 回目 Ch. 3	17 回目 Ch. 4	27 回目 Ch. 5
8 回目 Ch. 3	18 回目 Ch. 4	28 回目 Ch. 5
9 回目 Ch. 3	19 回目 Ch. 4	29 回目 Ch. 5
10 回目 Ch. 3	20 回目 Ch. 4	30 回目 授業内試験

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『Major Countries in the World ～世界の主要国～』小泉和弘編
鳳書房（Tel/Fax (03) 3483-3723）1,890 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 丸沼『ロイヤル英文法』1,890 円 旺文社 1,890 円（税込）（送料 500 円）
この本は講義では使いません。辞書は毎回持てこること。

◆**成績評価基準** 試験、小テストなどの総合評価。皆出席を望む。前期試験はなし。30 回目に授業内試験を行う（辞書は参照不可）。抜き打ちの実力テストも何回か行う。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆基本的な英語力の育成

〔英語 E〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：石川 勝

◆**学習目標** テキストの読解を中心に、基本的な文法の説明やリスニングを行い、英語の基礎力の底上げを図ることを目的とする。テキストはヨーロッパの歴史と文化に関する内容で親しみやすいと思われる。

◆**授業方法** 事前にテキストの訳をやってきてもらい、授業中指名して発表してもらおう形をとる。そのあとで英文の構造や背景の説明を行う。

◆**準備学習** 前の授業で指示された個所の予習を必ずしておくこと。2 回予習していない場合は単位を認めない。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 chapter 3	21 回目 chapter 5
2 回目 chapter 1	12 回目 chapter 3	22 回目 chapter 5
3 回目 chapter 1	13 回目 chapter 3	23 回目 chapter 5
4 回目 chapter 1	14 回目 chapter 3	24 回目 chapter 6
5 回目 chapter 1	15 回目 テスト	25 回目 chapter 6
6 回目 chapter 2	16 回目 chapter 4	26 回目 chapter 6
7 回目 chapter 2	17 回目 chapter 4	27 回目 chapter 6
8 回目 chapter 2	18 回目 chapter 4	28 回目 chapter 7
9 回目 chapter 2	19 回目 chapter 4	29 回目 chapter 7
10 回目 chapter 3	20 回目 chapter 5	30 回目 テスト

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～ 24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『*Understanding Europe*』金星堂 1,995 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 数回行う小テストの結果で成績を判断する。

◆**E-Mail** :

◆シェイクスピア作品を味わう

〔英語 F〕

木曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：大住 有里子

◆**学習目標** イギリスの劇作家 William Shakespeare の作品を味わいます。Roger Lancelyn Green が今の英語で、物語に書き直したものを読みます。Shakespeare 作品の中から『ヴェニスの商人』『ロミオとジュリエット』『ハムレット』を。400 年強昔に書かれた劇は未だに劇場で演じられ、映画化され、また新たに生まれてくる作品に影響を与えています。授業でゆっくり読みながら、Shakespeare 作品の古典である所以をご自分で発見できると思います。作品を味わうことと、辞書があれば自分である程度内容が取れるようになることを目標とします。

◆**授業方法** 一人ずつ、一段落から二段落ほどを読んでいただき、その部分の大まかな内容を言っていただきます。質問を挙げていただき、それを共に考え、解決して読み進めていきます。

◆**準備学習** 事前にテキストを読み、知らない単語は辞書で調べ、自分なりに内容を把握しておいで下さい。予習の段階で意味の取れない文などを質問として挙げてください。授業で解説します。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 授業の説明・はしがき	11 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	21 回目 <i>Hamlet</i>
2 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	12 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	22 回目 <i>Hamlet</i>
3 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	13 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	23 回目 <i>Hamlet</i>
4 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	14 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	24 回目 <i>Hamlet</i>
5 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	15 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	25 回目 <i>Hamlet</i>
6 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	16 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	26 回目 <i>Hamlet</i>
7 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	17 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	27 回目 <i>Hamlet</i>
8 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	18 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	28 回目 <i>Hamlet</i>
9 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	19 回目 <i>Romeo and Juliet</i>	29 回目 <i>Hamlet</i>
10 回目 <i>The Merchant of Venice</i>	20 回目 <i>Romeo and Juliet</i> (DVD 鑑賞)	30 回目 <i>Hamlet</i> (DVD 鑑賞)

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～ 24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『*The Tales from Shakespeare*』Roger Lancelyn Green 川地美子 編注 成美堂 2006 年第 24 版発行 1,260 円（税込）（送料 260 円）

◆**参考書** シェイクスピア作品の翻訳は多くあります。小田島雄志訳、白水 U ブックス。松岡和子訳、ちくま文庫。安西徹雄訳、光文社古典新訳文庫。これらをお勧めします。

◆**成績評価基準** 授業への参加具合と試験から総合的に評価します。

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

英語で社会の出来事を読む

〔英語 G〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：中村 則子

◆**学習目標** 英語で書かれた社会事象についての文章を読むことで、英文読解のスキルを向上させる。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆**授業方法** テキストは reading の学習のみならず、その他の英語技能 (listening, speaking, writing) も学べるように構成されている。テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、これらの4技能を習得していく。毎回、英文読解の発表をしてもらうことになる。小グループに分かれての活動も考えている。授業の進み具合により、シラバス通りにいかない場合があることをおことわりしておく。

◆**準備学習** 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、テレビのニュースをまず、日本語放送で聞く、二か国語対応のニュースを英語で聞く、日本語の新聞を読む、やさしく解説してあるような英字新聞を読む等により、世界でおこっている出来事に興味をもち、まずは日本語で、そして英語でメディアから情報を入手する作業をしてほしい。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回目 ガイダンス	11 回目 Unit5 The Egyptian	21 回目 Uni10 Sushi
2 回目 Unit1 Gun Control	12 回目 Unit6 The 21st Century ...	22 回目 Uni11 Living in a ...
3 回目 Unit1 Gun Control	13 回目 Unit6 The 21st Century ...	23 回目 Uni11 Living in a ...
4 回目 Unit2 Say Hi to Hybrids	14 回目 Unit7 Academy Awards	24 回目 Unit12 The "Freeter" ...
5 回目 Unit2 Say Hi to Hybrids	15 回目 Unit7 Academy Awards	25 回目 Unit12 The "Freeter" ...
6 回目 Unit3 Skyscrapers	16 回目 Unit8 California, Here I ...	26 回目 Unit13 The Computer ...
7 回目 Unit3 Skyscrapers	17 回目 Unit8 California, Here I ...	27 回目 Unit13 The Computer ...
8 回目 Unit4 Virtual Reality	18 回目 Uni9 Anyone for a Cup of ...	28 回目 復習
9 回目 Unit4 Virtual Reality	19 回目 Uni9 Anyone for a Cup of ...	29 回目 期末試験
10 回目 Unit5 The Egyptian	20 回目 Uni10 Sushi	30 回目 試験解説

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** 〔国〕『A Complete College English Program Book 1』 土屋武久他著 金星堂 1,837 円 (税込) (送料 260 円)

◆**参考書** ガイダンスにて指示。適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆**E-Mail :**

簡単な英語で社会の出来事を読む

〔英語 H〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：中村 則子

◆**学習目標** 簡単な英語で書かれた社会事象についての文章を読むことで、英文読解のスキルを向上させる。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆**授業方法** テキストは reading の学習のみならず、その他の英語技能 (listening, speaking, writing) も学べるように構成されている。テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、これらの4技能を習得していく。毎回、英文読解の発表をしてもらうことになる。比較的、平易な英文で構成されているため、基礎的な英語を学びたい学習者向けの講座である。授業の進み具合により、シラバス通りにいかない場合があることをおことわりしておく。

◆**準備学習** 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、テレビのニュースをまず、日本語放送で聞く、二か国語対応のニュースを英語で聞く、日本語の新聞を読む、やさしく解説してあるような英字新聞を読む等により、世界でおこっている出来事に興味をもち、まずは日本語で、そして英語でメディアから情報を入手する作業をしてほしい。

◆**授業計画 (各 90 分)**

1 回目 ガイダンス	11 回目 Unit5 Robots	21 回目 Uni10 Instant Ramen
2 回目 Unit1 Vending Machine	12 回目 Unit6 Chips or Fries?	22 回目 Uni11 Love Is Blind?
3 回目 Unit1 Vending Machine	13 回目 Unit6 Chips or Fries?	23 回目 Uni11 Love Is Blind?
4 回目 Unit2 Yakushima	14 回目 Unit7 There's No Cooling ...	24 回目 Unit12 A Short History ...
5 回目 Unit2 Yakushima	15 回目 Unit7 There's No Cooling ...	25 回目 Unit12 A Short History ...
6 回目 Unit3 MLB	16 回目 Unit8 Miracles Do Happen	26 回目 Unit13 Leonardo da Vinci
7 回目 Unit3 MLB	17 回目 Unit8 Miracles Do Happen	27 回目 Unit13 Leonardo da Vinci
8 回目 Unit4 Great Actress	18 回目 Uni9 What Is Clean Energy?	28 回目 復習
9 回目 Unit4 Great Actress	19 回目 Uni9 What Is Clean Energy?	29 回目 期末試験
10 回目 Unit5 Robots	20 回目 Uni10 Instant Ramen	30 回目 試験解説返

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** 〔国〕『A Complete College English Program Book 3』 土屋武久他著 金星堂 1,995 円 (税込) (送料 340 円)

◆**参考書** ガイダンスにて指示。適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆**E-Mail :**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆英語の4つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）をしっかりと身につける〔英語 J〕

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：青木 克憲

◆学習目標 英語の基礎力を「聞く」「話す」「読む」「書く」といった練習を通してしっかりと自分のものにすることを目標とする。

◆授業方法 CD を活用し、教科書の Warm-up, Listening, Conversation の箇所では特に Hearing の力を向上させる。Grammar, Reading の箇所では、担当者が説明を行った後、練習問題を答えてもらう。

◆準備学習 あらかじめ CD を聞いておくことや、語句の意味を調べたり、練習問題を解いておく、Reading の内容を考えておく等、十分な予習をしておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 ⑤ I need your help	21 回目 ⑨ I feel sick
2 回目 ① Nice to meet you	12 回目 ⑥ What's the teacher like	22 回目 ⑨ I feel sick
3 回目 ① Nice to meet you	13 回目 ⑥ What's the teacher like	23 回目 ⑩ I'd like to open an account
4 回目 ② I'd like Diet Coke	14 回目 まとめ及び復習	24 回目 ⑩ I'd like to open an account
5 回目 ② I'd like Diet Coke	15 回目 中間テスト	25 回目 ⑪ I was disappointed
6 回目 ③ I need your advice	16 回目 後半のガイダンス（テストの結果）	26 回目 ⑪ I was disappointed
7 回目 ③ I need your advice	17 回目 ⑦ I have sweets	27 回目 ⑫ Challenge 3
8 回目 ④ Challenge 1	18 回目 ⑦ I have sweets	28 回目 ⑫ Challenge 3
9 回目 ④ Challenge 1	19 回目 ⑧ Challenge 2	29 回目 まとめ及び復習
10 回目 ⑤ I need your help	20 回目 ⑧ Challenge 2	30 回目 まとめ及び復習

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 丸沼『English Connections, Study & Holiday 1』マクミラン ランゲージハウス 2,205 円（税込）（送料 340 円）

◆参考書 授業のときに紹介します。

◆成績評価基準 予習状況、授業態度を含めた平常点（30%）、2 回のテストの平均（70%）で評価します。

◆E-Mail：

◆基礎英語で TOEIC にもチャレンジ！〔英語基礎 A〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：飯野 朝世

◆学習目標 ①英語の音の聞き取りができ、それを真似ることができる。
②日常表現を習得できる。
③何気なく TOEIC Test 形式に慣れてしまう。

◆授業方法 ①各ユニットを 1～2 回にわたって学習します。テキストの習得内容を応用段階にまで発展させていきます。
②英語独特の音の聞き取り練習、発音練習も含み、日常使われる言い回しも練習を重ねます。③これらの練習が基本となり、徐々に TOEIC Test 形式に慣れていきます。④随時小テストを行ないます。

◆準備学習 ①添付 CD を何度も聞いて英語の音やリズムに慣れてください。
②知らない単語があれば意味を調べておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕（以下の予定は授業の進行状況により変わることもあります。）

1 回目 ガイダンス	11 回目 U-5 拾い読みのテクニック	21 回目 U-11 聞き取り練習
2 回目 U-1 身の回りの物・場所	12 回目 U-6 MacDonald で注文する	22 回目 U-11 英語の語順
3 回目 U-1 語彙の選択	13 回目 U-6 動詞の形	23 回目 U-12 否定で問われたら
4 回目 U-2 wh で始まる疑問文	14 回目 U-7 ? 文への応答	24 回目 U-12 正しい語形は？
5 回目 U-2 語句の共通点	15 回目 U-7 形容詞、副詞を使う	25 回目 U-13 位置関係
6 回目 U-3 関連語句を聞きとる	16 回目 U-8 数の練習・飛ばし読み	26 回目 U-13 必要な情報を読み取る
7 回目 U-3 派生語	17 回目 U-9 人やモノの状態	27 回目 U-14 英語のまま理解する
8 回目 U-4 Yes? それとも No?	18 回目 U-9 正しい形容詞・副詞は	28 回目 U-14 疑問・関係&接続詞
9 回目 U-4 名詞の形	19 回目 U-10 自然な応答とは？	29 回目 U-15 否定？に答える
10 回目 U-5 人の動作	20 回目 U-10 前置詞の表す意味	30 回目 U-15 スピードアップする

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 丸沼『TOEIC Bridge : Training Tips (TOEIC Bridge で学ぶ大学基礎英語)』CD 付 高山芳樹 著 南雲堂 2012 年 1,785 円（税込）（送料 340 円）

◆参考書 授業では使用しません。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として、①授業への積極的参加度、発表など（平常点）：50%、②随時行なう小テストの平均点：50%により総合的に評価します。

◆E-Mail：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆ナショナルジオ映像から 4 スキル習得へ

〔英語基礎 B〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：町田 純子

◆**学習目標** ナショナルジオグラフィックの人間と自然や科学のトピックに DVD で触れながら、語彙力増強や基礎文法の復習を踏まえたリーディング、リスニング、スピーキング及び、ライティングの英語の言語運用能力の 4 スキルを総合的に習得することが目的です。

◆**授業方法** DVD でヴィジュアルな映像から、概要を掴み、口語英語の表現に慣れます。200 語程度の英文読解を速読(速聴)し、段階的にペアーワーク中心のタスクベースの授業展開を進めます。段落毎の展開方法を抑え、要点を把握し、基本文法項目を短時間で覚えながら、理解の度合いをチェックします。ペアーワークによるディスカッションも多く取り入れます。

◆**準備学習** 教科書はすべて英語で書かれた洋書です。コミュニケーションスキルとしてのコミュニケーション能力習得のために、積極的に取り組む姿勢が求められます。基本的にペアーワークを進めていきますので、講義中は履修者同志のコミュニケーションにも前向きに取り組んでください。ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上、授業に臨み、必ず分からない単語は辞書で調べる等の予習、復習をしてください。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 ガイダンス & Unit 1	11 回目 Unit 6 Living in Venice	21 回目 Unit 11 Global Warming
2 回目 Unit 1 A Taste of Mexico	12 回目 Unit 6 Living in Venice	22 回目 Unit 11 Global Warming
3 回目 Unit 2 Lighting	13 回目 Unit 7 Tornado Chase	23 回目 Unit 12 More Water for India
4 回目 Unit 2 Lighting	14 回目 Unit 7 Tornado Chase	24 回目 Unit 12 More Water for India
5 回目 Unit 3 Penguins in Trouble	15 回目 Unit 8 Treasures in Old San Juan	25 回目 Unit 13 Tsunami: Killer Wave
6 回目 Unit 3 Penguins in Trouble	16 回目 Unit 8 Treasures in Old San Juan	26 回目 Unit 13 Tsunami: Killer Wave
7 回目 Unit 4 Parasomnia	17 回目 Unit 9 Bee Therapy	27 回目 Unit 14 Mecca & Butler School
8 回目 Unit 4 Parasomnia	18 回目 Unit 9 Bee Therapy	28 回目 Unit 14 Mecca & Butler School
9 回目 Unit 5 Maasai Teacher	19 回目 Unit 10 Inca Mummy	29 回目
10 回目 Unit 5 Maasai Teacher	20 回目 Unit 10 Inca Mummy	30 回目

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『World in Focus : Video Course Book』Rebecca Kleuberg Moller センゲージラーニング 2012 年 第 1 版 2,520 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 英和辞書（電子辞書）は必携です。

◆**成績評価基準** 全出席を前提に、毎回の宿題提出（20%）＋まとめの試験（60%）＋発表等の授業に積極的に取り組む姿勢（20%）を総合的に評価します。

◆**E-Mail：**

◆TOEIC test 500 点突破目標

〔TOEIC A〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：八木 茂那子

◆**学習目標** 本講座は入学して初めて TOEIC Test を受験しようとしている人、あるいは 1,2 度受けたことがあり、更にスコアアップを目指そうとする人など主に入門レベルにある人を対象とし、TOEIC テスト 500 点突破を目標に効果的な英語学習をするための基本的トレーニング方法を体得することと学習の習慣化を確立することを目標とします。

◆**授業方法** 授業では Listening Part と Reading Part の演習を交互に行い、Listening, Speaking, Reading, Writing の four skills を満遍なく取り込みながら楽しくトレーニングしていく予定です。受講者のレベルや理解度、進度に応じ授業内容を変更する場合があります。

◆**準備学習** 家庭学習として指定された問題を時間を計って 2 回解いて来る事：一回目は時間を計り、参照物なしで、2 回目はペンの色を変え、オープンブック、（辞書、文法書、など参照物を参照しながら、解いてきて下さい。授業中に 3 回目を解くことになります。（このように同じ問題を繰り返し解くことにより、学習内容の定着が図られます。）

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 ガイダンス 学習目標設定	11 回目 Lesson9 Listening Practice	21 回目 Lesson17 Listening Practice
2 回目 Lesson1 Listening Practice	12 回目 Lesson10 Reading Practice	22 回目 Lesson18 Reading Practice
3 回目 Lesson2 Reading Practice	13 回目 Lesson11 Listening Practice	23 回目 Lesson19 Listening Practice
4 回目 Lesson3 Listening Practice	14 回目 Review test (1) Listening	24 回目 Lesson20 Reading Practice
5 回目 Lesson4 Reading Practice	15 回目 Review test (2)	25 回目 Lesson21 Listening Practice
6 回目 Lesson5 Listening Practice	16 回目 Lesson12 Reading Practice	26 回目 Lesson22 Reading Practice
7 回目 Mini TOEIC (1)	18 回目 Lesson13 Listening Practice	27 回目 Lesson23 Listening Practice
8 回目 Lesson6 Reading Practice	19 回目 Lesson14 Reading Practice	28 回目 Lesson24 Reading Practice
9 回目 Lesson7 Listening Practice	20 回目 Lesson15 Listening Practice	29 回目 実践問題演習 Listening Practice
10 回目 Lesson8 Reading Practice	21 回目 Lesson16 Reading Practice	30 回目 実践問題演習 Reading Practice

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『Navigator for the TOEIC Test』Newly Updated Edition Donald Beaver Michael Walker Kei Mihara 南雲堂 1,890 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 丸沼『TOEIC テスト新公式問題集 Vol.5』TOEIC 運営委員会 2,940 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 筆記試験 50%＋平常点（提出物、小テスト、発表、Oral Test 他）50%による総合評価（受講者のレベルにより調整を加えることがあります。）

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆中学の英語をフランス語に変換します

〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：大庭 克夫

◆**学習目標** 英語にすれば中 1・中 2 レベルの内容が、フランス語で言えて・書けて・聴き取れるようにするのが目標です。また 11 月のフランス語検定試験 5 級にもぜひチャレンジしていただきたいと思います。授業でも過去問を使ってそのための演習時間を割く予定です。

◆**授業方法** 中 1・中 2 の英語をベースに（基礎英語＝中学で習う英語がきちんと身に付いていることが単位取得可能の大前提です）、基本的な単語、提示の仕方、動詞の人称変化や形容詞の用法などを学習していきます。2012 年度の学習内容とほぼ同一です。なお授業は＜講義形式＞ではなく＜ゼミ形式＞で進めていきます。1 回の授業で最低 4～5 回は当てて答えてもらいますのでそのつもりで。

◆**準備学習** 外国語の学習はレンガを 1 段ずつ積み上げていくのと同じです。例えば 2 段目のレンガは 1 段目のレンガの上にしか載せられないように、フランス語も第 1 課の内容がきちんと身につけていない限り第 2 課の内容を習得することは不可能です。そういう意味で、前週に習った事柄をきちんと身に付けて＝覚えてから翌週の授業に臨んでください。これが取りも直さず最大の予習です。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 綴り字と発音の関係 1	11 回目 動詞＜avoir＞の活用と用例	21 回目 まとめとヒヤリング演習
2 回目 綴り字と発音の関係 2	12 回目 形容詞の用法	22 回目 後期中間試験
3 回目 不定冠詞と基本的な名詞	13 回目 まとめとヒヤリング演習	23 回目 仏語検定試験 5 級演習 1
4 回目 部分冠詞と基本的な名詞	14 回目 前期期末試験	24 回目 仏語検定試験 5 級演習 2
5 回目 定冠詞と提示の仕方	15 回目 前期期末試験の返却と解説	25 回目 不規則動詞の活用と用例 4
6 回目 前期中間試験	16 回目 数・曜日・月・季節	26 回目 不規則動詞の活用と用例 5
7 回目 第 1 群規則動詞の活用	17 回目 第 2 群規則動詞の活用と用例	27 回目 不規則動詞の活用と用例 6
8 回目 第 1 群規則動詞の用例 1	18 回目 不規則動詞の活用と用例 1	28 回目 期末試験範囲まとめ 1
9 回目 第 1 群規則動詞の用例 2	19 回目 不規則動詞の活用と用例 2	29 回目 期末試験範囲まとめ 2
10 回目 動詞＜être＞の活用と用例	20 回目 不規則動詞の活用と用例 3	30 回目 ヒヤリング演習

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 22 日～25 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕必要に応じて授業毎にプリントを配布します。

◆**参考書** 仏和辞典が必要です。引いた痕跡が残らない電子辞書は個人的にはお薦めしません。きちんと取り組むのならやはり紙の辞書がベターです。初回授業時に手頃な辞書を何冊か紹介します。

◆**成績評価基準** 試験は前期と後期にそれぞれ中間と期末の 2 回ずつ行い、成績はこの試験の結果＝努力の結果で判定します。なお試験は全問＜和文仏訳＞と＜ヒヤリング形式＞（原文を書き取ったのち和訳する）で出題します。安直な和訳・穴埋め・書き換え・択一等は一切出題しません。

◆**E-Mail**：

◆漢字に頼らないリスニング力

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：稲葉 明子

◆**学習目標** 漢字の意味がわかることは大きな強みでもありますが、初期の関門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を発揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。語順・時量・アスペクト等、中国語特有の独特な世界観を、実際の場面から把握し、文法的理解へ繋げていきます。

◆**授業方法** 冒頭 5 分で発音体系を機械的に把握し、教科書本文に入ってから新出単語を用いて大量の発音練習をすることによって、前期には発音体系を完全に理解し、後期には中国人の納得する発音ができるようにします。各課本文と文法体系の把握も、毎回学習者自らの耳で探る展開で行い、自立的な言語習得に繋がります。

◆**準備学習** ある程度の基礎ができるまでは、敢えて予習はせず、指示通りの復習を必ず行ってください。教科書本文に入ってから、毎回教科書本文についてディクテーション小テストを行います。この対策を毎回こなすことで、着実に実力がついていきます。教材音声に手軽に親しめる環境を工夫してください。（付属 CD をプレーヤーに取り込む、出版社の HP にアクセスするなど）

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 第 5 課 紹介と自己紹介	21 回目 第 13 課 アルバイト
2 回目 中国語の構造と音節表	12 回目 第 6 課 家庭について	22 回目 第 14 課 誕生パーティー
3 回目 声調と母音	13 回目 第 7 課 家はどこですか	23 回目 第 15 課 電話を掛ける
4 回目 子音 1	14 回目 前期まとめ	24 回目 第 16 課 道を尋ねる
5 回目 子音 2	15 回目 前期試験	25 回目 第 17 課 レストランにて
6 回目 第 1 課 発音総合	16 回目 第 8 課 おいくつですか	26 回目 第 18 課 ホテルにて
7 回目 第 2 課 二音節のリズム	17 回目 第 9 課 今何時ですか	27 回目 第 19 課 インターネット
8 回目 第 2 課 練習	18 回目 第 10 課 何時に起きますか	28 回目 第 20 課 分かりますか
9 回目 第 3 課 姓名を聞く	19 回目 第 11 課 いくらですか	29 回目 総復習 1
10 回目 第 4 課 お詫びする	20 回目 第 12 課 趣味は何ですか	30 回目 総復習 2

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔教材〕『中国語Ⅰ 0061』 通信教育教材（教材コード 000456）2,750 円（送料込）

〈この教材は市販の『中国語@キャンパス会話編（改訂版）』関中研（朝日出版社）と同一です〉

〔当日資料配布〕その他プリントを配布。

◆**参考書** 教場で指示します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、小テストなどにより総合的に評価します。試験は、リスニングが中心となります。受講前に予想できる内容ではなく、柔軟な発想が必要ですが、指示通りに取り組めば、難しいものではありません。

◆**E-Mail**：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

□健康・体力の維持増進について考える

〔保健体育講義Ⅰ〕

9 / 2(月)～5(木)〔午前〕

開講単位 1 単位

担当者：吉本 俊明

◆**学習目標** 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについての知識を身につけることは必要不可欠です。この授業では、それらの知識が生活習慣に結びつくことをねらいとしています。

◆**授業方法** 講義形式の授業ですが、毎回配布資料を準備し、それに沿って授業を進めます。また各授業の最後に講義内容から1問出題して解凍してもらい、評価の参考とします。

◆**準備学習** 健康・体力に関するマスコミの情報に注目するよう心がけてきてください。

◆**授業計画〔各 180 分〕 授業時間は各日 9：00～12：00**

9 / 2	午前	1 回目 健康および健康管理について 体力の定義について
9 / 3	午前	2 回目 エネルギー論的体力とその維持増進の方法について 呼吸循環器系体力とその維持増進の方法について
9 / 4	午前	3 回目 スポーツ技能の上達とは何か、またその上達方法について レジャー・レクリエーションの必要性について
9 / 5	午前	4 回目 健康と環境の関係について まとめ及び試験

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 授業時にプリントを配布します。

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み及び試験結果を総合的に評価します。

◆**E-Mail：**

※この講座は、授業日程、時間及び会場が他の講座とは異なるため、注意してください。詳細については本誌 11, 12 ページを参照すること。

□運動・スポーツに親しむ

〔体育実技〕

9 / 2(月)～5(木)〔午後〕 及び 9 / 6(金)〔終日〕

開講単位 1 単位

担当者：吉本 俊明

◆**学習目標** 高齢社会を迎え、健康・体力の維持増進の必要性は益々重要になってきています。この授業では、運動・スポーツの実践を通して、その楽しさ、重要性を認識し、生活習慣にまで発展させることをねらいとしています。

◆**授業方法** 天候に左右されない体育館での授業とし、小グループでいろいろなスポーツ(ネット型球技)を体験しますが、年齢相応、体力相応の参加の仕方を理解してもらうようにします。また、体力測定を通して体力の現状を自覚し、維持増進についての認識を高めてもらうようにします。

◆**準備学習** 1 日 20 分以上の連続歩行と、軽い柔軟運動の実施を心がけてきてください。

◆**授業計画〔各 230 分 (13：00～16：50)〕〔最終日のみ 470 分 (9：00～16：50)〕**

9 / 2	午後	1 日目 ガイダンス、グループ分け、準備運動、レクリエーション、体力測定、体力の維持増進についての解説
9 / 3	午後	2 日目 班別スポーツ種目の展開 (1)
9 / 4	午後	3 日目 班別スポーツ種目の展開 (2)
9 / 5	午後	4 日目 班別スポーツ種目の展開 (3)
9 / 6	午前	5 回目 班別スポーツ種目の展開 (4)
	午後	6 回目 班別対抗ソフトバレーボール大会

◆**教科書** 特になし。

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み及び自己の体力に合った運動への理解によって総合的に評価します。

◆**E-Mail：**

※この講座は、授業日程、時間及び会場が他の講座とは異なるため、注意してください。詳細については本誌 11, 12 ページを参照すること。

□語り継がれてきたもの 語り継ぐもの

〔国文学基礎講義〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：木村

一

◆**学習目標** 国文学研究のための基礎を学びます。研究のためのものの見方・ものの捉え方を具体的作品を読むことで身につけることを目標とします。取り上げる作品は平安時代の文学作品です。本講義を次年度以降の研究の足掛かりとします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義指定テキストの解説とあわせて、実際に文学作品を読んでいきます。ただし、各自積極的な考察を試みるために、講義時間内に小課題を課すこととします。

◆**準備学習** 講義ノートを積極的に取ること。その講義ノートを基に、予習復習をしっかりとすること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 導入 どう進めるか	11 回目 『伊勢物語』入門	21 回目 光源氏の結婚とタブー
2 回目 『古今和歌集』について	12 回目 みやび と「昔男」	22 回目 葵巻とそれ以前の巻
3 回目 『古今和歌集』の時代	13 回目 虚構と史実	23 回目 葵と六条御息所
4 回目 国風暗黒時代とは	14 回目 語り手と読み手	24 回目 車の所争い
5 回目 二つの序文	15 回目 物語を物語るということ	25 回目 苦悩と物の怪
6 回目 仮名序とその展開	16 回目 『源氏物語』入門	26 回目 葵の出産と物の怪
7 回目 撰者の意識と意図	17 回目 「源氏」は世界に誇れる？	27 回目 その後の展開
8 回目 和歌から物語へ	18 回目 桐壺巻と第二皇子の誕生	28 回目 光源氏は「ダメんす」
9 回目 物語とは	19 回目 帝とその更衣の死	29 回目 野宮の別れ
10 回目 物語文学の展開	20 回目 第二皇子の臣籍降下	30 回目 私たちの生きる世界とは

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『日本古典文学史』 乾安代 櫻井武次郎 新聞一美 西島孜哉 毛利正守著 双文社出版
1,785 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 「古語辞典」があると良い。電子辞書が便利。〔当日資料配布〕必要に応じ、作品・資料プリントを当日配布する。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提とし、講義への取り組み・小課題の状況により総合的に評価する。
受講状況（10%）・小課題（10%）・試験（80%）

◆**E-Mail：**

□生成文法の基本を

〔英語学概説〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：真野

一雄

◆**学習目標** 生成文法の理論について学びます。私たちが学んだ学校文法はいわゆる伝統文法を踏まえたものですが、それとは全く異なる生成文法の基礎についての知識を習得します。

◆**授業方法** 各章冒頭のイントロダクション（英文）を読み、本文（和文）の解説、確認します。必要に応じて担当者が作成する練習問題を行う場合もあるでしょう。章末の練習問題を行います。

◆**準備学習** テキストはあらかじめ読んでおいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 第 1 章 文法とは	11 回目 第 3 章 語彙	21 回目 第 6 章 DP 移動
2 回目 第 1 章 文法とは	12 回目 第 4 章 文の構造	22 回目 第 7 章 主要部の移動
3 回目 第 1 章 文法とは	13 回目 第 4 章 文の構造	23 回目 第 7 章 主要部の移動
4 回目 第 1 章 文法とは	14 回目 第 4 章 文の構造	24 回目 第 7 章 主要部の移動
5 回目 第 2 章 句の構造	15 回目 前期試験	25 回目 第 8 章 Wh- 疑問文
6 回目 第 2 章 句の構造	16 回目 第 5 章 非時制文	26 回目 第 8 章 Wh- 疑問文
7 回目 第 2 章 句の構造	17 回目 第 5 章 非時制文	27 回目 第 8 章 Wh- 疑問文
8 回目 第 2 章 句の構造	18 回目 第 5 章 非時制文	28 回目 第 9 章 存在分
9 回目 第 3 章 語彙	19 回目 第 6 章 DP 移動	29 回目 第 9 章 存在分
10 回目 第 3 章 語彙	20 回目 第 6 章 DP 移動	30 回目 第 9 章 存在分

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『現代の英文法―新しい文法理論へのいざない―』 金星堂 2,730 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 英語学入門書、英語学概説書。

◆**成績評価基準** 前期試験（50%）、後期試験（50%）（試験は途中退出なしです）。前期試験未受験者は後期授業の受講資格を失います。毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆西洋近代の思考法と人間観を理解する〔哲学基礎講読〕

金曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：瀧田 寧

- ◆**学習目標** 現代の私たちが受け入れている考え方の多くが、17 世紀以降の西洋で発展した学問に依拠していることを考えると、その学問の前提となる思考法や人間観を学ぶことは重要であると言える。本講義では、17 世紀ヨーロッパに誕生したデカルトの『方法序説』とアルノー・ニコルの『論理学、別名思考の技法』を読解しながら、そこに見いだされる思考法や人間観を考察し、その内容を自分なりに説明できるようになることを目標とする。
- ◆**授業方法** 講義形式で進めるが、講読の授業なので、まずは皆さんにテキストを順番に読んでいただく。但し、テキストは一読して直ちに理解できるものではないので、講師の方でも同じ文章を繰り返し読みながら解説を加える。また、講義後は毎回「コメント」を書いていただく（1～3,16,30 回は除く）。なお、講義形式なので、質問や意見等は授業後に受けるが、特に重要だと判断した講義後の「コメント」は、授業の中で紹介することもある。
- ◆**準備学習** ルネ・デカルトという哲学者の著書名やキーワードを哲学史の概説書などで自分なりに調べておくと、授業への参加意欲も高まると思います。また、テキストの解説部分にざっと目を通しておくのもよいでしょう。さらに、講義後の学習も重要です。講義で自分なりに関心を持ったことがあれば、すぐに調べてみましょう。それが、次回以降の授業内容の理解に何らかの形でつながってくる、ということもあります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 本講義の方法・計画等の説明	11 回目 『方法序説』のまとめ	21 回目 『思考の技法』第 1 部 (5)
2 回目 17 世紀西洋思想の流れ (年表を中心に)	12 回目 『思考の技法』の概略説明	22 回目 『思考の技法』第 3 部第 20 章 (1)
3 回目 デカルト哲学の概略説明	13 回目 『思考の技法』の第一序説～前文 (1)	23 回目 『思考の技法』第 3 部第 20 章 (2)
4 回目 『方法序説』第 1 部	14 回目 『思考の技法』の第一序説～前文 (2)	24 回目 『思考の技法』第 4 部 (1)
5 回目 『方法序説』第 2 部	15 回目 『思考の技法』の第一序説～前文 (3)	25 回目 『思考の技法』第 4 部 (2)
6 回目 『方法序説』第 3 部	16 回目 小論文	26 回目 『思考の技法』第 4 部 (3)
7 回目 『方法序説』第 4 部 (1)	17 回目 『思考の技法』第 1 部 (1)	27 回目 『思考の技法』第 4 部 (4)
8 回目 『方法序説』第 4 部 (2)	18 回目 『思考の技法』第 1 部 (2)	28 回目 『思考の技法』第 4 部 (5)
9 回目 『方法序説』第 5 部 (1)	19 回目 『思考の技法』第 1 部 (3)	29 回目 『思考の技法』のまとめ
10 回目 『方法序説』第 5 部 (2)	20 回目 『思考の技法』第 1 部 (4)	30 回目 『思考の技法』以後の展開

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

- ◆**教科書** 丸沼『方法序説・情念論』デカルト 野田又夫訳 中公文庫 740 円（税込）（送料 260 円）
 通材『哲学基礎講読 0091』通信教育教材（教材コード 000042）3,650 円（送料込）
- ◆**参考書** 授業の中で紹介する。
- ◆**成績評価基準** 平常点（毎回の講義終了後に書いていただく「コメント」及び 16 回目の「小論文」）(50%)、試験(50%)
- ◆**E-Mail** :

◆歴史研究の基礎知識〔日本史入門〕

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：竹中 眞幸

- ◆**学習目標** 歴史、特に前近代の歴史を学ぶ場合、それがいかなる時代・分野であろうと知っておかなければならない事柄がある。本授業では、その主たるものを選んで講義を行う。
- ◆**授業方法** 歴史研究に必須の諸事情を、出来る限り関係資料を提示しつつ、受講生自らも考える内容としたい。
- ◆**準備学習** 特になし。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 度量衡 (1)	21 回目 徳川大名の分類 (1)
2 回目 史料に見る用字・用語	12 回目 度量衡 (2)	22 回目 徳川大名の分類 (2)
3 回目 史料の読解 (1)	13 回目 幣制 (1)	23 回目 徳川大名の分類 (3)
4 回目 史料の読解 (2)	14 回目 幣制 (2)	24 回目 幕府・藩の職制 (1)
5 回目 時刻 (時法) について (1)	15 回目 前期のまとめ	25 回目 幕府・藩の職制 (2)
6 回目 時刻 (時法) について (2)	16 回目 方位	26 回目 百姓身分の成立 (1)
7 回目 暦法について	17 回目 国名・五畿七道	27 回目 百姓身分の成立 (2)
8 回目 年号と干支 (1)	18 回目 官制	28 回目 近世の商業・流通機構 (1)
9 回目 年号と干支 (2)	19 回目 季節・節気・雑説	29 回目 近世の商業・流通機構 (2)
10 回目 旧暦の月	20 回目 幕藩体制	30 回目 後期のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

- ◆**教科書** 通材『日本史入門 0095』通信教育教材（教材コード 000484）3,400 円（送料込）
 〈この教材は市販の『方法教養の日本史』竹内誠他著（東京大学出版会）と同一です〉
 ※平成 25 年度改訂教材
- ◆**参考書** 授業中に適宜紹介する。
- ◆**成績評価基準** 平常点 (30%)、試験 (70%)
- ◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆清朝史研究の基礎

〔東洋史入門〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：綿貫 哲郎

◆**学習目標** 現代中国の領土・民族を理解する上で清朝（1636-1912 年）の理解は欠かせない。このような清朝は単なる中華王朝の視座だけでなく、中央ユーラシアの遊牧帝国からの視座も欠かせない。東洋史学の立場から清朝の研究史や先行研究を学び、論文作成のための基礎知識（概説書・工具書・入門書や研究施設・図書館などを紹介）を理解することを目標とする。

◆**授業方法** 以下の授業計画（予定）に沿って講義形式でおこなう。講義の理解を深めるため、視覚資料を適宜併用する。また法学部図書館などでの実習作業を数回予定している。授業時間内外でのレポートを課する予定である。

◆**準備学習** 予習は指定された場合以外必要ないが、復習は随時おこなってもらいたい。授業で紹介する内容をもとに自分自身が卒業論文を作成するための研究方法を確立してもらいたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス、導入	11 回目 「東洋史」研究の方法⑥	21 回目 清朝史研究と資料⑥
2 回目 「東洋史」とは何か	12 回目 「東洋史」研究の方法⑦	22 回目 清朝史研究と資料⑦
3 回目 「東洋史」の成立①	13 回目 「東洋史」研究の方法⑧	23 回目 清朝史研究と資料⑧
4 回目 「東洋史」の成立②	14 回目 「東洋史」研究の方法⑨	24 回目 清朝史研究と資料⑨
5 回目 「東洋史」の成立③	15 回目 前半のまとめ	25 回目 清朝史研究と資料⑩
6 回目 「東洋史」研究の方法①	16 回目 清朝史研究と資料①	26 回目 清朝史研究と資料⑪
7 回目 「東洋史」研究の方法②	17 回目 清朝史研究と資料②	27 回目 清朝史研究と資料⑫
8 回目 「東洋史」研究の方法③	18 回目 清朝史研究と資料③	28 回目 清朝史研究と資料⑬
9 回目 「東洋史」研究の方法④	19 回目 清朝史研究と資料④	29 回目 清朝史研究と資料⑭
10 回目 「東洋史」研究の方法⑤	20 回目 清朝史研究と資料⑤	30 回目 後半のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕プリントを配布する。

◆**参考書** 授業時間中に適宜指示する。

◆**成績評価基準** 試験（60%）、平常点〔授業態度・課題への取り組み・レポートなど〕（40%）

◆**E-Mail**：

◆法に関する常識を疑ってみませんか？

〔法哲学〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：高須 則行

◆**学習目標** 皆さんは法についての何らかのイメージを持っていることでしょう。そのイメージをちょっとばかり疑ってみませんか？ というのも、法哲学は「当たり前」と思われて、誰からも疑われてこなかった法的な事柄をひとまず疑ってみて、その上で、できる限りその根拠を探り当ててみようとする知的営みだからです。そのことによって、自分たちの拠って立つ知的基盤を反省し、より深い知識を習得してもらうことを目標としています。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思っています。

受講者の人数にもよりますが、ゼミ形式で授業を進めることも考えています。

◆**準備学習** 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 法哲学へのいざない	11 回目 法思想（X）イエーリング：構成法学	21 回目 法の目的（Ⅰ）
2 回目 法思想（Ⅰ）ケルゼン（1）：純粋法学	12 回目 法思想（XI）ヘック：利益法学	22 回目 法の目的（Ⅱ）
3 回目 法思想（Ⅱ）ケルゼン（2）：純粋法学	13 回目 法思想（XII）サヴィニー：歴史法学	23 回目 法の目的（Ⅲ）
4 回目 法思想（Ⅲ）ラードブルフ：価値相対主義法哲学	14 回目 法思想（XIII）ホームズ：プラグマティズム法学	24 回目 デモクラシー論（Ⅰ）
5 回目 法思想（Ⅳ）ハート（1）：ルール法の理論	15 回目 法思想の整理	25 回目 デモクラシー論（Ⅱ）
6 回目 法思想（Ⅴ）ハート（2）：ルール法の理論	16 回目 法の種類と構造（Ⅰ）	26 回目 デモクラシー論（Ⅲ）
7 回目 法思想（Ⅵ）フラー：自然法論	17 回目 法の種類と構造（Ⅱ）	27 回目 生命と法（Ⅰ）
8 回目 法思想（Ⅶ）ロールズ：公正としての正義論	18 回目 法の種類と構造（Ⅲ）	28 回目 生命と法（Ⅱ）
9 回目 法思想（Ⅷ）ドゥオーキン：統合としての法理論	19 回目 法の機能（Ⅰ）	29 回目 生命と法（Ⅲ）
10 回目 法思想（Ⅸ）：共同体論	20 回目 法の機能（Ⅱ）	30 回目 生命と法（Ⅳ）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕授業中にプリントを配布します。

◆**参考書** その都度、授業中に指示します。

◆**成績評価基準** 前期と後期に試験を実施し、前期（50%）・後期（50%）の得点によって総合的に評価します。

◆**E-Mail**：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」[「学生番号」]及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆憲法を考える

【憲法】

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：名雪 健二

◆学習目標 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、憲法を知することは、われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。

◆授業方法 憲法の解釈論が中心となるが、憲法を理解するための前提として、その基礎概念、基本原理もみていく。また、生きた憲法を知るために、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆準備学習 授業計画が 1 回から 30 回まで記載されているので、授業を理解する前提として、教材をよく読んでおくことと授業の範囲における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス、憲法の内容、憲法の分類	11 回目 表現の自由	21 回目 議員の権能
2 回目 日本国憲法制定の経緯、日本国憲法の構造	12 回目 表現の自由、経済的自由	22 回目 内閣の性格・組織
3 回目 憲法の基本原理、天皇	13 回目 経済的自由、自身の自由	23 回目 内閣総理大臣の地位・権能
4 回目 天皇	14 回目 社会権	24 回目 内閣総理大臣の権能
5 回目 人権総論	15 回目 国務請求権、参政権、前期の総括	25 回目 内閣の総辞職、内閣の権能、内閣の責任
6 回目 人権総論	16 回目 国会の性格、国会の組織	26 回目 裁判所の性格、最高裁判所
7 回目 人権総論	17 回目 国会議員の特典、国会の活動	27 回目 最高裁判所
8 回目 思想および良心の自由	18 回目 国会の活動、国会の権能	28 回目 下級裁判所
9 回目 信教の自由	19 回目 国会の権能	29 回目 地方自治
10 回目 学問の自由	20 回目 議員の権能	30 回目 後期の総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 丸沼『日本国憲法』 名雪健二 有信堂 3,675 円（税込）（送料 390 円）

◆参考書 丸沼『増補ゼミナール憲法』 名雪健二他 南窓社 3,360 円（税込）（送料 390 円）

◆成績評価基準 授業態度・小テスト（前期 2 回・後期 2 回）・スクーリングの最終試験により総合的に評価する。

◆E-Mail：

◆民法入門

【民法】

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：根本 晋一

◆学習目標 大学に学び、学士の称号を取得する者に相応しい法的教養、とりわけ私人の生活関係にかかわる法律問題、つまり財産や身分および相続の関係を規律する民法領域の法的教養の涵養をめざす。なお、本講座の目的は、私法的一般法である民法の全体構造を理解することであり、個別の解釈上の争点を深く追求することではない。したがって、法律学科以外の科目を専攻する学生であったとしても、講義内容を容易に理解できるように、可能な限り平易な解説に努める。なお、時間の都合により財産法の解説に重点を置くので、家族法について詳しくは別講座「民法Ⅴ」を履修することを推奨する。

◆授業方法 講義形式を採用する。シラバス（学習計画）は凡その目安である。法改正や新判例、新論点を追加した場合、シラバスと進行に齟齬が生じる場合もある。

◆準備学習 前回講義における板書事項を、しっかりと読み直してくること。それが本講義における予習であり、準備学習である。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 債権総論の解説②	21 回目 債権各論（契約各論の解説）④
2 回目 民法総論の解説①	12 回目 債権総論の解説③	22 回目 債権各論（法定債権の解説）①
3 回目 民法総論の解説②	13 回目 債権総論の解説④	23 回目 債権各論（法定債権の解説）②
4 回目 民法総論の解説③	14 回目 債権各論（契約総論）の解説①	24 回目 債権各論（法定債権の解説）③
5 回目 民法総論の解説④	15 回目 債権各論（契約総論）の解説②	25 回目 債権各論（法定債権の解説）④
6 回目 物権法と担保物権法の解説①	16 回目 債権各論（契約総論）の解説③	26 回目 家族法（親族・相続）の解説①
7 回目 物権法と担保物権法の解説②	17 回目 債権各論（契約総論）の解説④	27 回目 家族法（親族・相続）の解説②
8 回目 物権法と担保物権法の解説③	18 回目 債権各論（契約各論の解説）①	28 回目 家族法（親族・相続）の解説③
9 回目 物権法と担保物権法の解説④	19 回目 債権各論（契約各論の解説）②	29 回目 家族法（親族・相続）の解説④
10 回目 債権総論の解説①	20 回目 債権各論（契約各論の解説）③	30 回目 筆記試験（レポートの場合は実施しない）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 指定しない。

◆参考書 「法学」や「民法Ⅰ～Ⅴ」などの通信教育教材を、学生諸君が適宜参照すること。その他の文献については、講義開始後に紹介する。

◆成績評価基準 筆記試験またはレポートの成績・授業態度等を、総合的に考慮する。

◆E-Mail：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

■債権各論の体系と論点

【民法Ⅳ】

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：根本 晋一

- ◆**学習目標** 1 民法学における、債権各論の体系的な位置付を理解する。
2 債権各論の体系（全体像）を理解する。
3 1, 2 の理解および修得を前提として、債権各論に関する論点を理解する。
- ◆**授業方法** 講義形式を採用する。シラバス（学習計画）は凡その目安である。法改正や新判例、新論点を追加した場合、シラバスと進行に齟齬が生じる場合もある。
- ◆**準備学習** 前回講義における板書事項を、しっかりと読み直してこよう。それが本講義における予習であり、準備学習である。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 契約総論⑧	21 回目 法定債権①
2 回目 学習目標 1, 2 ①	12 回目 契約総論⑨	22 回目 法定債権②
3 回目 学習目標 1, 2 ②	13 回目 契約各論①	23 回目 法定債権③
4 回目 契約総論①	14 回目 契約各論②	24 回目 法定債権④
5 回目 契約総論②	15 回目 契約各論③	25 回目 法定債権⑤
6 回目 契約総論③	16 回目 契約各論④	26 回目 法定債権⑥
7 回目 契約総論④	17 回目 契約各論⑤	27 回目 法定債権⑦
8 回目 契約総論⑤	18 回目 契約各論⑥	28 回目 法定債権⑧
9 回目 契約総論⑥	19 回目 契約各論⑦	29 回目 法定債権⑨
10 回目 契約総論⑦	20 回目 契約各論⑧	30 回目 補 遺

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 指定しない。

- ◆**参考書** **通材**『民法Ⅳ 0135』通信教育教材（教材コード 000355）2,800 円（送料込）
丸沼『じつは身近な債権法—知って得する！ 契約、損害賠償制度 etc…の「基礎知識」』山川—陽著
 日本加除出版株式会社 3,360 円（税込）（送料 340 円）
丸沼『債権各論講義（改訂版）』山川—陽著 立花書房 3,300 円（税込）（送料 390 円）
 その他の文献については適宜紹介をする。

◆**成績評価基準** 筆記試験またはレポートの成績・授業態度等を、総合的に考慮する。

◆**E-Mail** :

■民法から家族のあり方を考える

【民法Ⅴ】

金曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：堀切 忠和

- ◆**学習目標** 民法が念頭におく家族法の姿を知り、また夫婦・親子に関する法的問題とその課題を学ぶ。
 相続という、人の死亡による財産関係の清算のあり方を学び、相続にまつわる紛争の予防を考える。
 また、相続を通じて民法の財産法に関する総復習を行う。
- ◆**授業方法** 講義形式で行う。受講人数によっては、適宜、意見交換等を行う場を設けたい。
- ◆**準備学習** 特別な事前学習は望まない。復習を中心に学習して欲しい。
 但し、講義で扱う内容が豊富なので、授業のペースが速いと感じる人は、事前にテキストや配付資料に目を通して欲しい。
- ◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス、民法の学び方	11 回目 親権について	21 回目 相続財産の共有
2 回目 民法とはどのような法律か。	12 回目 親子関係を巡る課題 （学校トラブルなどから）	22 回目 相続財産の分割（遺産分割）
3 回目 民法の基本原則と家族法の基本原則	13 回目 親子関係をめぐる課題 （子どものシェルター、自立支援）	23 回目 特別受益と寄与分
4 回目 家事事件の特質、家庭裁判所の役割	14 回目 後見	24 回目 相続の承認と放棄
5 回目 婚姻の成立、無効、取消し	15 回目 任意後見、保佐、補助扶養、養育費 をめぐる諸問題	25 回目 財産分離、相続財産の破産
6 回目 婚姻の効力、婚約、内縁	16 回目 相続法の歴史と相続の根拠	26 回目 相続人の不存在
7 回目 婚姻の解消	17 回目 相続の開始とその原因	27 回目 遺言の意義と機能
8 回目 実親子	18 回目 相続人と相続分	28 回目 遺言の効力
9 回目 養子	19 回目 配偶者相続、代襲相続	29 回目 遺贈をめぐる問題
10 回目 親子関係を巡る課題 （生殖補助医療など）	20 回目 相続財産の範囲と相続回復請求	30 回目 遺留分制度

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **通材**『民法Ⅴ 0137』通信教育教材（教材コード 000059）2,400 円（送料込）

◆**参考書** 講義内で、適宜紹介するので、関心のあるものについて、各自利用して欲しい。

◆**成績評価基準** 毎回出席を前提とし、筆記試験の結果によってのみ評価する。

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

■企業活動を規律する諸法制を考える

〔商法Ⅰ〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：高岸 直樹

- ◆**学習目標** 企業活動に関する諸法制への基礎的な理解を得ることを目的とします。商法総則・商行為法を中心に、民法、会社法、独占禁止法、保険法等との接点、さらには、会計、登記、国際取引などの企業実務の基礎についても学んでいきます。これらを通じて、今後、企業活動の具体的場面において、適用される法規制を参照し、対応する力を養います。
- ◆**授業方法** 講義形式で行います。授業では、まず入門編から講義し、さらに判例の検討も行います。授業では発言が求められ、小テストも実施します。単なる知識の習得だけでなく、自分なりに考えを組み立て、展開することが必要となります。まずは講義をしっかりと聞き、「考え方」のポイントを学んでください。なお、毎回、出席を確認します。
- ◆**準備学習** 授業前に教科書の該当ページに目を通してください。また、その際に六法で参照条文を確認しておきましょう。授業中はメモを取り、授業後は、参考文献等も活用して、ノートを整理し、マイ・ノートを完成しましょう。返却された小テストも復習に用いましょう。また、新聞・テレビ等の経済ニュースに接し、自分の考えをまとめてみましょう。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 企業とはなにか	11 回目 商業使用人	21 回目 場屋取引
2 回目 商法の意義	12 回目 代理商	22 回目 ファイナンス 1
3 回目 商法の適用	13 回目 売買仲介	23 回目 ファイナンス 2
4 回目 商人	14 回目 消費者取引	24 回目 決済システム 1
5 回目 営業	15 回目 国際売買取引	25 回目 決済システム 2
6 回目 商号	16 回目 電子売買取引	26 回目 公正取引 1
7 回目 名板貸	17 回目 運送仲介取引	27 回目 公正取引 2
8 回目 商業帳簿	18 回目 陸運取引	28 回目 リスク対応 1
9 回目 商業登記	19 回目 海運・空運取引	29 回目 リスク対応 2
10 回目 営業譲渡	20 回目 倉庫取引	30 回目 講義のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

- ◆**教科書** 丸沼『現代商取引法』 藤田勝利 工藤聡一編 弘文堂 2,940 円（税込）（送料 340 円）
- ◆**参考書** 六法（最新版）
丸沼『商法（総則・商行為）判例百選 第 5 版』 有斐閣 2,520 円（税込）（送料 340 円）
- ◆**成績評価基準** 授業中に実施する小テスト 20%、平常点 20%、最終試験 60%
- ◆**E-Mail：**

■人間とは何かを考える刑法学

〔刑法Ⅰ〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：船山 泰範

- ◆**学習目標** 犯罪の成立要件をしっかりと理解することを目指す。
そのプロセスで、犯罪が人間にとってどのような意味があるのか、を考えることにしたい。
- ◆**授業方法** 刑法学は論理の問題であるので、できるだけ、いわゆるソクラテス・メソッドをとりいれて授業を活性化させたい。
裁判傍聴を実施する。受講生は積極的に質問をしてほしい。必ず六法を持参すること。

- ◆**準備学習** 教科書は早めに読み進めてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 刑法の役割	11 回目 故意犯と過失犯	21 回目 未遂と既遂、中止犯、不能犯
2 回目 人間の行為と責任	12 回目 因果関係	22 回目 同時犯と共同正犯
3 回目 刑事手続、刑事裁判の基本原則	13 回目 具体的事実の錯誤	23 回目 共謀共同正犯、承継的共同正犯
4 回目 罪刑法定主義	14 回目 抽象的事実の錯誤	24 回目 間接正犯、教唆犯、幫助犯
5 回目 責任主義	15 回目 裁判傍聴（裁判員裁判）	25 回目 身分犯と共犯
6 回目 刑罰の内容と本質、犯罪統計	16 回目 正当防衛、緊急避難	26 回目 共犯と他の論点
7 回目 犯罪論への期待	17 回目 正当行為、被害者の承諾	27 回目 罪数以前、罪数
8 回目 犯罪成立要件（1）	18 回目 違法性の本質	28 回目 刑法の適用範囲
9 回目 犯罪成立要件（2）	19 回目 刑事未成年、心神喪失	29 回目 刑の適用
10 回目 不作為犯	20 回目 期待可能性	30 回目 更正のための刑罰

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

- ◆**教科書** 丸沼『刑法学講話〔総論〕』 船山泰範 成文堂 3,885 円（税込）（送料 390 円）
丸沼『刑法演習 50 選』 船山・清水・中村編著 北樹出版 2,730 円（税込）（送料 390 円）
- ◆**参考書** 丸沼『ホーンブック新刑法総論』 船山泰範編著 北樹出版 2,730 円（税込）（送料 390 円）
- ◆**成績評価基準** 期末試験 80%、レポート・参観等への参加 20%
- ◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

政治を観る眼を養う

〔政治学原論〕

金曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：吉野 篤

◆**学習目標** 政治という概念・現象が歴史的にどのように捉えられてきたかを理解すると同時に、具体的な政治過程、また、学としての政治学がどのように発展してきたかを考えることによって、政治学の全体像を理解すること。

◆**授業方法** 講義形式。今日的な政治問題を検討するために、時宜に応じて主として新聞報道を資料として配布する。

◆**準備学習** 授業計画の内容を事前に予習することが望ましい。新聞を注意深く読んで、問題となっている政治問題に関心を高めることも肝要である。また、特に主要新聞の社説などを通じて日本語の文章力・理解力を養うことも重要である。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 全体の内容の概説	11 回目 国家像の変容	21 回目 選挙の原則・機能
2 回目 古典古代の政治概念	12 回目 市民社会から大衆社会へ	22 回目 選挙制度の諸問題
3 回目 中世ヨーロッパの政治像	13 回目 大衆社会の政治理論	23 回目 利益集団・圧力団体
4 回目 近代の政治概念	14 回目 大衆の社会心理	24 回目 政治学の科学化過程①
5 回目 社会契約説	15 回目 ファシズムの形態	25 回目 政治学の科学化過程②
6 回目 保守主義の考え方	16 回目 政治的無関心の諸問題	26 回目 政治学の科学化過程③
7 回目 19 世紀の政治概念	17 回目 政治権力の構造と特質	27 回目 脱行動論革命
8 回目 20 世紀の政治概念の特質	18 回目 政党の定義・機能	28 回目 行動論以後の動向
9 回目 ウェーバーの社会科学論	19 回目 政党システムの類型学①	29 回目 新制度論の枠組み①
10 回目 丸山真男の政治概念	20 回目 政党システムの類型学②	30 回目 新制度論の枠組み②

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『政治学』山田光矢編著 弘文堂 2,100 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 丸沼『デモクラシーの政治学』杉本稔著 北樹出版 2,625 円（税込）（送料 340 円）

◆**成績評価基準** 試験により評価する。

◆**E-Mail** :

近代日本の歩みを通じて将来を考える

〔日本政治史〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：黒川 貢三郎

◆**学習目標** 幕末から明治・大正・昭和時代に生じてきた政治問題について講述し、そこから将来を見る目を養ってきたい。

◆**授業方法** テキストに沿って講述する。受講に際しては必ずノートを持参するように。

◆**準備学習** 開講日初日に詳細にわたって説明する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 幕藩体制の内部矛盾の概要	11 回目 国内整備と財政再建	21 回目 大正の政変
2 回目 安政の改革と違勅調印	12 回目 産業の育成と庶民の啓蒙	22 回目 平民宰相内閣の誕生
3 回目 開国論と攘夷論	13 回目 征韓論争と自由民権運動	23 回目 政党政治の隆盛と国際協調
4 回目 長州戦争と幕府権力の衰退	14 回目 西南戦争と政党の誕生	24 回目 国際連盟の脱退と軍閥
5 回目 大政奉還運動	15 回目 藩閥政府と民党との抗争	25 回目 日中戦争と第二次世界大戦
6 回目 戊辰戦争	16 回目 内閣制度の創設	26 回目 対日占領政策
7 回目 幕末維新と民衆	17 回目 大日本帝国憲法の制定	27 回目 政党政治の復活
8 回目 明治政府の誕生	18 回目 初期議会と日清戦争	28 回目 55 年体制と対米ソ関係
9 回目 版籍奉還と廃藩置県	19 回目 藩閥政府から政党政治へ	29 回目 経済成長と外交
10 回目 藩閥有司政権と国際関係	20 回目 日露戦争と桂園交代	30 回目 政党再編への胎動

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『日本政治史 0213』通信教育教材（教材コード 000452）3,050 円（送料込）

◆**参考書** 講義の際に随時紹介する。

◆**成績評価基準** 中間試験と学年末試験の結果を総合的に勘案して評価する。

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

□行政を基礎から学びましょう

〔行政学〕

木曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：関根 二三夫

◆**学習目標** 20 世紀に入り顕著になってきた行政の多様化、複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軋轢を生じさせることになりました。行政が持つ機能面や制度面の特徴を国家との関連において把握し、国家と行政とが如何なる関係にあるかを学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、受講生の行政に関する問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学習** 内閣や大統領を頂点とする行政部で、どのようなことが行われているか、また、内閣や大統領と議会との関係はどのようになっているかなどを、メディアの記事などを参照して考え、問題点を把握するように心掛けてください。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 講義全体の概要説明	11 回目 行政組織（ラインとスタッフ）	21 回目 行政管理（コミュニケーションの方向性）
2 回目 行政の概念	12 回目 官僚制（概念・特徴）	22 回目 行政管理（リーダーシップと指導者の役割）
3 回目 行政学の変遷（官房学との関係）	13 回目 官僚制（発達の根拠）	23 回目 行政統制（外在的統制）
4 回目 ロレンツ・フォン・シュタインの行政学	14 回目 公務員制（沿革）	24 回目 行政統制（内在的統制）
5 回目 科学的管理法と行政学	15 回目 公務員制（スポイルズシステムとメリットシステム）	25 回目 情報公開（意義）
6 回目 政治と行政との関係（二分論・連続論・関連論）	16 回目 わが国の公務員制（沿革）	26 回目 情報公開（プライバシーの保護）
7 回目 国家概念と国家機関	17 回目 わが国の公務員制（メリットシステムと職階制）	27 回目 オンブズマン制度
8 回目 国家成立の要素	18 回目 行政管理（原則）	28 回目 わが国の行政相談
9 回目 現代国家と行政（立法国家から行政国家へ）	19 回目 行政管理（機能）	29 回目 地方自治（沿革）
10 回目 行政組織（組織原則・部門化）	20 回目 行政管理（コミュニケーションの機能と類型）	30 回目 講義内容の総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔教材〕『行政学 0221』 通信教育教材（教材コード 000084） 2,700 円（送料込）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30%
※試験同様、質問や小テストへの解答等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意してください。

◆**E-Mail：**

□国際政治を探る

〔国際政治学〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：大八木 時広

◆**学習目標** この授業では現代の国際政治にさまざまな点から切り込む。具体的には国際政治の基本的概念（国家、パワーなど）、NGO と国際政治の関係、グローバルな課題、国際政治理論などを取り上げる。

◆**授業方法** 基本的には講義が主体となる。ただし一方的講義だけでなく、対話形式、討論形式も試みる予定。また授業の終わりには毎回、小テストを兼ねたまとめを書いてもらう予定。

◆**準備学習** 事前に教科書を読んで概略を予習しておくことが望ましい。
予習の際には、詳細な点はともかくとして、大きな流れを理解しておくことが望ましい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 現代国際政治の特色	11 回目 環境問題と NGO	21 回目 ネオリアリズムの理論
2 回目 国際政治の概念（1）	12 回目 人権と NGO（1）	22 回目 リベラリズムの新展開
3 回目 国際政治の概念（2）	13 回目 人権と NGO（2）	23 回目 地域（1）EU 史①
4 回目 アクターとは何か（1）	14 回目 開発援助と NGO（1）	24 回目 地域（2）EU 史②
5 回目 アクターとは何か（2）	15 回目 開発援助と NGO（2）	25 回目 地域（3）アジアの民主化
6 回目 パワーとは何か（1）	16 回目 難民問題と NGO	26 回目 地域（4）ASEAN
7 回目 パワーとは何か（2）	17 回目 軍縮と NGO	27 回目 地域（5）東アジア
8 回目 国際機構（1）	18 回目 国際政治の理論	28 回目 グローバル・イシュー（1）
9 回目 国際機構（2）	19 回目 リアリズムの理論	29 回目 グローバル・イシュー（2）
10 回目 NGO とは何か	20 回目 リベラリズムの理論	30 回目 グローバル・イシュー（3）

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔丸沼〕『国際関係論』 佐渡友哲 信夫隆司共編 弘文堂 2,310 円（税込）（送料 310 円）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 平常点（小テストを含む）（30%）、試験（学年末試験）（70%）

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

現代日本の政治を考える

〔政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：秋山 和宏

◆**学習目標** 現代日本の政治について、歴史・制度・過程（実態）の視点から、幅広く理解することに努める。また受講生が政治に対する関心と思考力を高めるために、できるだけ時事的な政治問題を取り上げる。ぜひとも自分自身の政治についての見方、考え方を養ってほしい。

◆**授業方法** まず現代日本の政治を理解する基本として、第二次世界大戦後の歴史（2 回目～7 回目）と制度（8 回目～15 回目）について説明する。続く現代政治の実態に関しては、政治過程論の観点から、アクター（16 回目～23 回目）と過程（24 回目～27 回目）に分けて検討する。授業は主に講義のかたちで進めるが、質問は大歓迎なので、積極的にやってほしい。

◆**準備学習** 教科書その他で事前にポイントを確認しておくことが大切。授業の性格上時事問題に関心を持つようにして欲しい。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 日本の政治制度（3） 国会＜1＞	21 回目 政治過程の諸アクター（4） 政党＜1＞
2 回目 第二次世界大戦後の政治社会（1） 概観	12 回目 日本の政治制度（3） 国会＜2＞	22 回目 政治過程の諸アクター（4） 政党＜2＞
3 回目 第二次世界大戦後の政治社会（2） 戦後改革期	13 回目 日本の政治制度（4） 内閣	23 回目 政治過程の諸アクター（5） 圧力団体
4 回目 第二次世界大戦後の政治社会（3） 高度成長期	14 回目 日本の政治制度（5） 官僚制度	24 回目 日本の政治過程（1） 概観
5 回目 第二次世界大戦後の政治社会（4） 55 年体制（前）	15 回目 日本の政治制度（6） 地方自治制度	25 回目 日本の政治過程（2） 選挙過程
6 回目 第二次世界大戦後の政治社会（5） 55 年体制（後）	16 回目 政治過程の諸アクター（1） 概観＜1＞	26 回目 日本の政治過程（3） 立法過程
7 回目 第二次世界大戦後の政治社会（6） 55 年体制以後の政治状況	17 回目 政治過程の諸アクター（1） 概観＜2＞	27 回目 日本の政治過程（4） 予算編成過程
8 回目 日本の政治制度（1） 議院内閣制	18 回目 政治過程の諸アクター（2） 有権者＜1＞	28 回目 わが国の政治の問題点と課題（1） 問題の所在
9 回目 日本の政治制度（2） 選挙制度＜1＞	19 回目 政治過程の諸アクター（2） 有権者＜2＞	29 回目 わが国の政治の問題点と課題（2） 課題についての考察
10 回目 日本の政治制度（2） 選挙制度＜2＞	20 回目 政治過程の諸アクター（3） 政治家と官僚	30 回目 わが国の政治の問題点と課題（3） 展望

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 適宜、授業時にプリントを配布する。

◆**参考書** 丸沼『新版 現代政治の理論と諸相』 秋山和宏編著 三和書館 3,150 円（税込）（送料 390 円）
必要に応じて紹介する。

◆**成績評価基準** 学年末試験（60%）と年 2 回のレポート（40%）で評価する。

◆**E-Mail**：

三味線と箏の歌謡史～魅惑の近世音曲

〔国文学史Ⅱ〕

金曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：山崎 泉

◆**学習目標** 近世文学には多種多様なジャンルが存在しますが、本講義では音曲を取り上げます。従来、ともすれば近世文学の中では重要視されることなく、演劇の関連ジャンルとして扱われがちだった音曲の歴史を概観することにより、近世から今日に至るまで脈々と伝承され続けてきた生きている文化遺産の魅力を発見することを目指します。

◆**授業方法** 主に講義形式で行います。配布したプリントの内容に即した講義を行って歴史を概観した後、文字資料及び視聴覚資料を活用した作品鑑賞を行い、歴史への理解を深めていきます。

◆**準備学習** 近世文学史を一通り予習しておいて下さい。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 豊後系浄瑠璃の世界（4） 新内・その他	21 回目 地歌（2） 端歌・長歌・手事物
2 回目 三味線の伝来（1） 中国から日本へ	12 回目 古曲（1） 一中・宮園・河東	22 回目 地歌（3） 京風手事物
3 回目 三味線の伝来（2） 演劇との結合	13 回目 江戸長唄（1） 江戸のクロスオーバー	23 回目 箏の歌謡（1） ソウのコトとキノのコト
4 回目 古浄瑠璃の展開（1）	14 回目 江戸長唄（2） 所作事とめりやす	24 回目 箏の歌謡（2） 八橋検校と箏組歌
5 回目 古浄瑠璃の展開（2）	15 回目 江戸文芸と音曲 山東京伝を中心に	25 回目 箏の歌謡（3） 生田流箏曲の展開
6 回目 義太夫節・音曲の司（1）	16 回目 江戸長唄（3） お座敷長唄	26 回目 箏の歌謡（4） 山田流箏曲の誕生
7 回目 義太夫節・音曲の司（2）	17 回目 江戸長唄（4） 松羽目物①	27 回目 箏の歌謡（5） 箏曲復古運動
8 回目 豊後系浄瑠璃の世界（1） 豊後節の誕生	18 回目 江戸長唄（5） 松羽目物②	28 回目 江戸長唄と地歌箏曲（1）
9 回目 豊後系浄瑠璃の世界（2） 豊後三流①	19 回目 古曲（2） 荻江節	29 回目 江戸長唄と地歌箏曲（2）
10 回目 豊後系浄瑠璃の世界（3） 豊後三流②	20 回目 地歌（1） 上方の三味線歌謡	30 回目 現代に生きる三味線・箏

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 当日プリントを配布します。

◆**参考書** 授業時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、試験（80%）
毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail**：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆現代人の思想意識の原点を現代文から探る 〔国文学講義Ⅵ（現代）〕

水曜日 3 時限

開講単位 4 単位 担当者：永岡 健右

◆**学習目標** 関東大震災以降現代に至るまでの展開を、作家と時代性とともに注目しながら、具体的に把握します。それぞれの作家が現代社会にどのような方面性を示そうとしたかを考えます。

◆**授業方法** 講義方式で進めます。テキストを中心に読み進めながら、随時、資料を配布して、作家と時代の関わり、作家の主題意識を掘り下げて検討します。また、具体的にどのような作品をどのようなテキストで詠んだらよいかをも考えていきます。

◆**準備学習** 昭和初期から 10 年代、そして戦後、更には平成に入って 20 年以上経て、日本人の道德観、倫理観、価値観、特にさまざまな差別観にどのような変化が生じたかを考えておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 学習の進め方（ガイダンス）	11 回目 転向文学と文芸復興	21 回目 昭和 40 年代の文学（1）
2 回目 現代へのアプローチ（明治）	12 回目 戦時下の文学（1）	22 回目 昭和 40 年代の文学（2）
3 回目 現代へのアプローチ（大正）	13 回目 戦時下の文学（2）	23 回目 五木寛之と三島由紀夫
4 回目 自然主義文学と私小説	14 回目 昭和 20 年代の文学（1）	24 回目 大学紛争と文学
5 回目 大正期のデモクラシー	15 回目 昭和 20 年代の文学（2）	25 回目 大衆化社会と文学
6 回目 昭和文学の出発（1）	16 回目 昭和 20 年代の文学（3）	26 回目 昭和 50 年代の文学
7 回目 昭和文学の出発（2）	17 回目 〈第三の新人〉の時代性	27 回目 地方文学の発信力
8 回目 モダニズム文学	18 回目 戦後文学の環境	28 回目 昭和の女流文学（1）
9 回目 プロレタリア文学	19 回目 昭和 30 年代の文学（1）	29 回目 昭和の女流文学（2）
10 回目 転向文学	20 回目 昭和 30 年代の文学（2）	30 回目 昭和の短歌・俳句

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 教材『国文学講義Ⅵ（現代） 0339』 通信教育教材（教材コード 000361） 2,400 円（送料別）
〈この教材は市販の『現代日本文学史』 大久保典夫他編（笠間書院）と同一です〉

◆**参考書** 授業中に説明していきます。

◆**成績評価基準** 試験によります（小テスト、レポートも授業中に課題を出して実施する予定です）。

◆**E-Mail** :

◆ひらがなで日本語や日本人の心を理解してみようー古代文学への道ー〔国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位 担当者：近藤 健史

◆**学習目標** 文学以前の世界にもどり、日本語をひらがなで理解し、また日本人の心を考えることで、古代文学を知る道につなげてみる。

◆**授業方法** 前期は『ひらがなでよめばわかる日本語』のテキストに基づいて講義し、後期は実際に学生が調べた日本語に関することについて発表するという、質疑応答などの討論形式で進める。発表した内容については、授業最終日に、発表時の質疑応答などにより加筆訂正したものを 2,000 字程度にまとめて、レポートにして提出すること。

◆**準備学習** 以前から語源や意味がわからなかったり、疑問に思っていた「日本語」をいくつか用意しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 「日本語の基本ルール」(2)	21 回目 学生による発表 (5)
2 回目 「自然界から生まれたことば」(1)	12 回目 「日本語の基本ルール」(3)	22 回目 学生による発表 (6)
3 回目 「自然界から生まれたことば」(2)	13 回目 「日本の古代語を探る」(1)	23 回目 学生による発表 (7)
4 回目 「自然界から生まれたことば」(3)	14 回目 「日本の古代語を探る」(2)	24 回目 学生による発表 (8)
5 回目 たましいと対話することば (1)	15 回目 「日本の古代語を探る」(3)	25 回目 学生による発表 (9)
6 回目 たましいと対話することば (2)	16 回目 演習入門	26 回目 学生による発表 (10)
7 回目 日本人の考え方がわかることば (1)	17 回目 学生による発表 (1)	27 回目 学生による発表 (11)
8 回目 日本人の考え方がわかることば (2)	18 回目 学生による発表 (2)	28 回目 学生による発表 (12)
9 回目 日本人の考え方がわかることば (3)	19 回目 学生による発表 (3)	29 回目 学生による発表 (13)
10 回目 「日本語の基本ルール」(1)	20 回目 学生による発表 (4)	30 回目 まとめ・講評

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『ひらがなでよめばわかる日本語』 中西進 新潮文庫 451 円（税込）（送料 260 円）

◆**参考書** 丸沼『日本の古代語を探る』 西郷信綱 集英社新書 735 円（税込）（送料 260 円）

丸沼『古代語を読む』 桜楓社 1,890 円（税込）（送料 260 円）

丸沼『古代語誌 古代語を読むⅡ』 桜楓社 1,980 円（税込）（送料 260 円）

『ことばの古代生活誌』 古橋信孝編 河出書房新社 絶版

〈この本は絶版のため図書館等を利用してください〉

◆**成績評価基準** 質疑応答 20%、レポート 80%

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

■ひらがなで日本語や日本人の心を理解してみよう。－古代文学への道－〔国文学基礎演習〕

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：近藤 健史

◆**学習目標** 文学以前の世界にもどり、日本語をひらがなで理解し、また日本人の心を考えることで、古代文学を知る道につなげてみる。

◆**授業方法** 前期は『ひらがなでよめばわかる日本語』のテキストに基づいて講義し、後期は実際に学生が調べた日本語に関するについて発表するという、質疑応答などの討論形式で進める。発表した内容については、授業最終日に、発表時の質疑応答などにより加筆訂正したものを 2,000 字程度にまとめて、レポートにして提出すること。

◆**準備学習** 以前から語源や意味がわからなかったり、疑問に思っていた「日本語」をいくつか用意しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 「日本語の基本ルール」(2)	21 回目 学生による発表 (5)
2 回目 「自然界から生まれたことば」(1)	12 回目 「日本語の基本ルール」(3)	22 回目 学生による発表 (6)
3 回目 「自然界から生まれたことば」(2)	13 回目 「日本の古代語を探る」(1)	23 回目 学生による発表 (7)
4 回目 「自然界から生まれたことば」(3)	14 回目 「日本の古代語を探る」(2)	24 回目 学生による発表 (8)
5 回目 たましいと対話することば (1)	15 回目 「日本の古代語を探る」(3)	25 回目 学生による発表 (9)
6 回目 たましいと対話することば (2)	16 回目 演習入門	26 回目 学生による発表 (10)
7 回目 日本人の考え方がわかることば (1)	17 回目 学生による発表 (1)	27 回目 学生による発表 (11)
8 回目 日本人の考え方がわかることば (2)	18 回目 学生による発表 (2)	28 回目 学生による発表 (12)
9 回目 日本人の考え方がわかることば (3)	19 回目 学生による発表 (3)	29 回目 学生による発表 (13)
10 回目 「日本語の基本ルール」(1)	20 回目 学生による発表 (4)	30 回目 まとめ・講評

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『ひらがなでよめばわかる日本語』 中西進 新潮文庫 451 円（税込）（送料 260 円）

◆**参考書** 丸沼『日本の古代語を探る』 西郷信綱 集英社新書 735 円（税込）（送料 260 円）

丸沼『古代語を読む』 桜楓社 1,890 円（税込）（送料 260 円）

丸沼『古代語誌 古代語を読むⅡ』 桜楓社 1,890 円（税込）（送料 260 円）

『ことばの古代生活誌』 古橋信孝編 河出書房新社

〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉

◆**成績評価基準** 質疑応答 20%, レポート 80%

◆**E-Mail：**

■ことばと社会の関係を探る手法〔国語学基礎演習〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：三宅 和子

◆**学習目標** 以下のような基本的内容と研究方法、研究姿勢について学びます。

1. 社会言語学の基本的な考え方、研究テーマや方法、専門用語等について学ぶ。
2. 発表の仕方、レジュメ、レポートの作成プロセスをじっくり体験しながら学ぶ。
3. 課題へのアプローチの仕方や資料の調べ方、考察の仕方など、思考のプロセスで意識化しなければならないことを学ぶ。
4. 相互の学び合いと協力の意義について実践を通して体感的に学ぶ。

◆**授業方法** 最初に入門的な講義を集中的に行います。その後、個々の学生に社会言語学の視点をもったミニ調査を課し、講義と並行的に中間発表を行っていきます。演習後半では、春学期の調査から誘発された興味を生かしたテーマで共同研究を進めます。「授業計画」に示した「調査中間発表」のテーマはその例です。

◆**準備学習** 自分の発表以外の週にも、授業を最大限に自分のものにするために、準備に必要なことがあります。授業の終わりにお知らせします。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 導入：演習の目標・内容	11 回目 敬語とボライトネス	21 回目 調査中間発表：店員のことばづかい
2 回目 レジュメの作り方、ゼミ発表の仕方	12 回目 力と仲間意識	22 回目 調査中間発表：歌詞に現れた「道」の意味
3 回目 研究の方法について	13 回目 法律とことば、精神療法	23 回目 調査中間発表：日本人にとっての「桜」
4 回目 社会言語学とはなにか	14 回目 異文化間コミュニケーション	24 回目 調査中間発表：ほめられた時の返答
5 回目 多言語社会、コードスイッチング	15 回目 まとめ：振り返りと今後の課題の確認	25 回目 調査中間発表：ネーミング研究
6 回目 言語規則、言語の誕生と死	16 回目 導入：目標・内容の確認	26 回目 調査中間発表：方言話者のアイデンティティ
7 回目 日本とアメリカの社会言語学	17 回目 演習調査テーマとフィードバック	27 回目 調査中間発表：若者のあいさつことば
8 回目 年齢・階層、人種、ジェンダー	18 回目 調査テーマと調査構想発表 1	28 回目 調査中間発表：公共空間の多言語表示
9 回目 オーディエンス・デザイン	19 回目 調査テーマと調査構想発表 2	29 回目 調査中間発表：ドラマの中のジェンダー
10 回目 ボライトネス	20 回目 調査中間発表：公共マナーのことば	30 回目 振り返りと到達目標の確認

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『改訂版 社会言語学入門』 東照二 2011 研究社 2,415 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 授業中に紹介します。

◆**成績評価基準** 資料作成 10%, 口頭発表 30%, レポート 40%, 授業への貢献度 20%

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆ロマン派詩人から James Joyce まで

〔イギリス文学史Ⅱ〕

木曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：猪野 恵也

◆**学習目標** ロマン派詩人からヴィクトリア朝における代表的な作家達を経て James Joyce に至るまでの各作家と各作品を紹介してゆく。扱わない作家や作品があるので一つの英文学誌として捉えて欲しい。気に入った作品があれば、原書の精読を望みます。

◆**授業方法** プリントを配布しそれらを読み上げてゆき、時代に沿って作家の生涯や代表的な作品に触れる。作品の抜粋を読んだり、DVD を活用する。

◆**準備学習** 翻訳でも構わないので扱う作家の作品を読んでおいて欲しい。作品に親しむことが英文学研究の要である。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 18 世紀の英文学概観	11 回目 Thomas Hardy	21 回目 George Orwell
2 回目 Jane Austen	12 回目 補足説明	22 回目 D.H.Lawrence
3 回目 Lyrical Ballads について	13 回目 補足説明	23 回目 Virginia Woolf
4 回目 John Keats	14 回目 補足説明	24 回目 W.B.Yeats
5 回目 プロンテ姉妹と Jane Eyre	15 回目 補足説明	25 回目 James Joyce
6 回目 Wuthering Heights について	16 回目 前期テスト	26 回目 James Joyce
7 回目 George Eliot	17 回目 Henry James	27 回目 補足説明
8 回目 Charles Dickens	18 回目 Oscar Wilde	28 回目 補足説明
9 回目 William Makepeace Thackeray	19 回目 Joseph Conrad	29 回目 補足説明
10 回目 George Meredith	20 回目 E.M.Forster	30 回目 補足説明

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 当日プリントを配布（枚数が多いので常に整理しておいて下さい）。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み・テストにより総合的に評価します。毎回出席することを前提として評価しますので、各自スケジュールを確認してから受講して下さい。私語、携帯いじりなど受講態度が悪い学生は授業妨害とみなし、退出してもらいます。

◆**E-Mail：**

□英文法をより深く

【英文法】

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：真野 一雄

◆学習目標 文理学部文学専攻（英文学）の学生として必要な英文法知識を全般的により深く習得します。

◆授業方法 原則、3回の授業で1章を見ていきます。
テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。

◆準備学習 毎回、テキストを読み、練習問題の解答を用意しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 第 1 章 基本文型	11 回目 第 4 章 否定	21 回目 第 7 章 準動詞
2 回目 第 1 章 基本文型	12 回目 第 4 章 否定	22 回目 第 7 章 準動詞
3 回目 第 1 章 基本文型	13 回目 第 5 章 助動詞	23 回目 第 8 章 形容詞
4 回目 第 2 章 文の構造	14 回目 第 5 章 助動詞	24 回目 第 8 章 形容詞
5 回目 第 2 章 文の構造	15 回目 前期試験	25 回目 第 8 章 形容詞
6 回目 第 2 章 文の構造	16 回目 第 5 章 助動詞	26 回目 第 9 章 名詞句と文構造の多様性
7 回目 第 3 章 動詞	17 回目 第 6 章 受動文	27 回目 第 9 章 名詞句と文構造の多様性
8 回目 第 3 章 動詞	18 回目 第 6 章 受動文	28 回目 第 11 章 関係詞
9 回目 第 3 章 動詞	19 回目 第 6 章 受動文	29 回目 第 11 章 関係詞
10 回目 第 4 章 否定	20 回目 第 7 章 準動詞	30 回目 第 11 章 関係詞

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 丸沼『大学生のための現代英文法』 開拓社 2,310 円（税込）（送料 340 円）

◆参考書 他の英文法参考書、英文法研究書など。

◆成績評価基準 前期試験（50%）、後期試験（50%）（試験は途中退出なしです）。前期試験未受験者は受講資格を失います。毎回出席することを前提として評価します。

◆E-Mail：

□English Composition 1

【英作文 I】

金曜日 2 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位

担当者：アレックス ブラウン

◆学習目標 This course begins with a look at the writing process and its structure. The course also explores other forms of writing; creative writing, narratives, comparative essays and persuasive approaches.

◆授業方法 We will work on developing essays through the writing process, generating ideas in group activities, organizing ideas and constructing essays all within a workshop-like environment.

◆準備学習 There are no prerequisites for this course. Students are encouraged to write a journal in English that will be reviewed (not graded) by the teacher during the course.

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Self-introduction writing activity.	11 回目 Writing Process Topic 2
2 回目 Free-writing. Writing Process	12 回目 Writing Process Topic 2
3 回目 The Writing Process	13 回目 Activities
4 回目 Overview of writing forms	14 回目 Critique for Essay 2
5 回目 Paragraph construction	15 回目 Final analysis, Essay 2 due
6 回目 Brainstorming essay ideas	The final examination
7 回目 Draft preparation for Essay 1	
8 回目 Analysis and critique	
9 回目 Brainstorming Topic 2	
10 回目 Writing Process Topic 2	

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts. Students are expected to bring a notebook, dictionary and folder for handouts.

◆参考書

◆成績評価基準 Students will be graded on two essays with strong consideration on class participation and group contribution.

◆E-Mail：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

English Composition 2

〔英作文Ⅱ〕

金曜日 2 時限〔後期のみ〕

開講単位 2 単位

担当者：アレックス ブラウン

- ◆**学習目標** This course focuses on Creative Writing generating essays that are plot-driven and character-driven. The course also explores other forms of writing; narratives and comparative essays.
- ◆**授業方法** We will work on developing essays through various activities individually and in groups. Essay construction takes place in a workshop-like environment with emphasis on essay analysis.
- ◆**準備学習** There are no prerequisites for this course. Students are encouraged to write a journal in English that will be reviewed (not graded) by the teacher during the course.

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Introduction and Orientation.	11 回目 Essay Analysis/Revision.
2 回目 Creative writing Activity 1.	12 回目 Comparative Essay Activity
3 回目 Creative writing Activity 2.	13 回目 Narrative Activity
4 回目 Creative writing Activity 3.	14 回目 Essay Analysis/Revision.
5 回目 Creative writing Activity 4.	15 回目 Final Essay due
6 回目 Essay 1 Revision.	The final examination
7 回目 Creative writing Activity 5.	
8 回目 Creative writing Activity 6.	
9 回目 Creative writing Activity 7.	
10 回目 Creative writing Activity 8.	

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

- ◆**教科書** No text will be required. Students will be provided with handouts.
Students are expected to bring a notebook, dictionary and a folder for notes.

◆参考書

- ◆**成績評価基準** Grades will be based on attendance, in class participation and Activity work as well as 2 graded essays.

◆E-Mail：

英語の音声現象の基礎理解

〔英語音声学〕

水曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：森 晴代

- ◆**学習目標** 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解する。
2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を追及する。
- ◆**授業方法** 英語音声学の観点から母音、子音、プロソディの説明を行います。毎週小テストを課して習得状況を確認します。必要に応じてプリントを配布し補足説明します。8 名から 10 名のグループを作り、発音練習への取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。
- ◆**準備学習** テキストには専門用語が数多くでてきますので、前もって読んでおきましょう。発声器官の名称は、子音の勉強につながります。理解しておきましょう。また、辞典を引く際発音記号を意識する習慣がついていると良いと思います。授業には必ず辞典を持参してください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 コミュニケーションにおける音声、発声器官の名称説明	11 回目 英語のリズム	21 回目 流音、半母音の説明及び発音練習
2 回目 Phonics に関わるプリント配布、及び解答、発音記号の見方	12 回目 文（短文）の発音練習及び練習問題 1	22 回目 子音連続の発音練習
3 回目 基本母音	13 回目 文（短文）の発音練習及び練習問題 2	23 回目 子音のまとめプリント配布及び解答
4 回目 英語の母音の分類、前舌母音の説明及び発音練習	14 回目 発音テスト	24 回目 音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習
5 回目 後舌母音の説明及び発音練習	15 回目 中間筆記テスト	25 回目 音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習
6 回目 中舌母音の説明及び発音練習	16 回目 発声器官の復習、子音の分類説明	26 回目 音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習
7 回目 二重母音の説明及び発音練習	17 回目 閉鎖音の説明及び発音練習	27 回目 イントネーションの説明及び文の発音練習（長文）
8 回目 母音、二重母音のまとめプリント配布及び解答	18 回目 摩擦音の説明及び発音練習	28 回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 1
9 回目 音節、語強勢、句強勢	19 回目 破擦音の説明及び発音練習	29 回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 2
10 回目 文強勢	20 回目 鼻音の説明及び発音練習	30 回目 発音テスト

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

- ◆**教科書** 丸沼『A Way to Better English Pronunciation – 英語の発音、リスニング、スピーキングへの近道』
英潮社フェニックス 2009 年 池田紅玉、森晴代著 2,310 円（税別）（送料 260 円）
- ◆**参考書** 丸沼『英語の音声を科学する』大修館書店 新装版 CD 付 川越いつえ著 2,520 円（税込）（送料 340 円）
*授業では使用しません。
- ◆**成績評価基準** 平常点（20%）、小テスト（20%）、発音テスト（10%）、試験（50%）
- ◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

〔英米文学演習〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：猪野 恵也

- ◆**学習目標** Joseph Conrad (1857-1924) による *Heart of Darkness* (1902) を読みます。最初は曖昧模糊とした読後感しか残らないと思います。しかし、なぜ名作と呼ばれるのか、英文をよく読むことによって解きほぐしていきます。

- ◆授業方法 学生による和訳の発表と英文の検討。物語としては変化が乏しいので地味な作業が続きます。

- ◆**準備学習** まず、翻訳でよいので全篇を読んでから一回目ないし二回目の授業に臨むこと。毎回英文の予習を怠らぬようにすること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Joseph Conrad の紹介	11 回目 学生による発表及び英文読解	21 回目 学生による発表及び英文読解
2 回目 学生による発表及び英文読解	12 回目 同上	22 回目 同上
3 回目 同上	13 回目 同上	23 回目 同上
4 回目 同上	14 回目 同上	24 回目 同上
5 回目 同上	15 回目 同上	25 回目 同上
6 回目 同上	16 回目 前期試験	26 回目 同上
7 回目 同上	17 回目 学生による発表及び英文読解	27 回目 同上
8 回目 同上	18 回目 同上	28 回目 同上
9 回目 同上	19 回目 同上	29 回目 同上
10 回目 同上	20 回目 同上	30 回目 同上

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

- ◆教科書 **事前資料送付** プリントを事前に配布する。

- ◆参考書 授業中に指示する。

- ◆成績評価基準 発表（30％）小テスト（20％）試験（50％）毎回出席することを前提として評価します。私語、携帯いりなど受講態度が悪い学生は授業妨害とみなし、退出してもらいます。

- ◆ E-Mail :

◆古代・中世ヨーロッパの思想

〔西洋思想史Ⅰ〕

水曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：杉山 晃太郎

- ◆**学習目標** この授業では、古代から中世のヨーロッパにおける思想、哲学、宗教、科学の基本的な考え方を学びます。中心となるのは、現代の欧米人の考え方の主要な源である古代ギリシアにおける学問とキリスト教です。両者がどのように誕生したか、また、その後の展開はどうだったかを学ぶことにより、その両者の現代との関わりと意義を理解することを目標とします。

- ◆**授業方法** 授業は、毎回配布するプリントに沿って、講義形式で行ないます。専門用語も出てきますが、その意味や由来などは、その都度説明します。プリントでは、できるだけ哲学者や思想家の原典テキスト（日本語訳）を紹介するので、彼らが書き残した文章も味わってください。また、各回の授業テーマに関係の深い参考文献については、プリントで紹介します。

- ◆**準備学習** 古代ギリシア・ローマ、キリスト教、中世に関する高等学校世界史レベルの知識があれば、余裕をもって講義を聞くことができますが、必須ではありません。できれば、あらかじめ参考書を読んでおくとよいと思います。

- 回の授業の前に、教科書、参考書の該当する箇所を読んで、授業に臨むことを推奨します。授業の後には、配布プリントと合わせて、教科書・参考書で復習し、不明点があれば、質問してください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目	ガイダンスー思想、哲学、宗教、科学	11 回目	ソクラテス 1ー知を愛する人	21 回目	懷疑派と新プラトン主義（プロティノス）
2 回目	古代ギリシア・ローマ概観 1	12 回目	ソクラテス 2ー対話と吟味	22 回目	初期キリスト教 1ーイエス
3 回目	古代ギリシア・ローマ概観 2	13 回目	プラトン 1ーイデア論	23 回目	初期キリスト教 2ー聖書、福音書
4 回目	詩と演劇ー叙事詩、悲劇、喜劇	14 回目	プラトン 2ー魂について	24 回目	初期キリスト教 3ーユダヤ教からキリスト教へ
5 回目	神話から学問へーミレトス派	15 回目	前期のまとめ	25 回目	中世、キリスト教、哲学
6 回目	最初の哲学者たち 1ーアルケーの探求	16 回目	ヒポクラテス学派と経験医学	26 回目	中世哲学 1ー教父哲学
7 回目	最初の哲学者たち 2ーエレア派	17 回目	アリストテレス 1ー4 つの原因	27 回目	中世哲学 2ースコラ哲学
8 回目	最初の哲学者たち 3ー多元論者	18 回目	アリストテレス 2ー運動変化	28 回目	ルネサンスー古代との「再会」
9 回目	ソフィストー民主主義と言論	19 回目	ヘレニズム時代 1ーストア派	29 回目	科学革命ーベーコンとデカルト
10 回目	弁論術ーソクラテスとデモステネス	20 回目	ヘレニズム時代 2ーエピクロス派	30 回目	全体のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

- ◆教科書 通材『西洋思想史Ⅰ 0511』 通信教育教材（教材コード000133） 2,700円（送料込）

当日資料配布 当日プリント配布。

- ◆参考書 丸沼『ヨーロッパ思想入門』 岩田靖夫著 岩波ジュニア新書 2003年 861円(税込)(送料340円)

- 丸沼**『ソフィーの世界－哲学者からの不思議な手紙－』 ヨースタイン ゴルデル著 池田理代子訳 NHK 出版 1995年 2548円(税込)(送料560円)

- ◆成績評価基準 学期末試験（2回，60%）と授業内小レポート（適宜，40%）によって評価します。試験とレポートの具体的な方法については，初回の授業時に説明します。

- ◆ E-Mail :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

■神と仏の精神史

【日本思想史Ⅱ】

水曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：島田 健太郎

◆**学習目標** 今年度は、平安時代中期から鎌倉期にかけての、いわゆる「習合思想」を中心に考えていきます。この時代には多様な信仰が生まれましたが、それらが当時の人々のどのような思いを反映し、また時代状況に応じてどのような変貌を遂げたのか検討したいと思います。これらによって当時の宗教状況を理解するとともに、当時の人々が神や仏をどのようにイメージし、何を期待していたのか、さらにはその底に流れる「ものの考え方」について、より理解を深めていくことを目標とします。

◆**授業方法** プリントとして配布する原典や史料を参考にしながら、講義形式で行います。時代が中世ということもあり、聞き慣れない言葉や難解な専門用語などがたくさんありますが、それらには適宜説明を加えます。またプリントには現代語訳をつけるので、古文・漢文の読解に自信がなくても構いません。

◆**準備学習** 授業でも適宜説明しますが、平安時代から鎌倉時代にかけての主要な出来事（摂関政治とか院政など）について、いつ、どんな順番で起ったか、また関係する人物について、大まかな知識でもあれば授業が聞きやすくなると思います。また、関西方面の話が中心なので、神社や寺院の地理的關係を理解するためにも、地図があるといいでしょう。

◆授業計画（各 90 分）

1 回目 概説	11 回目 熊野三山の信仰①	21 回目 神仏習合の理論①
2 回目 祇園と天神－御霊信仰－①	12 回目 熊野三山の信仰②	22 回目 神仏習合の理論②
3 回目 祇園と天神－御霊信仰－②	13 回目 熊野三山の信仰③	23 回目 神仏習合の理論③
4 回目 祇園と天神－御霊信仰－③	14 回目 熊野三山の信仰④	24 回目 神仏習合の理論④
5 回目 祇園と天神－御霊信仰－④	15 回目 熊野三山の信仰⑤	25 回目 伊勢神道①
6 回目 祇園と天神－御霊信仰－⑤	16 回目 鎌倉仏教と神道①	26 回目 伊勢神道②
7 回目 金剛蔵王菩薩①	17 回目 鎌倉仏教と神道②	27 回目 伊勢神道③
8 回目 金剛蔵王菩薩②	18 回目 春日神の変容①	28 回目 唯一神道①
9 回目 金剛蔵王菩薩③	19 回目 春日神の変容②	29 回目 唯一神道②
10 回目 金剛蔵王菩薩④	20 回目 春日神の変容③	30 回目 唯一神道③

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 「当日資料配布」当日にプリントを配布します。

◆**参考書** 授業内で、必要に応じて紹介します。

◆**成績評価基準** 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して評価します。

◆**E-Mail** :

■応用倫理の基礎を学ぼう

【倫理学概論】

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：笹井 和夫

◆**学習目標** 現在流行している生命倫理や環境倫理といった応用倫理がその場限りのものとならないように、応用の基礎である「倫理学」を理解する。

◆**授業方法** パワーポイントを使用して、講義を中心に授業を進めるが、受講者と一緒に考えることも同時に行いたい。

◆**準備学習** 「倫理学」の入門書のようなものを読んでおいてください。

◆授業計画（各 90 分）

1 回目 ガイダンス	11 回目 実践哲学としての倫理学 1	21 回目 人格の形成と道徳意識 2
2 回目 倫理学の意義 1	12 回目 実践哲学としての倫理学 2	22 回目 人格の形成と道徳意識 3
3 回目 倫理学の意義 2	13 回目 実践哲学としての倫理学 3	23 回目 人格の形成と道徳意識 4
4 回目 倫理学の成立 1	14 回目 実践哲学としての倫理学 4	24 回目 法と道徳 1
5 回目 倫理学の成立 2	15 回目 まとめ	25 回目 法と道徳 2
6 回目 倫理学の成立 3	16 回目 人生論と倫理学 1	26 回目 法と道徳 3
7 回目 倫理学の成立 4	17 回目 人生論と倫理学 2	27 回目 法と道徳 4
8 回目 規範学としての倫理学 1	18 回目 人生論と倫理学 3	28 回目 応用倫理 1
9 回目 規範学としての倫理学 2	19 回目 人生論と倫理学 4	29 回目 応用倫理 2
10 回目 規範学としての倫理学 3	20 回目 人格の形成と道徳意識 1	30 回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 使用しません。

◆**参考書** 通材『倫理学概論 0533』通信教育教材（教材コード 000140）2,300 円（送料込）

◆**成績評価基準** 平常点 30%+試験 70%= 100 点。

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

科学哲学

〔科学哲学〕

木曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：本間 司

◆**学習目標** 現代科学の一潮流である科学哲学の認識論を検討することによって、私達が「考える」とはどういうことを具体的に理解する。

◆**授業方法** 講義を行い、質問を受けつけて回答することで理解して貰うように進める。

◆**準備学習** 特になし。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 哲学とは何か	11 回目 現代認識論の理論的背景 (自己反省としての科学)	21 回目 科学的認識とは (理性と経験) IX
2 回目 現代認識論の歴史的背景	12 回目 科学的認識とは	22 回目 認識機構と認識論的立場 I
3 回目 現代認識論の歴史的背景 (カントからヘーゲル)	13 回目 科学的認識とは (理性と経験) I	23 回目 認識機構と認識論的立場 II
4 回目 現代認識論の歴史的背景 (ヘーゲルから新カント学派)	14 回目 科学的認識とは (理性と経験) II	24 回目 認識機構と認識論的立場 III
5 回目 現代認識論の歴史的背景 (新カントから現象学)	15 回目 科学的認識とは (理性と経験) III	25 回目 観念論と実在論 I
6 回目 現代認識論の歴史的背景 (現象学から実存主義)	16 回目 科学的認識とは (理性と経験) IV	26 回目 観念論と実在論 II
7 回目 現代認識論の歴史的背景 (マルクス主義と科学哲学)	17 回目 科学的認識とは (理性と経験) V	27 回目 実在の認識論的尊崇 I
8 回目 現代認識論の歴史的背景 (科学哲学の展望)	18 回目 科学的認識とは (理性と経験) VI	28 回目 実在の認識論的尊崇 II
9 回目 現代認識論の理論的背景	19 回目 科学的認識とは (理性と経験) VII	29 回目 実在の認識論的尊崇 III
10 回目 現代認識論の理論的背景 (科学的認識論)	20 回目 科学的認識とは (理性と経験) VIII	30 回目 まとめ、試験

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** 教材『科学哲学 0575』通信教育教材 (教材コード 000142) 1,700 円 (送料込)

◆**参考書** 『哲学辞典』 (あるもので可)

◆**成績評価基準** 平常点 60%, 発表 40%

◆**E-Mail** :

医療の哲学的思索

〔哲学演習〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：本間 司

◆**学習目標** 人類を悩ませてきた「生老病死」の四苦が医療によってどのように克服され、また現代まで解決されていない点を看護の側面から考察することによって、個々人の対応を考えることを目標とする。

◆**授業方法** ディスカッション方法をとる。その後に毎回発表者から問題提起をしてもらう。

◆**準備学習** 医療について各個人の意見をまとめて発表を準備する。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 古代における医療について (1)	11 回目 ヒポクラテスとデモクリトスの対話 (2)	21 回目 近代医学と看護思想 (3)
2 回目 古代における医療について (2)	12 回目 ヒポクラテスとデモクリトスの対話 (3)	22 回目 医学と哲学的世界観 (1)
3 回目 ヒポクラテス医療 (1)	13 回目 近代医学思想 (1)	23 回目 医学と哲学的世界観 (2)
4 回目 ヒポクラテス医療 (2)	14 回目 近代医学思想 (2)	24 回目 医学と哲学的世界観 (3)
5 回目 ヒポクラテス医療 (3)	15 回目 近代医学思想 (3)	25 回目 医学と哲学的世界観 (4)
6 回目 ヒポクラテス医療 (4)	16 回目 現代医学思想 (1)	26 回目 論理的な世界観について (1)
7 回目 デモクリトス (1)	17 回目 現代医学思想 (2)	27 回目 論理的な世界観について (2)
8 回目 デモクリトス (2)	18 回目 現代医学思想 (3)	28 回目 論理的な世界観について (3)
9 回目 デモクリトス (3)	19 回目 近代医学と看護思想 (1)	29 回目 論理的な世界観について (4)
10 回目 ヒポクラテスとデモクリトスの対話 (1)	20 回目 近代医学と看護思想 (2)	30 回目 まとめ

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** 授業時に配布する。

◆**参考書** 各自で発表テーマに即して選択。

◆**成績評価基準** 平常点 (50%), 発表 (50%)

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

■歴史学の論文を書くために

【史学概論】

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：高綱 博文

◆**学習目標** 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方を考える。

◆**授業方法** 歴史学の使命・技法及び革新について講述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。後期には受講生全員に卒業論文のテーマの概要と研究計画について報告してもらいます。

◆**準備学習** 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 歴史学の技法 (3)	21 回目 地域区分論 (3)
2 回目 歴史学とは何か (1)	12 回目 歴史学の技法 (4)	22 回目 歴史学の革新 (1)
3 回目 歴史学とは何か (2)	13 回目 歴史学の技法 (5)	23 回目 歴史学の革新 (2)
4 回目 歴史学とは何か (3)	14 回目 歴史学の技法 (6)	24 回目 歴史学の革新 (3)
5 回目 近代歴史学の成立 (1)	15 回目 前期のまとめ	25 回目 歴史論文の作成法 (1)
6 回目 近代歴史学の成立 (2)	16 回目 時代区分論 (1)	26 回目 歴史論文の作成法 (2)
7 回目 近代歴史学の成立 (3)	17 回目 時代区分論 (2)	27 回目 歴史論文の作成法 (3)
8 回目 近代歴史学の成立 (4)	18 回目 時代区分論 (3)	28 回目 卒論構想報告 (1)
9 回目 歴史学の技法 (1)	19 回目 地域区分論 (1)	29 回目 卒論構想報告 (2)
10 回目 歴史学の技法 (2)	20 回目 地域区分論 (2)	30 回目 卒論構想報告 (3)

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **【当日資料配布】** 授業中に資料を配布します。

◆**参考書** **【丸沼】**『歴史学入門』 福井憲彦 岩波書店 1,785 円（税込）（送料 340 円）
【丸沼】『新しい史学概論』 望月幸男等 昭和堂 2,310 円（税込）（送料 340 円）
【丸沼】『史学概論』 塚塚忠躬 東京大学出版会 7,140 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 試験（50%）、レポート及び卒論構想報告（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail：**

■日本史の理解を深めていこう

【日本史概説】

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：鍋本 由徳

◆**学習目標** 本講義では、中等教育レベルの日本史から、高等教育レベルの日本史へのステップアップを図ることを目標としています。高校教科書に記されている「事実」は「史実」なのでしょうか？ 登場する人物はなぜそのような行動を起こしたのでしょうか？ また史実解釈は 1 つなののでしょうか？ 古代から現代までの大きな流れを知ると同時に、「歴史」に対する理解を深めることを目標にします。

◆**授業方法** 以下のシラバス（予定）を講義形式にておこないます。本科目は専門教育科目であると同時に、高校地歴科や中学校社会の教員免許をめざす人も対象にしています。配布プリントをメインに使用し、図表を映写しながら、講師の説明を中心に進めていきます。できれば高校教科書（出版社問わず新しいもの）を持参してもらえればと思います。

◆**準備学習** この講義では高校教科書の内容を利用しながら、1 年間かけて専門性のある日本史を学んでいきます。最低限、高校教科書レベルの用語は理解しておきたいところです。高校教科書や日本史 B 用語集と、教科書の内容や専門性の高い辞書類とを事前比較しておく、中等教育と高等教育の質的差異を知ることができるはずです。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 日本史概説の概要	11 回目 摂関時代の政治と社会	21 回目 三大改革の意義
2 回目 先史時代 (1) ～旧石器～	12 回目 武士団形成と源平合戦	22 回目 寛永・元禄・化政文化
3 回目 先史時代 (2) ～縄文・弥生～	13 回目 鎌倉幕府成立の問題	23 回目 幕末・明治維新
4 回目 「魏志」倭人伝とクニ	14 回目 東西王権の融合と得宗	24 回目 明治初期の政治
5 回目 古墳時代	15 回目 南北朝時代と足利氏	25 回目 自由民権と国会
6 回目 華夷思想と倭の五王	16 回目 義満の皇位簞簞問題	26 回目 政党政治の展開
7 回目 厩戸皇子と大陸の関係	17 回目 戦国時代に対する理解	27 回目 2 つの大戦と政治
8 回目 改新の詔と公地公民	18 回目 織豊政権と身分制社会	28 回目 戦時下における社会
9 回目 奈良時代の政争と社会	19 回目 江戸幕府と豊臣氏	29 回目 戦後体制の高度経済成長
10 回目 記紀の成立と歴史	20 回目 江戸幕府制度の確立	30 回目 日本史概説総括

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **【通材】**『日本史概説 0620 / 日本史概説 0621』 通信教育教材（教材コード 000382） 2,450 円（送料込）
 〈この教材は市販の『概説 日本歴史』 佐々木潤之介（吉川弘文館）と同一です〉
【当日資料配布】 ※なお、当日参考プリントもあわせて配布します。

◆**参考書** 『日本の歴史』シリーズ（講談社、小学館など） その他、講義中に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 試験（70%）、平常点（授業内豆テスト 30%）をベースにした総合評価にて決定します（全回出席を前提とします）。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

〔西洋史概説〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：高草木 邦人

- ◆**学習目標** グローバリゼーションの拡大や各国のナショナリズムの高まりのなか、私たちは自国以外の国・地域の歴史的経験や認識を理解することが求められています。本講義では、ヨーロッパの近代史を学び、その理解を深めることを目的とします。前学期には、英・仏・独の歴史を学び、ヨーロッパ近代史の基礎的な知識を獲得し、後学期には、ロシアや東欧諸地域の歴史を学びながら、多くの国々の「視点」から歴史を考えていきます。
- ◆**授業方法** 基本的に講義形式をとりますが、必要に応じて映像教材・視聴覚資料も利用しながら、授業を行います。また、夏休みには、配布プリントをもとにしたレポートを課す予定です。
- ◆**準備学習** 高等学校の教科書を受講前までに必ず読んでおいて下さい。本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので、高等学校の世界史Aの教科書などを事前に読んで、歴史の知識を蓄えながら、世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。また、本講義が扱う各国の歴史の本や概説書を読んでおくことも望ましいです。
- ◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 西欧諸国の前近代①	11 回目 ドイツ近代史①	21 回目 オーストリア帝国④
2 回目 西欧諸国の前近代②	12 回目 ドイツ近代史②	22 回目 ロシア帝国①
3 回目 イギリス近代史①	13 回目 ドイツ近代史③	23 回目 ロシア帝国②
4 回目 イギリス近代史②	14 回目 ドイツ近代史④	24 回目 ロシア帝国③
5 回目 イギリス近代史③	15 回目 前学期のまとめ	25 回目 ロシア帝国④
6 回目 イギリス近代史④	16 回目 東欧諸国の前近代①	26 回目 バルカン半島①
7 回目 フランス近代史①	17 回目 東欧諸国の前近代②	27 回目 バルカン半島②
8 回目 フランス近代史②	18 回目 オーストリア帝国①	28 回目 バルカン半島③
9 回目 フランス近代史③	19 回目 オーストリア帝国②	29 回目 バルカン半島④
10 回目 フランス近代史④	20 回目 オーストリア帝国③	30 回目 後学期のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

- ◆教科書 当日資料配布 プリント配布（当日）。
◆参考書 授業中に適時指示する。
◆成績評価基準 試験（50%）、レポート（20%）、平常点（30%）。平常点は、授業中に配布するリアクション・ペーパーと授業態度を参考に評価します。
◆E-Mail：

◆「黒衣の宰相」は幕府のフィクサーか？

〔日本史特講Ⅰ〕

水曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：鍋本 由徳

- ◆**学習目標** 本講義では、17世紀初頭に活躍した僧侶「金地院崇伝」（黒衣の宰相）の政治的役割を、『本光国師日記』に記載された書状や目安（訴状）などを通じて解明することを目的とします。部門的には「政治史」ですが、家康生前期における崇伝の活動が、家康の死後、どのように変化し、晩年を迎えていくのかを講義していきます。大きな目標は、その変化のなかで、幕府組織の整備、裁判のあり方などを考えていくことです。
- ◆**授業方法** 講義形式で進めます。史学専攻学生の今後の研究や視角を意識して授業を展開させます。配布プリントを使用し、適宜プリント内の史料（書状・記録・随筆など）の読み下しや読解を進め、講師の説明を中心に進めます。2～4年次配当科目で専門性の高い講義になりますが、2年次学生も受講することを考慮しながら講義していきます。
- ◆**準備学習** この講義は専門教育科目です。事前に日本史、特に江戸幕府創設期における全体の流れと、将軍の主な実績について学んでおくとういでしょう。高校教科書では1ページにも満たないところを1年間かけて学ぶので、概説書（『日本の歴史』や『日本の近世』など）を併せて読むことで、より理解が深まるはずです。
- ◆**授業計画** [各 90 分]

1 回目	日本史特講Ⅰの概要	11 回目	陽春院事件～第2 争論～	21 回目	元和期の寺院争論
2 回目	寺院行政のあり方	12 回目	所司代板倉と崇伝の関係	22 回目	崇伝の交際範囲
3 回目	業績紹介・学説史	13 回目	幕閣の争論への介入	23 回目	崇伝と武家の情報交換
4 回目	争論の手続き	14 回目	慶長・元和における崇伝	24 回目	崇伝と天海の関係
5 回目	金地院崇伝の生涯	15 回目	前期授業の整理・総括	25 回目	外交官としての崇伝
6 回目	『国師日記』（慶長～元和）	16 回目	政治家としての僧侶	26 回目	崇伝の政治活動（1）
7 回目	寺院争論（1）～近江～	17 回目	封建官僚制へ～出頭人～	27 回目	崇伝の政治活動（2）
8 回目	寺院争論（2）～山城～	18 回目	封建官僚制へ～組織～	28 回目	崇伝の晩年と死
9 回目	寺院争論（3）～その他～	19 回目	『国師日記』の利用	29 回目	後期授業の整理・総括
10 回目	陽春院事件～第1 争論～	20 回目	『国師日記』（元和～寛永）	30 回目	日本史特講Ⅰ総括

※別途、試験を実施する週（平成26年1月21日～24日）を設けています。

- ◆教科書 当日資料配布 当日プリントを配布します。
- ◆参考書 丸沼『日本の歴史 15 織豊政権と江戸幕府』池上裕子 講談社学術文庫 1,260 円(税込)(送料 260 円)
丸沼『日本の名僧 15 政界の導者 天海・崇伝』玉室文雄編 吉川弘文館 2,730 円(税込)(送料 340 円)
- ◆成績評価基準 試験(70%)，平常点(授業内豆テスト 30%)をベースにした総合評価にて決定します(全回出席を前提とします)。
- ◆E-Mail：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

日本の遺跡を知ろう

〔考古学概説〕

金曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：西野 吉論

◆**学習目標** 日本の各地に所在する様々な時代の遺跡を取り上げ、そこからどのようにして歴史が復元されているのか学んでいきます。考古学の研究対象である考古資料にはどのようなものがあるのか、これらはどのような方法で分析されているのか理解していきます。

◆**授業方法** 写真や図版を利用し、講義形式で行います。各時代ごとに時期分類と遺跡の紹介を行っていきます。

◆**準備学習** 新聞やインターネットで記事になった考古学関連のニュースに普段から目を向けるようにしておいてください。また、自治体や博物館等のホームページにある電子博物館を閲覧してみてください。そのほか、時間がありましたら、地元の遺跡公園や博物館を訪れてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス 考古学とは	11 回目 縄文時代から弥生時代へ	21 回目 古墳時代前期の古墳
2 回目 考古資料の種類	12 回目 弥生時代の時期区分と弥生土器	22 回目 古墳時代中期の古墳
3 回目 考古学上の時代区分	13 回目 弥生時代早期～前期の遺跡	23 回目 古墳時代の集落と豪族居館
4 回目 旧石器時代とは	14 回目 弥生時代中期の西日本の遺跡	24 回目 古墳時代後期～終末期の古墳
5 回目 旧石器時代の遺跡とその分析	15 回目 前期のまとめ	25 回目 奈良～平安時代の遺跡
6 回目 旧石器時代から縄文時代へ	16 回目 弥生時代中期の東日本の遺跡	26 回目 寺院と宮衙
7 回目 縄文時代の時期区分と縄文土器	17 回目 弥生時代後期の西日本の遺跡	27 回目 中世の遺跡
8 回目 縄文時代草創期～早期の遺跡	18 回目 弥生時代後期の東日本の遺跡	28 回目 近世の遺跡
9 回目 縄文時代中期の遺跡	19 回目 弥生時代から古墳時代へ	29 回目 近現代の遺跡
10 回目 縄文時代後期・晩期の遺跡	20 回目 古墳時代の時期区分と土器・須恵器	30 回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕適宜プリントを配布します。

◆**参考書** 授業中に紹介します。

◆**成績評価基準** 抜き打ちの小テスト（30%）、試験（70%）

◆**E-Mail**：

史料で見る近世社会

〔日本史演習〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：竹中 眞幸

◆**学習目標** 本授業では、卒業論文作成にむけての具体的な研究方法・技術の習得、特に論文作成に不可欠となる、史料の読解力を養うことを主な目的とする。

◆**授業方法** 演習科目であるから、授業の前期を除き、いわゆる講義形式はとらず、与えられた課題に対する研究報告や卒業論文の中間報告等の学生各自の学習・研究を中心にすえ、自主的な研究能力の養成を行いたい。

◆**準備学習** 1 年間の授業であるから、授業の進行に合わせて学習内容（課題報告の準備等）を順次指示する。したがって、受講前の準備学習は必要としない。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 課題報告と質疑応答(4)	21 回目 課題報告と質疑応答(10)
2 回目 近世史料読解のための基礎知識(1)	12 回目 課題報告と質疑応答(5)	22 回目 課題報告と質疑応答(11)
3 回目 近世史料読解のための基礎知識(2)	13 回目 卒業論文の中間報告(1)	23 回目 課題報告と質疑応答(12)
4 回目 近世史料読解のための基礎知識(3)	14 回目 卒業論文の中間報告(2)	24 回目 課題報告と質疑応答(13)
5 回目 近世史料読解のための基礎知識(4)	15 回目 前期のまとめと小テスト	25 回目 課題報告と質疑応答(14)
6 回目 テキスト史料解説(1)	16 回目 後期補充史料と解説開設	26 回目 課題報告と質疑応答(15)
7 回目 テキスト史料解説(2)	17 回目 課題報告と質疑応答(6)	27 回目 課題報告と質疑応答(16)
8 回目 課題報告と質疑応答(1)	18 回目 課題報告と質疑応答(7)	28 回目 課題報告と質疑応答(17)
9 回目 課題報告と質疑応答(2)	19 回目 課題報告と質疑応答(8)	29 回目 後期のまとめと質疑応答
10 回目 課題報告と質疑応答(3)	20 回目 課題報告と質疑応答(9)	30 回目 後期のまとめと小テスト

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**資料** 〔当日資料配布〕授業初日にテキストとして使用する史料（江戸時代の活字史料）を配布する。本年度は、『辻六郎左衛門上書』を予定している。

◆**参考書** 参考資料と共に、授業時に適宜紹介する。

◆**成績評価基準** 報告内容（50%）、平常点（40%）、小テスト（10%）

◆**E-Mail**：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

□史料で考える孫文と日本人

〔東洋史演習〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：高綱 博文

◆**学習目標** 中国革命の父・孫文を支援した代表的な日本人である宮崎滔天『三十三年の夢』を講読しながら、史料批判・研究史整理など歴史研究のための基礎力を養成します。

◆**授業方法** テキスト史料・宮崎滔天『三十三年の夢』（岩波文庫）を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆**準備学習** 予めテキスト史料を学習し講読の準備を行う。また研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 史料講読・報告・討論（7）	21 回目 史料講読・報告・討論（16）
2 回目 中国近現代史研究方法	12 回目 同上（8）	22 回目 同上（17）
3 回目 テキスト史料解説	13 回目 同上（9）	23 回目 同上（18）
4 回目 史料講読・報告・討論（1）	14 回目 同上（10）	24 回目 同上（19）
5 回目 同上（2）	15 回目 同上（11）	25 回目 同上（20）
6 回目 同上（3）	16 回目 同上（12）	26 回目 同上（21）
7 回目 同上（4）	17 回目 同上（13）	27 回目 同上（22）
8 回目 同上（5）	18 回目 同上（14）	28 回目 同上（23）
9 回目 同上（6）	19 回目 同上（15）	29 回目 同上（24）
10 回目 国会図書館見学	20 回目 東洋文庫見学	30 回目 総括討論

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** テキスト史料 丸沼『三十三年の夢』 宮崎滔天 岩波文庫 1993 年 1,260 円（税込）（送料 340 円）

◆**参考書** 授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 講読・発表（60%）、平常点（20%）、レポート（20%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail**：

□歴史の論文を書く

〔西洋史演習〕

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：藤井 信行

◆**学習目標** 4 年間の歴史の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。授業をとおして卒業論文のテーマ決定、文献目録の作成、研究史の整理、資料の収集、文献の読解などを指導し、歴史の論文を書くことを学びます。西洋史での卒業論文を予定している学生は、3 年次・4 年次と継続して受講することが望ましい。

◆**授業方法** 「第一次世界大戦の勃発とイギリス外交政策」をケーススタディとして、文献目録の作成、研究史の整理、文献の読解などをゼミナール形式の授業で行います。3 年生は同じステップを各自の論文のテーマで行い、4 年生はこうしたステップを各自のテーマでいま一度確認するとともに、二度の報告をとおして論文の章立て、実証方法、脚注の書き方などを学びます。

◆**準備学習** 3 年生は卒業論文のテーマになるような出来事・人物などを考えておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 授業概要説明	11 回目 概説の報告①	21 回目 研究史の整理①
2 回目 歴史学の論文について	12 回目 同②	22 回目 同②
3 回目 参考文献目録の作成①	13 回目 同③	23 回目 同③
4 回目 同②	14 回目 3 年生の卒論テーマ①	24 回目 同④
5 回目 同③	15 回目 同②	25 回目 論文を読む①
6 回目 同④	16 回目 参考文献目録の提出	26 回目 同②
7 回目 4 年生の卒論中間報告①	17 回目 3 年生の卒論テーマ決定①	27 回目 同③
8 回目 同②	18 回目 同②	28 回目 同④
9 回目 概説書を読む①	19 回目 4 年生の卒論最終報告①	29 回目 3 年生／卒論の章立て①
10 回目 同②	20 回目 同②	30 回目 同②／研究史整理の提出

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 当日資料配布 プリントを配付する。

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** レポート 2 回（前・後期）50%、報告内容 50%

◆**E-Mail**：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆日中戦争のなかの民衆

〔東洋史特講Ⅲ〕

水曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：堀井 弘一郎

◆**学習目標** 日中戦争では、国民党、共産党、日本軍・対日協力政権の3政治勢力が、その支配領域の拡大を競った。その際、3者ともどのように民心をつかみ、民衆を動員するかに腐心した。本講座では、そうした中、両国の民衆がどう組織され動員されていったのか、また民衆は時代の変動をどう受けとめて生きてきたのかという視点から、日中戦争史を再構成する。戦後、日中民衆がそれぞれ新しい時代と向きあった状況についても論及する。

◆**授業方法** 以下の各回テーマに沿いながら、受講者の興味・関心も視野に入れて講義形式で行う。毎回レジメやプリント資料などを配付して、理解を深める一助とする。適宜写真・映像等の視覚教材も利用したり、意見交換の場を設けたりする。資料収集の方法、卒業論文等の論文作成方法についても解説する。

◆**準備学習** 「歴史とは現代と過去との対話である」(E.H. カー)。日頃から中国近現代史の書物に親しんだり、日中関係の時事問題に関する新聞・雑誌記事を読んで保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス (主題・方法等)	11 回目 汪精衛政権下の民衆 (2)	21 回目 日本人捕虜の反戦活動 (1)
2 回目 中国近現代史概説	12 回目 山西省の地方政権と民衆 (1)	22 回目 日本人捕虜の反戦活動 (2)
3 回目 日中戦争史概説 (1)	13 回目 山西省の地方政権と民衆 (2)	23 回目 戦争と新聞メディア (1)
4 回目 日中戦争史概説 (2)	14 回目 前半のまとめと意見交換	24 回目 戦争と新聞メディア (2)
5 回目 占領統治と民衆動員 (1)	15 回目 国民党政府下の民衆 (1)	25 回目 日本人の引揚げと留用 (1)
6 回目 占領統治と民衆動員 (2)	16 回目 国民党政府下の民衆 (2)	26 回目 日本人の引揚げと留用 (2)
7 回目 占領統治と民衆動員 (3)	17 回目 共産党根拠地の民衆 (1)	27 回目 日本人の引揚げと留用 (3)
8 回目 東亜聯盟とアジア主義 (1)	18 回目 共産党根拠地の民衆 (2)	28 回目 戦後の日中民衆 (1)
9 回目 東亜聯盟とアジア主義 (2)	19 回目 戦時下日本の民衆 (1)	29 回目 戦後の日中民衆 (2)
10 回目 汪精衛政権下の民衆 (1)	20 回目 戦時下日本の民衆 (2)	30 回目 全体のまとめと意見交換

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** **当日資料配布** レジメおよびプリント資料を当日配布する。

◆**参考書** **Ⅸ**『日中戦争』 小林英夫 講談社現代新書 756 円 (税込) (送料 260 円)

Ⅹ『革命とナショナリズム 1925-1945』 石川禎浩 岩波新書 861 円 (税込) (送料 260 円)

◆**成績評価基準** 平常点 30%、試験 70%。毎回出席することを前提として評価する。

◆**E-Mail** :

◆家計と企業の行動および市場について

〔経済原論〕

水曜日 4 時限

開講単位 4 位

担当者：片平 光昭

◆**学習目標** この講義では、まず経済学の方法論を理解し、家計の行動 (消費者行動) と企業の行動 (生産者行動) を分析し、その家計と企業によって市場での均衡取引量や均衡価格がどのように決まるかについて理解します。この講座では、ミクロ経済理論を中心に分析を進めていきます。

◆**授業方法** まず経済学の方法論を説明し、ミクロ経済分析の基礎知識の把握から始めます。この講義では多くのグラフや簡単な数式が用いられますが、その意味や使い方を簡明に説明します。またこれらの分析がわれわれの日常生活にどのように関連しているかを現実に即して説明していきます。

◆**準備学習** この講義は、経済学の基礎知識を土台にしてミクロ経済分析を行ないます。そのために、この講義を受講する前に「経済学」あるいは「経済学概論」を受講しておく方が望ましいでしょう。またこの講義は、毎回の講義を理解したものとして進められるので、欠席せずに必ず前回の講義内容を把握しておくことが重要です。予習も教科書を単に読むだけでなく、理解しづらい箇所をチェックしておけば講義がより鮮明に把握しやすいでしょう。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 需要の価格弾力性	21 回目 市場の分類について
2 回目 ミクロ経済分析とマクロ経済分析	12 回目 消費者需要への外部効果	22 回目 完全競争市場の成立条件
3 回目 消費と効用理論	13 回目 生産要素と生産関数	23 回目 均衡取引量と均衡価格
4 回目 無差別曲線の性質	14 回目 費用の種類と費用曲線	24 回目 需給均衡の調整過程
5 回目 消費の限界代替率	15 回目 前期のまとめのテスト	25 回目 需要曲線のシフト要因
6 回目 所得の制約について	16 回目 平均費用と限界費用	26 回目 供給曲線のシフト要因
7 回目 所得の変化と消費者需要	17 回目 総収入曲線と市場価格	27 回目 余剰分析と資源の配分
8 回目 需要の所得弾力性	18 回目 総収入と総費用と利潤	28 回目 不完全競争市場の形成要因
9 回目 価格の変化と消費者需要	19 回目 価格変化と利潤最大化	29 回目 寡占市場の価格決定理論
10 回目 代替効果と所得効果	20 回目 短期と長期の供給曲線	30 回目 市場の失敗について

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** **Ⅲ**『経済原論 0711 / 経済学原論 0712』 通信教育教材 (教材コード 000159) 2,350 円 (送料込)

◆**参考書** 必要に応じて講義中に指示します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、中間試験、小テスト、学年末試験により総合的に評価します。

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

日本経済のあゆみと現状の課題

〔日本経済論〕

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：飯島 正義

◆**学習目標** 高度経済成長以降の日本経済のあゆみを確認していくと共に、1990 年代以降今日までの日本経済については経済統計等の分析を中心に理解を深め、今日の日本経済の課題について考えていきます。

◆**授業方法** 講義形式。授業当日にプリントを配布し、それを中心に講義を進めていきます。

◆**準備学習** 授業の時に資料を数回分まとめて配布しますのでそれを事前に読んで下さい。その上で、通信教育部のテキスト等で関係するところを読んで理解を深めておいて下さい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 授業内容等の説明	11 回目 日米貿易摩擦の激化	21 回目 90 年代の日本経済 (1)
2 回目 経済復興期の日本経済	12 回目 金融の自由化	22 回目 90 年代の日本経済 (2)
3 回目 高度経済成長の始まり	13 回目 行財政改革	23 回目 2000 年以降の日本経済 (1)
4 回目 高度成長のメカニズム	14 回目 プラザ合意と円高	24 回目 2000 年以降の日本経済 (2)
5 回目 高度成長と国民生活	15 回目 復習と確認テスト	25 回目 世界金融危機と日本経済
6 回目 ドル・ショック	16 回目 バブル経済の形成	26 回目 金融危機後の日本経済
7 回目 高度成長の終焉	17 回目 バブル経済の崩壊	27 回目 日本経済の課題 (1)
8 回目 スタグフレーション	18 回目 長期不況に対する見方	28 回目 日本経済の課題 (2)
9 回目 産業構造の変化	19 回目 90 年以降の日本経済分析 (1)	29 回目 日本経済の課題 (3)
10 回目 レーガノミクス	20 回目 90 年以降の日本経済分析 (2)	30 回目 総復習

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日プリントを配布します。

◆**参考書** **〔教材〕**『日本経済論 0736』 通信教育教材（教材コード 000466） 2,850 円（送料込）
 〈この教材は市販の『日本経済読本』金森久雄他著（東洋経済新報社）と同一です〉
 それ以外の参考書については授業の中で随時紹介していく予定です。

◆**成績評価基準** 平常点（授業への取り組み、確認プリントの提出等）30%、筆記試験 70%で評価します。

◆**E-Mail：**

グローバル化と世界経済

〔国際経済論〕

木曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：陸 ^{リック} 亦群 ^{ユウグン}

◆**学習目標** 戦後の国際経済の発展過程をたどり、国際経済学に関する基礎理論としての比較優位の理論や国際貿易に関する基礎的な理論、ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について解説し、グローバル経済の進展および国際経済問題に関する幅広い知識を提供する。

◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆**準備学習** 国際経済論は応用経済学分野の科目であることから、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を温故し、講義終了後に教材内容に付き合わせてノートを整理し復習すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 オリエンテーション	11 回目 国際貿易の純粋理論による説明①	21 回目 IS-LM-BP 分析
2 回目 世界経済の生成と発展	12 回目 国際貿易の純粋理論による説明②	22 回目 国際マクロ経済政策①
3 回目 戦前戦間期の世界経済	13 回目 関税と経済厚生	23 回目 国際マクロ経済政策②
4 回目 戦後の世界経済の発展とその特徴	14 回目 輸出入政策と管理貿易	24 回目 外国為替相場の決定理論①
5 回目 戦後の経済体質と経済構造の変質	15 回目 自由貿易と保護貿易	25 回目 外国為替相場の決定理論②
6 回目 1990 年代以降の世界経済の変貌	16 回目 国際収支統計	26 回目 為替相場の変動と市場介入
7 回目 伝統的貿易理論	17 回目 外国為替市場	27 回目 円高と日本経済
8 回目 新古典派の貿易理論①	18 回目 対外収支と貯蓄投資バランス	28 回目 外国為替制度の選択と国際通貨制度
9 回目 新古典派の貿易理論②	19 回目 外国貿易乗数と弾力性アプローチ	29 回目 市場化とグローバル化
10 回目 近代的貿易理論	20 回目 マクロ経済分析の基礎	30 回目 講義のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔教材〕**『国際経済論 0737』 通信教育教材（教材コード 000281） 1,950 円（送料込）

◆**参考書** 講義内容に応じて随時紹介する。

◆**成績評価基準** 筆記試験。国際経済学の基礎知識を身に付けているかを判定する。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

金融の基礎を学ぶ

〔金融論〕

火曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：谷川 孝美

◆**学習目標** 我々は日々の生活で現金やクレジットカードなどをもちいています。また、預金、振込などで銀行など金融機関を利用しています。この講義では、貨幣とは何か、どのように定義されているのかといった基本的な事柄や、銀行などの金融機関や金融市場を含めた金融システム、中央銀行による金融政策などについて、その基礎理論と共に理解することを目的とします。

◆**授業方法** 授業計画にしたがって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。なお、講義の進捗状況によっては授業計画が前後することもあります。

◆**準備学習** 金融理論の理解には、マクロ経済学の基礎が重要になります。学習の準備として確認をしておくとういでしょう。また、理解を深めるためにも、授業計画にあるトピックスについて、参考書などで予習をしておくとういでしょう。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 資金循環	21 回目 日本銀行の機能と業務－銀行の銀行
2 回目 貨幣とは何か？－歴史	12 回目 日本の金融システム－競争制限的規制	22 回目 日本銀行の機能と業務－政府の銀行
3 回目 貨幣とは何か？－定義	13 回目 日本の金融システム－金融の自由化	23 回目 伝統的金融政策
4 回目 金利の種類	14 回目 日本の金融システム－日本版ビッグバン	24 回目 現在の金融政策と金融調節
5 回目 実質金利と名目金利	15 回目 前期の確認とまとめ	25 回目 ゼロ金利政策と量的緩和政策
6 回目 金利と期間構造	16 回目 金融市場	26 回目 ブルーデンス政策
7 回目 債券価格と金利	17 回目 直接金融、間接金融、市場型間接金融	27 回目 金融政策の経済モデル－貨幣数量説
8 回目 現在割引価値	18 回目 銀行の役割と機能	28 回目 金融政策の経済モデル－IS-LM 分析
9 回目 金利の決定要因	19 回目 中央銀行の役割	29 回目 テーラー・ルール
10 回目 信用リスクとリスクプレミアム	20 回目 日本銀行の機能と業務－発券銀行	30 回目 後期の確認とまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 当日プリント配布。

◆**参考書** 〔丸沼〕『現代の金融入門【新版】』池尾和人 筑摩書房 819 円（税込）（送料 260 円）
〔丸沼〕『はじめて学ぶ金融のしくみ』家森信善 中央経済社 価格未定 改訂中 4 月上旬予定
 その他、授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、小テスト、レポート、最終試験等により総合的に評価します。

◆**E-Mail：**

◆現代資本制社会の雇用・労働・賃金問題

〔労働経済論〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：今井 拓

◆**学習目標** 雇用・労働・賃金をめぐる問題は、時代と共に大きく変化を遂げています。問題を理解するためには、資本制経済における生産過程と労働市場の特徴と共に、財政金融政策や社会保障制度の機能、及びそれらの生産過程と労働市場への作用を考慮する必要があります。労働経済論では、雇用・労働・賃金をめぐる問題の多様な側面を理解し、その構造を捉えることを目指します。それにより、今日の日本社会の直面している課題と展望を明らかにしていきます。

◆**授業方法** 1 回の授業毎に、1 時間 20 分講義を行い、最後の 10 分間で受講生はリアクションペーパーを記述し、提出します。次回の授業の冒頭にリアクションペーパーへの応答を行ってから、その回の授業の内容に入ります。リアクションペーパーの内容は、授業を聴いて大事だと思ったポイント、それに対する皆さんからのコメント、質問や疑問、意見です。前回の質問に答えてからその回の内容に入ることにより、講義に対する理解がかなりすすみますので、しっかり記述するようにお願いします。

◆**準備学習** 取り扱う雇用・労働・賃金をめぐる問題状況について、笹島（2009）や石畑・牧野（2009）などを参照しておいてください。講義レジュメに、次週の内容に関連する箇所を指示します。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 現代資本制の労働問題	11 回目 有効需要不足と失業	21 回目 年功賃金について
2 回目 商品生産と労働問題	12 回目 インフレーションと失業	22 回目 サービス化と労働問題
3 回目 剰余価値生産のしくみ	13 回目 デフレーションと失業	23 回目 サービス商品の特徴
4 回目 剰余価値生産と労働時間	14 回目 構造改革と失業	24 回目 サービス資本と労働
5 回目 剰余価値生産と賃金低下	15 回目 論述課題	25 回目 知識労働
6 回目 剰余価値生産と失業問題	16 回目 賃金とは何か	26 回目 福祉国家と労働問題
7 回目 景気循環と失業問題	17 回目 所得としての賃金	27 回目 労働力の脱商品化
8 回目 利潤率の低下と失業問題	18 回目 価格としての賃金	28 回目 社会サービス労働の特質
9 回目 主な経済学派の労働観	19 回目 社会的実践としての賃金	29 回目 社会サービス労働の変質
10 回目 労働需要と労働供給	20 回目 フェミニスト派への応答	30 回目 展望：社会ファンド拡充

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **当日資料配布** 毎回、レジュメと資料を配布します。配布したレジュメと資料は、毎回持参し、授業時に参照できるようにしておいてください。

◆**参考書** **教材**『労働経済論 0763』 通信教育教材（教材コード 000468） 3,400 円（送料込）
 くこの教材は市販の『労働の経済学』 笹島芳雄（中央経済社）と同一です）
丸沼『よくわかる社会政策』 石畑良太郎・牧野富夫 ミネルヴァ書房（2009） 2,730 円（税込）
 （送料 390 円）
丸沼『マクロ経済学：ケインジアン、マネタリスト、マルクス派の見解』 シャーマン・エバンス（1989）
 新評論 3,465 円（税込）（送料 390 円）
 Figart, Mutari, and Power (2002) Living Wages, Equal Wages, Routledge

◆**成績評価基準** リアクションペーパー、論述課題、学年末試験の総合

◆**E-Mail：**

知的活動の道具としてのコンピュータ

〔情報概論 A〕

木曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：中村 典裕

◆**学習目標** この講義では、単にマニュアル通りにコンピュータが操作出来るだけの人間を育成しようとは考えていない。コンピュータを知的活動の道具として使いこなせなければならない。特にオフィスソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）が十分に活用できるだけの技術を習得する事を目標としている。

◆**授業方法** 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆**準備学習** 情報化社会と言われる現在、コンピュータやインターネットは非常に身近なものになっている。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの報道に関心を持つと同時に、身近な情報機器の操作方法を改めて確認するなどの態度が望まれる。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス・ウェブ	11 回目 段組・文章レイアウト	21 回目 IF 関数・表参照関数
2 回目 入力・タイピング	12 回目 索引、脚注、目次	22 回目 フィルタ・データベース
3 回目 ワード基礎	13 回目 パワーポイント入門	23 回目 ビットテーブル
4 回目 コピー & ペースト	14 回目 パワーポイント活用	24 回目 グループ化・串刺し集計
5 回目 ワードアート・書式	15 回目 パワーポイント演習	25 回目 マクロとは何か
6 回目 ビデオ鑑賞	16 回目 表計算入門	26 回目 VB 入門
7 回目 表の作成	17 回目 合計と平均・四則演算	27 回目 HTML の基礎
8 回目 社内文書	18 回目 グラフの活用	28 回目 ICT と社会
9 回目 社外文書	19 回目 書式、条件付き書式	29 回目 総合演習
10 回目 図形の作成	20 回目 関数入門	30 回目 最終課題

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 プリントと講義専用ウェブサイト上で資料を提供する。
ウェブサイトのアドレスは授業中に指示する。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点（30%）、平常課題（30%）、最終課題レポート（40%）。毎回出席する事を前提として評価する。

◆**E-Mail：**

知的活動のための情報リテラシー

〔情報概論 B〕

金曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：一島 力男

◆**学習目標** まず、Windows の基本操作とネットワーク上でのパソコン利用について学ぶ。その上で、WWW による情報収集、情報セキュリティと情報倫理、ワードによる情報の編集、エクセルによる情報の分析、HTML・CSS を利用した Web ページの作成について学ぶ。

◆**授業方法** 本講座では講義と演習の両方を行う。講義ではコンピュータネットワークの仕組と歴史、情報セキュリティと情報倫理などについて学ぶ。演習では、コンピュータを知的道具として利用できるようなることを目的として様々な課題に取り組む。

※授業は、Windows-Vista、Office2007 の環境で実施する。

◆**準備学習** 教科書の Appendix 3 に書かれている内容を予習しておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 ワード (3)	21 回目 エクセル (6)
2 回目 コンピュータネットワークの仕組と歴史	12 回目 ワード (4)	22 回目 授業内テスト 2 (エクセル)
3 回目 Windows の基本操作とネットワーク利用	13 回目 ワード (5)	23 回目 HTML (1)
4 回目 情報の収集 (WWW とサーチエンジンの利用)	14 回目 ワード (6)	24 回目 HTML (2)
5 回目 情報の共有 (Web メール利用)	15 回目 授業内テスト 1 (ワード)	25 回目 HTML (3)
6 回目 情報セキュリティと情報倫理	16 回目 エクセル (1)	26 回目 HTML (4)
7 回目 コンピュータで利用する単位とファイル形式	17 回目 エクセル (2)	27 回目 CSS (1)
8 回目 ペイントの利用と画像処理	18 回目 エクセル (3)	28 回目 CSS (2)
9 回目 ワード (1)	19 回目 エクセル (4)	29 回目 CSS (3)
10 回目 ワード (2)	20 回目 エクセル (5)	30 回目 授業内テスト 3 (HTML・CSS)

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔丸〕『これからの情報リテラシー』 小林貴之・谷口郁生・毒島雄二著 共立出版 2,520 円（税込）
（送料 390 円） ISBN978-4-320-12227-7

※同じ出版社で他著者による同書名の本がありますので間違わないようにお願いします。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（10%）、実習課題（30%）、提出課題（30%）、授業内テスト（30%）により総合評価する。

※授業に毎回出席することを前提に評価する。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

商品知識と製品戦略について学ぶ

〔商品学〕

金曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：鄭

チョン
舜玉

◆**学習目標** 「商品の洪水」の現代において、我々は毎日数多くの商品を選択し使用している。今日の商品は従来のように物理的特性を提供するだけではなく、イメージや感動も提供するようになっている。本講義では、このように我々の生活に密着した商品について、基礎的な知識から新製品戦略までを学習する。

◆**授業方法** 講義形式で、配布プリントとパワーポイントにて行う。質疑応答は毎回予定しており、積極的な発言を期待する。また、毎回授業の終わりに簡単な感想、質問、意見を書いてもらい、次回にコメントする。

◆**準備学習** 予習は求めないが、前回の講義内容は必ず復習しておくこと。また日頃から日経新聞を読むようにすること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	11 回目 商品の標準化	21 回目 PB 商品
2 回目 商品の概念および適性	12 回目 ネットワーク外部性	22 回目 製品ライフサイクル
3 回目 商品の構成要素	13 回目 イノベーション	23 回目 市場環境分析
4 回目 商品の分類	14 回目 前期のまとめと試験対策	24 回目 消費者の意志決定プロセス
5 回目 商品の品質	15 回目 前期試験	25 回目 マーケティングの概念
6 回目 商品の表示	16 回目 商品のパッケージ	26 回目 製品戦略
7 回目 商品の検査	17 回目 商品のデザイン	27 回目 価格戦略
8 回目 商品の評価	18 回目 商品と環境	28 回目 流通戦略
9 回目 商品の安全性	19 回目 商品と社会	29 回目 プロモーション戦略
10 回目 トレーサビリティ	20 回目 消費者の権利・責任	30 回目 後期のまとめと試験対策

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日プリント配布。

◆**参考書** 〔丸沼〕『商品学と商品戦略』（KGU 叢書）石持悦史著 白桃書房 3,570 円（税込）（送料 390 円）
また、必要に応じて授業中に紹介する。

◆**成績評価基準** 授業への参加・貢献（平常点）20%、筆記試験 80%（前期試験＋後期試験）

◆**E-Mail**：

現代マーケティングの体系

〔マーケティング〕

火曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：佐藤

稔

◆**学習目標** マーケティングの生成から現代に至るまでの歴史的変遷、発展過程を通して現代マーケティングの体系について理解する。

◆**授業方法** 講義形式。

◆**準備学習** 特に必要としない。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 マーケティングの生成	11 回目 副次的製品計画の内容	21 回目 プロモーションの体系（2）
2 回目 マーケティング概念	12 回目 価格政策の意義	22 回目 広告の役割
3 回目 マーケティングの研究手法	13 回目 価格決定の処方式（1）	23 回目 広告の種類
4 回目 マーケティング戦略の意義	14 回目 価格決定の処方式（2）	24 回目 販売員の役割・管理
5 回目 マーケティング戦略の形態	15 回目 価格政策と独占禁止法	25 回目 販売促進政策の体系
6 回目 マーケティングの諸領域	16 回目 販売経路の意義	26 回目 対象に販売促進政策の特性
7 回目 マーケティングを取り巻く環境	17 回目 販売経路の諸形態	27 回目 ディスプレイの意義
8 回目 マーケティング情報収集の意義	18 回目 販売経路政策の類型と管理	28 回目 ディスプレイの技法
9 回目 マーケティング情報収集の技法	19 回目 店舗づくり	29 回目 物流政策の意義と役割
10 回目 マーケティングの中核としての製品計画の内容	20 回目 プロモーションの体系（1）	30 回目 物流革新政策

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔通材〕『マーケティング 0823』通信教育教材（教材コード 000182）2,200 円（送料込）

◆**参考書** 講義の中で指示。

◆**成績評価基準** 授業への参加、レポート提出及び最終試験など総合的に評価

◆**E-Mail**：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

■広告のマーケティングコミュニケーション論 (広告論)

金曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：樋口 紀男

◆**学習目標** <失われた 20 年>の停滞の中で、東日本大震災以降の中で、また一方ではインターネットやグローバル化の進展の中で、社会の人々の価値観が大きく揺らぎ市場が大きく変わってきている。今、マーケティングや広告には、新しい考え方が求められている。本講では、広告・マーケティングの新しい考え方を目指して、広告マーケティングの価値創造を中心に進める。

◆**授業方法** 前半は伝統的なマーケティング論、広告論を中心に、諸論理、諸概念を批判的に読み解き、今問われているものが何かを明らかにしていく。後半は、前半を基本にしてマーケティング・コミュニケーションの新しい方向を探っていく。

◆**準備学習** 講義内容が多岐にわたりますので事典・辞書で調べることを心掛けること。マーケティング論や社会学関係の科目を履修し、そこの知識を使うようにすると理解が進みます。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回目	ガイダンスと授業の全体概要	11 回目	広告効果について	21 回目	インターネット広告 (1)
2 回目	広告とは何か	12 回目	広告業界と広告ビジネス	22 回目	インターネット広告 (2)
3 回目	広告の機能	13 回目	広告規制	23 回目	インターネット広告 (3)
4 回目	広告と社会	14 回目	マーケティング・コミュニケーション	24 回目	マーケティング・コミュニケーションと価値
5 回目	経営戦略・マーケティング戦略	15 回目	統合型マーケティング・コミュニケーション	25 回目	市場価値のデザイン
6 回目	メディア・情報・メッセージ	16 回目	ブランド・コミュニケーション (1)	26 回目	現代消費の性格
7 回目	広告とメディア	17 回目	ブランド・コミュニケーション (2)	27 回目	消費の概念
8 回目	表現戦略 (2 回)	18 回目	グローバル・コミュニケーション (1)	28 回目	新しい方向 (1)
9 回目	表現手法のタイプ	19 回目	グローバル・コミュニケーション (2)	29 回目	新しい方向 (2)
10 回目	媒体戦略	20 回目	グローバル・コミュニケーション (3)	30 回目	全体の総括

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** 丸沼『広告コミュニケーション論』樋口紀男著 桜門書房 改訂中 価格未定 3 月下旬予定

◆**参考書** 丸沼『わかりやすい広告論』石崎徹編著 八千代出版 2,835 円 (税込) (送料 390 円)

◆**成績評価基準** 平常点 (30%) と 2 回のテスト (前半 14 回終了時と後半終了時)

◆**E-Mail** :

■現代商業の政策諸問題 (商業政策)

火曜日 3 時限

開講単位 4 単位

担当者：佐藤 稔

◆**学習目標** 現代商業の政策的諸問題について理解する。

◆**授業方法** 配布資料に基づく講義形式。

◆**準備学習** なし。

◆授業計画 (各 90 分)

1 回目	商業政策の意義	11 回目	商店街の現状と活性化策	21 回目	消費者基本計画の構成
2 回目	商業政策の学問的地位	12 回目	競争の意義	22 回目	消費者取引をめぐる問題、消費者契約
3 回目	流通政策登場と体系	13 回目	競争政策、独占禁止政策の沿革	23 回目	消費者取引の適正化
4 回目	流通政策の目的	14 回目	競争政策の体系 (1)	24 回目	消費者取引の実態 (1)
5 回目	流通政策の体系	15 回目	競争政策の体系 (2)	25 回目	消費者取引の実態 (2)
6 回目	流通政策のあり方の評価基準	16 回目	消費者の意義と消費者問題の生成	26 回目	特定商取引法制定の経過
7 回目	流通を取り巻く環境変化 (1)	17 回目	消費者問題の発生	27 回目	特定商取引法の意義
8 回目	流通を取り巻く環境変化 (2)	18 回目	消費者保護政策の変遷	28 回目	特定商取引法の体系
9 回目	現代中小商業政策の体系	19 回目	消費者基本法制定の意義	29 回目	消費者取引の適正化策 (1)
10 回目	中小小売商業の振興策の商店	20 回目	消費者基本法の概要	30 回目	消費者取引の適正化策 (2)

※別途、試験を実施する週 (平成 26 年 1 月 21 日～24 日) を設けています。

◆**教科書** [当日資料配布] 必要な資料は配付する。

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 授業への参加、レポートの提出及び最終試験など総合的に評価。

◆**E-Mail** :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆経営管理の本質を理論と事例で学ぶ

〔経営管理論〕

火曜日 1 時限

開講単位 4 単位

担当者：山田 敏之

◆**学習目標** 本講義では、現代企業の直面する諸問題を明らかにしつつ、そこで求められている経営管理の基礎的な概念、考え方、手法について理解を深めることを目標とします。前期は現代の経営管理が直面する課題、経営管理思想の歴史的変遷をたどりつつ、経営管理の個別領域として組織化と計画化（経営戦略）の問題を扱います。後期は組織の中の個人に焦点を当て、モチベーション、リーダーシップ、集団のマネジメントといった問題を扱います。

◆**授業方法** 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な経営管理のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配布資料、パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお、講義の終了前に経営管理に関する時事的な問題あるいはその日の講義の内容に関する小テストを毎回実施します。

◆**準備学習** 毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営管理の諸概念について、分からない言葉や用語等があれば事前に経営学辞典あるいは参考書等を用いて調べてください。経営管理はきわめて現実性の高い学問領域ですので、日本経済新聞、日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス、東洋経済、エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 イントロダクション	11 回目 経営戦略の基礎概念	21 回目 リーダーシップの基礎的な概念と資質理論
2 回目 経営管理の定義と諸機能	12 回目 経営戦略の誕生と伝統的な戦略形成	22 回目 リーダーシップの行動理論Ⅰ
3 回目 経営管理の歴史Ⅰ（テイラーの考え方）	13 回目 アンソフの戦略論とシナジー概念	23 回目 リーダーシップの行動理論Ⅱ
4 回目 経営管理の歴史Ⅱ（ホーソン実験）	14 回目 経験曲線と製品ライフサイクル	24 回目 リーダーシップのコンティンジェンシー理論
5 回目 現代企業が直面する課題Ⅰ	15 回目 PPM と資源配分	25 回目 新しいリーダーシップ理論
6 回目 現代企業が直面する課題Ⅱ	16 回目 モチベーションの定義と理論の概要	26 回目 経営トップの役割
7 回目 組織の定義と伝統的な組織原則	17 回目 モチベーションのコンテンツ理論	27 回目 集団の基本概念
8 回目 組織構造Ⅰ（職能別組織と事業部制組織）	18 回目 モチベーションのプロセス理論Ⅰ（目標管理）	28 回目 集団のダイナミクス
9 回目 組織構造Ⅱ（マトリックス組織）	19 回目 モチベーションのプロセス理論Ⅱ（期待理論）	29 回目 チームの本質と種類
10 回目 組織構造Ⅲ（カンパニー制と持株会社）	20 回目 内発的モチベーション理論	30 回目 チーム・マネジメント

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『人と組織を活かす経営管理論』青木幹喜編著 八千代出版 3,940 円（税込）（送料 390 円）

◆**参考書** 丸沼『経営学イノベーションⅠ 経営学入門』十川廣國 中央経済社 改訂中 価格未定 4 月中旬予定
丸沼『マネジメントの世紀 1901 → 2000』クレイナー S. 著 嶋口充輝監訳 岸本義之・黒岩健一郎訳 東洋経済新報社 2,625 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 平常点（毎回の小テスト）（20%）、最終試験（80%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆**E-Mail：**

【簿記の基本構造を学ぶ】

【簿記論Ⅰ】

水曜日 5 時限

開講単位 4 単位

担当者：林^{リン} 徳順^{トクジュン}

◆**学習目標** 簿記は、企業の経済活動等を貨幣額等にとらえ、その企業もっている財産の変動内容と結果をわかるように、記録、計算する技術である。簿記は貸借対照表及び損益計算書を作成する前提でもあるため、簿記の基本構造及びその仕組みを理解することは重要である。本講義は、初心者を対象とし、①簿記の基本構造及びその仕組みを理解し、②簿記検定 3 級レベル及び一部の内容については簿記検定 2 級レベルに到達することを目標としている。

◆**授業方法** 講義形式で授業計画に沿って授業を進める。授業中、講義した内容に関する練習問題を解いて頂くので、毎回電卓を持参する必要がある。一回でも授業に出席しない場合、理解できなくなるため、毎回必ず出席し、積極的授業に取り組むことを望む。

◆**準備学習** 各自に適した簿記に係る書物を読むことは、簿記の理論構造及びその仕組みを理解するのに有益である。「簿記論」、「現代簿記」、「簿記講義」など多くの書物のなかで、各自に適した書物を選んで読むことは、本講義での学習効果を更に向上させることができる。

◆授業計画【各 90 分】

1 回目 ガイダンスと簿記の意義	11 回目 商品売買取引	21 回目 資本金と引当金
2 回目 簿記の目的及び種類	12 回目 売上原価と払出単価	22 回目 決算整理 1（収益と費用の見越し）
3 回目 簿記の基礎概念	13 回目 仕入及び売上げの割引・割戻	23 回目 決算整理 2（収益と費用の繰延べ）
4 回目 簿記の取引の種類等	14 回目 売掛金と買掛金	24 回目 決算整理 3（税金等）
5 回目 勘定と仕訳	15 回目 貸付金、借入金等	25 回目 帳簿と伝票
6 回目 帳簿の種類	16 回目 立替金、預り金、仮払金等	26 回目 決算と棚卸表等の作成
7 回目 決算の意味と手続き等	17 回目 手形の意義と会計処理	27 回目 決算整理事項
8 回目 元帳の締切り等	18 回目 有価証券の意義と会計処理	28 回目 決算振替手続き等
9 回目 決算手続きと精算表	19 回目 固定資産の取得及び売却	29 回目 財務諸表の作成
10 回目 現金預金取引	20 回目 固定資産の減価償却	30 回目 まとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 丸沼『新検定簿記講義 3 級商業簿記（平成 25 年度版）』渡部裕巨ほか編著 中央経済社 735 円（税込）（送料 340 円）

丸沼『新検定簿記ワークブック 3 級商業簿記（平成 25 年度版）』渡部裕巨ほか編著 中央経済社 735 円（税込）（送料 340 円）

※ 2 冊まとめて購入の場合は送料 390 円

〔当日資料配布〕講義内容に応じて、当日にプリントを配布する場合がある。

◆**参考書** 使用しない。

◆**成績評価基準** 平常点 40%（前期の授業中小テスト 2 回、後期の授業中小テスト 2 回）、期末試験 60 点。
毎回出席することを前提として評価する。

◆**E-Mail：**

【歴史の（特に日本史）の中で商業を考えてみる】

【商業史】

水曜日 4 時限

開講単位 4 単位

担当者：横山 則孝

◆**学習目標** 商業学および商学に関連する学問を学ぶにあたってひととおり商業の歴史にも通じておくことは必要である。そこで商業の歴史的展開についての概要の理解を深める。

◆**授業方法** 講義形式が中心であるが、近世の商業のところでは「史料」の読みもおこなうので、その際には各自に読んでもらうことも考えている。

◆**準備学習** 高等学校の教科書「日本史」の中に登場する商業関連の用語をひろっておいてほしい。また教材テキストを読んでおくことも必要だろう。

◆授業計画【各 90 分】

1 回目 商業史とは	11 回目 近世の貨幣制度	21 回目 石門心学
2 回目 人間社会における商業の発生	12 回目 問屋制の成立	22 回目 近世中後期の商業
3 回目 古代・中世における商業（西洋）	13 回目 近世初期の豪商	23 回目 専売制の展開
4 回目 日本古代における商業	14 回目 町人勢力の交替	24 回目 近世の奉行人制度
5 回目 律令国家と商業	15 回目 三井高利	25 回目 近江商人
6 回目 東市と西市	16 回目 三井家の家訓	26 回目 近代商業の社会経済環境
7 回目 中世の商業	17 回目 三井家の歴史	27 回目 財閥
8 回目 幕藩制社会の成立	18 回目 鴻池家	28 回目 店員制度
9 回目 近世封建社会と商業	19 回目 住友家	29 回目 近代商業知識の普及
10 回目 近世における交通の発達	20 回目 近世前期の商業政策	30 回目 全体のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** 通材『商業史 0898』通信教育教材（教材コード 000197）1,700 円（送料込）

〈この教材は市販の『日本商業史』藤田貞一郎他著（有斐閣）と同一です〉

◆**参考書** 『体系日本史叢書 13 流通史Ⅰ』豊田武、児玉幸多編 山川出版社
〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉

◆**成績評価基準** 小テスト（20%）、授業への参加（20%）、最終試験（60%）により総合的に評価する。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

□教師としての考え方

〔現代教職論〕

金曜日 1 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位

担当者：古賀 徹

◆**学習目標** 教職の意義、教員の資質、及び教員の役割、教員の職務内容（服務）、等に関する理解を深めることをねらいとする。自らの教職者としての適性を問いなおし、教員に必要なものとは何かを考え深めることとする。現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考察していく。

◆**授業方法** 講義形式を中心とするが、グループワーク等の演習方式もとられる。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバックにより、さらに学習効果があがるよう試みる。

◆**準備学習** この授業は、教員養成の段階で学んでおくべき事項や学校現場で直面する課題を「題材（教材）」としてとりあげ学んでいくことで、諸々の問題に対して「教員としてどのように考えるのか」という意識・心得をつくりあげられるようにするのがねらいです。授業以外にも、様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心を持ち、のぞんでください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 教職を履修する意味	11 回目 諸外国の教師養成のしくみ
2 回目 学習指導・生活指導	12 回目 学習指導とは何か？
3 回目 教師の他者理解能力	13 回目 教師観・教員養成の歴史の変遷（近代以降）
4 回目 教師の一日・教師の成長	14 回目 教員の研修（向上するための現職教育）
5 回目 理想の教師とは？（グループワーク）	15 回目 現場で求められる力とは？
6 回目 仮想・教職員会議（ロールプレイ）	試験
7 回目 最近の子ども事情（非行）	
8 回目 最近の子ども事情（いじめ）	
9 回目 最近の子ども事情（不登校）	
10 回目 学級運営・教師の対応	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆**E-Mail：**

□教育の Identity 形成過程を学ぶ

〔教育原論／教育の思想〕

金曜日 2 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位

担当者：古賀 徹

◆**学習目標** 「教育」とは何か？ 人間が社会の中で生きていく上で、なぜ教育が必要なのか？ 現在のように公教育が当たり前を実現されるようになってくるのには紆余曲折（歴史的な変遷）がありました。その実現のための強い光となったのが本講義で学ぶ様々な「教育思想」です。教育の思想について学ぶということは、いわば「教育」の Identity 形成の過程を学ぶということでもあります。

◆**授業方法** 講義形式と「教育の思想」としてあらわされてきた様々な授業形式（グループワーク等）をとられる。前半は、テキストに記された思想家（人物）に関する講義を（教員が）行ないます。後半からは各自で担当箇所を決め、人物の思想上の特色について報告・質疑をすることで、互いに学びあえる授業としていきます。

◆**準備学習** テキストに記載されている「教育の思想」を著した人物たちは、「教育」のみではなく、様々な「社会」的な思想に関する論述があります。その当時の「時代の精神」を理解することも重要です。テキストをよく読むこととあわせて、西洋の近代史（近代以降の歴史）に関する本を読むと、さらに理解が増すと思います。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 教育の歴史・思想とは？	11 回目 現代の思想（アリエス）
2 回目 世界の教育思想の歴史の変遷	12 回目 脱学校論（イリイチ）
3 回目 一斉教授の方式・起源（コメニウス）	13 回目 新しい教育の思想
4 回目 子どもの発見（ロック、ルソー）	14 回目 日本の教育思想の歴史の変遷
5 回目 人間教育の実践－直観教授（ペスタロッチ）	15 回目 まとめ（「教育」を教養として考える）
6 回目 科学的教育学（ヘルバルト）	試験
7 回目 幼児教育の思想（フレーベル）	
8 回目 児童中心主義・経験主義（デューイ）	
9 回目 公教育の実現（コンドルセ、オーエン、マン）	
10 回目 関係論、自由教育（ブーバー、アリエス）	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔教材〕**「教育原論 0901／教育の思想 0904」通信教育教材（教材コード 000199） 1,200 円（送料込）

◆**参考書** 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

□授業デザイン力をつけよう

〔教育の方法・技術論〕

金曜日 2 時限〔後期のみ〕

開講単位 2 単位

担当者：古賀 徹

◆**学習目標** この授業は、「教員としての授業実践力」を修得することを目的としています。そのために次のような順序で学びます。①「授業が成り立つ条件」を理解する。②様々な授業形態を歴史的に、あるいは諸外国と比較することでより深く理解する。③カリキュラム構成方法を修得することで、学習指導計画を組み立てられるようにする。④実際に作業することで教育方法のコツを修得する。①～④によって、授業づくりと実践力をつけ（増し）ていきましょう。

◆**授業方法** 講義形式、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどを取り入れる。

◆**準備学習** 方法論の理論やその種類・系統を理解するだけでなく、さらにその理解したことを実際に活用すること、生徒の理解を前提とする授業を構成することができるようになることが大事です。

他の各教科の指導法（教科教育法）の授業やテキストの記述からも（実施する）「授業」に関するイメージを具体的にあらわせるように学んでおくことをおすすめします。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 「教える」ことと「学ぶ」こと	11 回目 カリキュラム構成の方法
2 回目 教育方法学の歴史（西洋教育方法史）	12 回目 カリキュラムづくりの実習
3 回目 教育方法学の歴史（日本の教育内容の変遷）	13 回目 学習指導案の種類とその構成
4 回目 「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論）	14 回目 教育評価の方法（ルーブリック）
5 回目 授業形態の多様化（バズ学習、T.T 等）	15 回目 「教える」ーデザイン力の
6 回目 教材と教具	試験
7 回目 問題解決学習と系統学習	
8 回目 「はなす」ことと「きく」こと	
9 回目 ロールプレイの方法論	
10 回目 情報機器の活用・メディア教材構成の方法	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。〔当日資料配布〕 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆**E-Mail：**

□社会科授業の内容と方法（世界史授業のつくりかた）〔社会科・地理歴史科教育法Ⅰ〕

木曜日 5 時限〔前期のみ〕

開講単位 2 単位

担当者：古賀 徹

◆**学習目標** 社会科を構成する 3 分野（地理・歴史・公民）のうち、地理歴史科授業の目的・内容についての理解を深め、その実践的な授業方法を身につけられるようにする。今期の授業では歴史的分野（主に世界史）を主にとりあげるが、地理・政治経済・思想宗教など各分野間との総合的理解を高めることを意識しておきたい。

◆**授業方法** 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自 1 回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆**準備学習** 中学校（社会科）・高等学校の地理・歴史科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておく、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 社会科・地歴科教育のねらい	11 回目 中世ヨーロッパで授業をつくる
2 回目 学習指導要領の理解、内容の取り扱い	12 回目 グループでの教材研究、ポスターづくり
3 回目 「世界史」を学ぶ意味	13 回目 「世界史」「地理」授業の特色
4 回目 資料活用能力を育む	14 回目 教材解釈の能力とは？
5 回目 学習指導案の作成方法	15 回目 授業の評価・講評
6 回目 実際の教材づくり	試験
7 回目 ワークシートを使った授業づくり	
8 回目 指導案の検討	
9 回目 模擬授業（古代①）	
10 回目 模擬授業（古代②）	

※別途、試験を実施する週（前期：平成 25 年 7 月 23 日～7 月 26 日 後期：平成 26 年 1 月 21 日～1 月 24 日）を設けています。

◆**教科書** 〔当日資料配布〕 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。〔当日資料配布〕 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

◆**E-Mail：**

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」及び「氏名」を記入。例：「日本大学通信教育部 24131999 日大通子」

◆近代経済学入門

〔経済学概論〕

木曜日 2 時限

開講単位 4 単位

担当者：陸

ユウゲン
亦群

◆**学習目標** この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、ミクロ経済学、マクロ経済学の2つの部分から構築されている。初歩的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆**授業方法** 本講義は原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して具体例や経済動向を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆**準備学習** 講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目オリエンテーション	11 回目企業行動と費用関数②	21 回目乗数と政府部門
2 回目経済学とは何か	12 回目長期費用曲線と長期供給曲線	22 回目資産の特性
3 回目ミクロ経済学の理論と方法	13 回目完全競争市場と効率性①	23 回目貨幣需要と利子率
4 回目市場機構と需要・供給	14 回目完全競争市場と効率性②	24 回目貨幣の供給
5 回目消費者行動と需要曲線①	15 回目市場と政府の役割	25 回目資産市場の均衡と利子率の決定
6 回目消費者行動と需要曲線②	16 回目マクロ経済学とは	26 回目財市場の均衡と I S 曲線
7 回目消費者需要理論の応用と拡張	17 回目マクロ経済分析の基本的枠組み	27 回目貨幣市場の均衡と LM 曲線
8 回目企業行動と生産関数①	18 回目国民経済計算	28 回目 I S / L M 分析と財政金融政策
9 回目企業行動と生産関数②	19 回目経済成長と物価	29 回目財政赤字の経済学
10 回目企業行動と費用関数①	20 回目国民所得の決定	30 回目講義のまとめ

※別途、試験を実施する週（平成 26 年 1 月 21 日～24 日）を設けています。

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日プリント配布。

◆**参考書** **〔丸沼〕**『ミクロ経済学 第 3 版』 西村和雄 岩波書店 2001 年 2,940 円（税込）（送料 390 円）

〔丸沼〕『入門マクロ経済学 第 5 版』 中谷 巖 日本評論社 2007 年 2,940 円（税込）（送料 390 円）

◆**成績評価基準** 筆記試験。基礎理論を身に付けているかを判定する。

◆**E-Mail：**

VII 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。なお、平成24年4月1日より手続き等が変更になりました。

1 学生証裏面学籍シールへの記入

- ① 「学生番号」、「氏名」、「現住所」を黒のボールペンで記入してください。
- ② 「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。

2 購入手続き

- ① 学生証及び「スクーリング受講許可通知書」持参で事務取扱時間内に学生課窓口に来校し、所定の用紙に記入して「在籍確認」印の押印を受けてください。
- ② 通学定期券取扱い駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。

3 学生課窓口で記入する所定用紙について

- ① 通学定期乗車券発行控（全員必要）
- ② 滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
- ③ 通学証明書（都営地下鉄、都電、各路線バス等を利用する場合に必要）

4 対象区間

自宅（又は滞在先）の最寄り駅から以下「通信教育部最寄り駅」までの最短経路を対象とします。

【通信教育部最寄り駅】

鉄道会社	最寄駅
JR 東日本	水道橋駅
都営地下鉄	水道橋駅、神保町駅
東京メトロ	神保町駅、後楽園駅

※ 最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことをいいます。

※ 途中経路や迂回経路は一切認められません。

5 禁止事項

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。

また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用一覧】

① 住所を偽って通学証明書の発行を受けること。	② 他人に譲渡・貸与すること。
③ 記名人以外が使用すること。	④ その他、不正に使用すること。

6 その他注意事項

- ① 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出てください。
- ② 年度内に「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出てください。
- ③ 「在籍確認」印は、年度内に限り有効です。

IX 軽井沢オリエンテーション

担 当	学生課
-----	-----

本学の厚生施設である軽井沢研修所を使用し、1泊2日の合宿形式でオリエンテーションを開催します。このオリエンテーションの目的は、学事・学習指導はもとより2日間のプログラムを通して学生相互の連帯感を高めることにあります。特に新入生の皆さんは、スクーリングはもちろんですが、レポート・科目修得試験など、通信教育独特の学習方法を理解するためにも、仲間同士の交流を深めるためにも、このオリエンテーションに極力参加してください。

1 開催日

平成25年5月18日(土)・19日(日) 1泊2日

2 場所

日本大学軽井沢研修所
長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1052-1
TEL：0267 (42) 2401

3 対象者

- ① 平成25年度新入学生(科目履修生含む)
 - ② 参加を希望する在学中の学生
- ただし、これまでに軽井沢オリエンテーション・ガイダンスへ参加した学生は対象外です。

4 交通等

- ① 通信教育部から貸切バスにより往復します。
ただし、地方の学生など、居住地の事情により、直接、軽井沢研修所に行くことを希望する場合には、現地集合を認めます。
なお、自家用車・二輪車等での参加は認めません。
- ② 必ず全員宿泊していただきます。

5 参加費用

- ① バスで往復の場合
10,000円〔バス料金・傷害保険料・宿泊費(夕食・朝食代を含む)・第1日目の昼食代・懇親会費用等〕
- ② 現地に集合の場合
4,600円〔傷害保険料・宿泊費(夕食・朝食代を含む)・懇親会費用等〕
※交通費は自己負担、第一日目の昼食は含まれません。

6 参加手続

参加希望者は、本誌巻末掲載(又は「Web報」からも入手可能)の「軽井沢オリエンテーション参加申込書」に必要事項を記入し、費用と共に学生課へ申込みをしてください(郵送の場合は現金書留にて会計課へ送付すること。※5月1日(水)必着)。

申込者には後日、実施要項を郵送します。

7 参加学生

100名(見込)※定員に達し次第、締切りとします。

平成25年度軽井沢オリエンテーションスケジュール（概要）

	時間	内 容
第1日目	午前	通信教育部集合・出発（バス）
		軽井沢研修所到着，研修所にて昼食
	午後	開会式
		ネーチャーウォーキング（軽井沢散策）※雨天中止
		夕食・入浴
		ふれあいタイム（教職員及び学生相互の懇親）
		就寝
第2日目	午前	起床・朝食
		職員による学事指導（単位修得方法等）
		各学科専攻教員による談話会
		軽井沢研修所出発（バス）
	午後	軽井沢駅周辺散策（昼食は各自）
		軽井沢出発（バス）
		通信教育部帰着・解散（17：00 頃）

X 胸部 X 線検査

肺結核等の感染症予防を目的として、「胸部 X 線間接撮影」を実施しています。大学では集団感染を防止する義務があるので、必ず受診してください。また、毎年受診が必要です。

1 対象者

昼間・夜間（春期）スクーリング受講生全員。ただし、次に該当する場合は受診を認めません。

- ① 平成 25 年度に教育実習又は介護等の体験を受ける者。
- ② 平成 25 年 1 月以降に胸部 X 線検査を受けていて、検査結果を証明できる物（コピーも可）を提出できる者。該当する場合は 5 月 31 日（金）までに学生課へ提出してください。
- ③ 妊娠等の理由により検査を受けることができない者。該当する場合は、5 月 31 日（金）までに理由書を学生課へ提出してください。

2 受診日及び時間

平成 25 年 5 月 28 日（火）～ 5 月 31 日（金）※ 4 日間

10 時 00 分～ 18 時 30 分（13 時 00 分～ 14 時 00 分を除く）

3 場所及び受診方法

学生ホールに受付を設置します。事前申込は不要。各自都合の良い日・時間に受診してください。

4 受診料

無料（大学負担）

5 受診結果

全員に通知します。なお、受診・健康診断証明書は一切発行しません。

6 その他注意事項

女性は下着の金属類が写ってしまうため、白無地の T シャツ等を用意してください。その他、相談は学生課（03-5275-8921）まで。

XI カリキュラム

教育課程のことを一般的にカリキュラムといいます。

カリキュラムとは、それぞれの学校が教育目標を達成するために編成された教育内容の履修体系のことであり、具体的には授業科目とその履修方法の体系のことをいいます。

本学では平成 25 年 4 月 1 日現在、次の 2 つのカリキュラムがあります。

2 つのカリキュラム

- 1 D カリキュラム
- 2 C カリキュラム

カリキュラムごとに授業科目を開設するため、次のケースのように、カリキュラムの相違によって、一部の科目に履修制限があります。

(例) D カリキュラム配当の授業科目である「英語基礎」は、同カリキュラム以外のカリキュラム適用者は履修できません。

したがって、各自が適用を受けるカリキュラムを正確に把握することが重要です。

いずれのカリキュラムに該当するかは、各自の入学年度や入学年で決定しますが、詳しくは次表で確認してください。

また、本学ではこれまで、カリキュラムの改正を複数回おこなって今日に至ります。

ただし、在学中にカリキュラムが改正されても、入学時に適用されたカリキュラムが変更されることはありません。

【平成 25 年度のカリキュラム適用状況】

正科生は学生証、科目履修生は科目履修生証で確認してください。

ともに番号体系は 8 桁ですが、そのうち 3～5 桁目を次表<カリキュラム適用状況表>に照らし合わせると、各自が適用を受けるカリキュラムが判別します。

学生証又は科目履修生証の 3～5 桁目とは次の太線内のことをいいます。

1	1	1	1	1	1	1	1
---	---	---	---	---	---	---	---

【平成 25 年度のカリキュラム適用状況】

各自の学生（科目履修生）番号は8桁で構成されていますが、そのうち3～5桁目を下表に照らし合わせて各自のカリキュラムを確認してください。

種別	入学年度	学生（科目履修生）番号の 3～5桁目の表示		適用カリキュラム
		4月生	10月生	
正科生	平成 13 年度		** 015 ***	C カリキュラム
	平成 14 年度	** 021 ***	** 025 ***	
			** 026 ***	D カリキュラム
	平成 15 年度	** 031 ***	** 035 ***	
		** 032 ***	** 036 ***	C カリキュラム
			** 037 ***	
	平成 16 年度	** 041 ***	** 045 ***	D カリキュラム
		** 042 ***	** 046 ***	
		** 043 ***	** 047 ***	C カリキュラム
			** 048 ***	
	平成 17 年度	** 051 ***	** 055 ***	D カリキュラム
		** 052 ***	** 056 ***	
		** 053 ***	** 057 ***	C カリキュラム
		** 054 ***	** 058 ***	
	平成 18 年度	** 061 ***	** 065 ***	D カリキュラム
		** 062 ***	** 066 ***	
		** 063 ***	** 067 ***	
		** 064 ***	** 068 ***	
	平成 19 年度	** 071 ***	** 075 ***	
		** 072 ***	** 076 ***	
		** 073 ***	** 077 ***	
		** 074 ***	** 078 ***	
	平成 20 年度	** 081 ***	** 085 ***	
		** 082 ***	** 086 ***	
		** 083 ***	** 087 ***	
		** 084 ***	** 088 ***	
	平成 21 年度	** 091 ***	** 095 ***	
		** 092 ***	** 096 ***	
		** 093 ***	** 097 ***	
		** 094 ***	** 098 ***	
	平成 22 年度	** 101 ***	** 105 ***	
		** 102 ***	** 106 ***	
		** 103 ***	** 107 ***	
		** 104 ***	** 108 ***	
	平成 23 年度	** 111 ***	** 115 ***	
		** 112 ***	** 116 ***	
		** 113 ***	** 117 ***	
		** 114 ***	** 118 ***	
	平成 24 年度	** 121 ***	** 125 ***	
		** 122 ***	** 126 ***	
		** 123 ***	** 127 ***	
		** 124 ***	** 128 ***	
	平成 25 年度	** 131 ***	** 135 ***	
		** 132 ***	** 136 ***	
		** 133 ***	** 137 ***	
		** 134 ***	** 138 ***	
科目履修生	平成 24 年度	** 120 ***	_____	D カリキュラム
	平成 25 年度	** 130 ***	_____	

- ・教材購入用紙（丸沼書店用）
- ・教材購入願（通信教育教材購入用）
- ・軽井沢オリエンテーション参加申込書

「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「追加科目履修届」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。

注意事項①

「証書」と「払渡票」は切り離さないでください。

注意事項②

これらの欄には何も記入しないでください。

「普通為替証書」も同様に、何も記入しないでください。

注意事項④

この欄には何も記入しないでください。

見本 表

定額小為替証書

01234-567890

指定受取人
おなまえ

300円

おとこ

発行日付印

発行日付印

おなまえ

裏面の注意書をごらんください。

定額小為替払渡票

01234-567890

300円

この証書は機械で処理しますので、折り曲げたり、汚したりしないでください。

注意事項③

為替の有効期間は発行日から6か月以内ですが、金融機関への手続き等があるため、有効期間が2週間以上残っているものを送付してください。

見本 裏

ご 注 意

- この証書をお受取人に送られる際は、表面の指定受取人欄にお受取人のおなまえをご記入下さい。なお、お受取人の指定がない証書については、証書の持参人に為替金をお支払いすることとし、これにより生じた損害については、当行及び郵便局株式会社（郵便局株式会社が発行した者を含みます。）は責任を負いません。
- この証書は、他の銀行その他の銀行の定める金融機関以外の者に譲渡することができません。
- 当行または当行と同一の手形交換所に参加している他の銀行その他の金融機関にお受取人のご名義の口座をお持ち等の場合、同口座の預金への入金等を行うことができます。なお、証書の発行の日から一定期間経過後は、このお取扱いができません。
- 為替金をお受け取りになる場合は、表面の所定の欄におとこ・おなまえを記入し、押印またはご署名をしてください。
- 為替金をお受け取りを代理の方に委任される場合は、委任欄に代理の方のおなまえと委任者（お受取人）のおとこ・おなまえを記入し、押印をしてください。
- 代理の方が為替金をお受け取りになるときは、表面の所定の欄に「〇〇〇〇代理人」のように肩書をつけて、代理の方のおとこ・おなまえを記入し、押印をしてください。
- ゆうちょ銀行または郵便局では、為替金をお支払いする際、お受取人ご本人であることを確認させていただくため、運転免許証または健康保険証等の書類のご提示をお願いすることがあります。なお、代理の方が為替金をお受け取りになる場合は、代理の方の書類のご提示をお願いすることや、お受取人と代理の方両方の書類のご提示をお願いすることがあります。
- 発行の日から6か月以内に為替金をお受け取りにならないときは、お申出により証書を再交付いたします。なお、発行の日から5年間そのままでしておきますが、証書の再交付を請求する権利及び為替金を受け取る権利がなくなります。

委任欄

（代理人）おなまえ

上記の者を代理人としてこの証書の金額を受け取ることを委任します。

（委任者）おとこ

おなまえ

注意事項⑤

右「受領書」は送付せず、各自で保管してください。郵便事故等で「郵便小為替」が行方不明になった場合、この「受領書」が必要になりますので、各種手続が完了するまで大切に保管してください。

定額小為替金受領証書

見本 表

01234-567890

300円

料金 100円

発行日付印

発行日付印

（お客さま控）

（お客さま控）

教材購入用紙 (丸沼書店用)

市販教材 (市販本) 購入用

※**丸沼**印の教材を郵送にて購入の際は、この用紙で申し込んでください。
 詳細は、「使用教材の購入」のページを参照してください。

(送付先) 丸沼書店

平成 25 年度 昼間スクーリング			
申 込 日	平成 25 年 月 日		
科 目 名	書 名	教材費 (税込)	送 料
小 計		円	円
合 計		円	
購入方法 (いずれかに○)	①代金引換 ②定額小為替・郵便為替 ③現金書留		

※下記の住所、氏名の欄は返信用に使用しますのではっきり書いてください。

送 り 先	住 所	〒 ー
	氏 名	
	電 話 番 号	()

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。
 ※不足する場合は複写の上、使用してください

購入方法は裏面を参照してください。

【購入方法】

(1) ～ (3) の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上，下記宛に郵送又は FAX をしてください。

(2) 郵便為替（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して下記へ郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額を同封して下記へ郵送してください。

不明な場合は，丸沼書店に直接問い合わせてください。

※送料について

送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので，郵便為替・現金書留の場合，ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については，ご返金いたします。また，代金引換払の場合，書籍代＋送料（実費）＋手数料（250 円）を受取時にお支払いください。

（書 店 名）（株）丸沼書店
（所 在 地）〒 101 - 0061
東京都千代田区三崎町 2 - 8 - 12
（電 話 ） 03 - 3261 - 4540
（F A X） 03 - 3261 - 0118
（営 業 時 間） 9：00 ～ 20：00（日曜日は休み）

日本大学通信教育部 御中
(提出先：会計課)

教材購入願 (通信教育教材用)

学 生 番 号						氏 名	フリガナ
連絡先電話番号 (携帯電話可)						- -	

(太線枠内にボールペンで記入してください)

	教材コード	科 目 名	金 額	スクーリング種別 講 座 名
1	0 0 0			
2	0 0 0			
3	0 0 0			
4	0 0 0			
5	0 0 0			
6	0 0 0			
合計科目数		合計金額		
		円		

※ボールペンで記入してください。

※「教材コード・科目名・金額」は『部報』・『各種スクーリング手引』で確認し、必ず記入してください。
「教材コード」と「科目コード」は異なりますので、注意してください。

※「スクーリング種別」にはスクーリング・メディア授業において通信教育部教材を使用する場合にのみ記入してください。

※『スクーリングの手引』における各講座の「シラバスと使用教材」の教科書(参考書)欄で指定されているもの、例えば、「**通材**『教育カウンセリング論 0947……』」と記載されている教材を購入する場合は「教育カウンセリング論」を科目名として記入してください(受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入)。

会計課領収印

「通信教育教材」の購入について

『通信教育教材』を購入する場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本）』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

1 購入手続

① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口（本館1階）へ提出してください（なるべく釣り銭のないようにしてください）。

② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

(1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。その際、必ず釣り銭のないようにしてください。

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償ありませんので、必ず現金書留を利用してください。

(2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用してください。

為替には何も記入せず送付してください。

2 教材購入対象者

- ① 面接授業（スクーリング）、メディア授業で『通信教育教材』を使用する場合
- ② 教材を紛失した場合
- ③ 学習する際に、参考として使用する場合
- ④ 教材が改訂された場合

3 注意事項

- ① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もしませんので注意してください。
- ② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、**窓口ではお渡ししません。**
教材が手元に届くまでに約1週間要しますので、特にスクーリング、メディア授業で使用する場合は「受講許可通知書」を確認した後、速やかに購入手続きをしてください。
- ③ 「教材購入願」で入手した教材でレポート提出はできません。レポート＋科目修得試験方式、スクーリング併用試験方式、メディア授業併用試験方式で単位修得する場合は、履修登録（履修届・追加科目履修届）で教材を入手してください。

平成 25 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先：学生課)

軽井沢オリエンテーション参加申込書 155050

学 生 番 号								年 齢	歳
氏 名	フリガナ								性 別
									男 ・ 女
現 住 所	〒 -								
電 話 番 号	自 宅 ()								
	携 帯 ()								
参 加 方 法 (いずれかを ○で囲む)	1 通信教育部から バスで往復 (参加費用 10,000 円)				2 現 地 集 合 (参加費用 4,600 円)				

※必ず詳細を『部報』4月号〇〇ページにて確認の上、費用と共に学生課へ申込みしてください（郵送の場合は現金書留で会計課へ送付してください。5月1日（水）必着）。

※本登録書による情報は、オリエンテーション運営のために使用します。

※年齢は平成25年5月18日（土）時点の年齢を記入してください。

※一度申込みした参加費用は一切返金いたしません。また、参加方法の変更もできません。

学生課受付印	会計課受付印

郵便はがき

切手貼付

特定記録郵便
をお勧めします

101-8354

東京都千代田区三崎町2-2-3

日本大学通信教育部教務課
昼間スクーリング 係

差 出 人	学 生 番 号					
	氏 名					

※ 郵便事故による受講届未着の場合、受講ができません。
特定記録郵便 [210円切手貼付] をお勧めいたします。

内を必ず御記入ください

平成25年 月 日作成

平成25年度 昼間スクーリング受講届〔01〕

	曜日	時限	講座コード		講座名	充当科目コード			
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									

※保健体育講義Ⅰ及び体育実技を申し込む場合、曜日時限の記入は不要

※提出締切日 4月19日（金）【締切日までの消印有効】

※書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。

※本票は上記スクーリングの受講に関する事項についてのみ使用すること。

申 込 講 座 数	講座							
学 生 番 号								
フリガナ								
氏 名								

【校舎案内】



- JR中央線・総武線（各駅停車）「水道橋」駅下車 徒歩5分
- 都営地下鉄三田線「水道橋」駅下車 徒歩6分
- 都営地下鉄三田線・新宿線，東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車 徒歩7分



DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

編集兼発行人 福田弥夫 〒101-8354東京都千代田区三崎町2-2-3 日本大学通信教育部